



## Business Intelligence 起動パッドユーザガイド

■ SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform 4.1 Support Package 1

2013-10-02

## 著作権

© 2013 SAP AG or an SAP affiliate company. All rights reserved.本書のいかなる部分も SAP AG の明示的許可なしに、いかなる形式、目的を問わず、複写、または送信することを禁じます。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP AGがライセンス、またはその頒布業者が頒布するソフトウェア製品には、他のソフトウェア会社の専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。これらの文書は SAP AG およびその関連会社（「SAP グループ」）が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAP グループは文書に関する錯誤又は脱漏等に対する責任を負うものではありません。SAP グループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。SAP、および本書で言及されるその他 SAP の製品およびサービス、ならびにそれらのロゴは、ドイツおよびその他諸国における SAP AG の商標または登録商標です。商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/japan/company/legal/copyright/index.epx>をご覧ください。

2013-10-02

# 目次

第 1 章	ドキュメント履歴.....	9
第 2 章	はじめに.....	11
2.1	このドキュメントについて .....	11
2.2	このドキュメントの対象読者.....	11
2.3	BI ラウンチパッドとは.....	11
2.4	BI 起動パッドの新機能 .....	12
2.5	ライセンス.....	13
2.6	基本概念.....	13
2.7	主要タスク.....	14
第 3 章	BI ラウンチパッドの基本.....	15
3.1	ユーザインタフェース.....	15
3.1.1	タブ.....	15
3.1.2	ヘッダー パネル.....	20
3.2	BI ラウンチパッドにログオンする.....	20
第 4 章	基本設定の設定.....	23
4.1	基本設定の設定.....	23
4.1.1	全般基本設定を設定する.....	23
4.1.2	パスワードを変更する.....	24
4.1.3	優先表示ロケール.....	24
4.1.4	Crystal レポートの表示の基本設定を設定する.....	25
4.1.5	BI ワークスペースの基本設定を設定する.....	26
4.1.6	Analysis edition for OLAP の基本設定を設定する.....	27
4.1.7	Web Intelligence 基本設定.....	27
第 5 章	オブジェクトの表示.....	33
5.1	オブジェクトの表示.....	33
5.1.1	オブジェクトを表示する.....	33
5.1.2	オブジェクトを最新表示する.....	34
5.1.3	古いインスタンスを表示する.....	34

5.1.4	将来表示するためにタブをピン留めする.....	34
5.1.5	レポートをより大きな表示領域で開く.....	35
5.2	Crystal レポートの表示.....	35
5.2.1	Crystal レポートビューア.....	35
5.2.2	SAP Crystal Reports viewer 2011.....	40
5.2.3	Crystal レポートデータをドリルダウンする.....	41
5.2.4	Crystal レポートにアラートを表示する.....	42
5.2.5	Web ビューアで Crystal レポートのパラメータを表示および編集する.....	42
5.2.6	Crystal レポートを印刷する.....	42
5.2.7	Crystal レポートをエクスポートする.....	43
5.2.8	データをインタラクティブに並べ替える.....	45
5.3	Web Intelligence ドキュメントの表示.....	45
5.3.1	Web Intelligence ビューアツールバー.....	45
5.3.2	ナビゲーションマップを表示する.....	48
5.3.3	ユーザプロンプトを表示する.....	48
5.3.4	テキストを検索する.....	49
5.3.5	ドキュメントデータをドリルする.....	49
<b>第 6 章</b>	<b>オブジェクトの使用.....</b>	<b>51</b>
6.1	オブジェクトを管理する.....	51
6.2	新規オブジェクトの作成と追加 .....	51
6.3	コンピュータから BI ラウンチパッドにドキュメントを追加する.....	52
6.4	サードパーティのソースドキュメントを置換する.....	52
6.5	オブジェクトの並べ替えとフィルタ処理 .....	53
6.5.1	リポジトリのオブジェクトをフィルタリングする.....	53
6.5.2	フィルタを削除する.....	54
6.6	オブジェクトプロパティを設定する .....	54
6.7	オブジェクトをコピーする.....	54
6.8	オブジェクトを移動する.....	55
6.9	オブジェクトへのショートカットを作成する.....	55
6.10	オブジェクトまたはインスタンスを出力先に送信する .....	55
6.11	オブジェクトへの OpenDocument リンクを作成する.....	56
6.12	オブジェクトを削除する.....	56
6.13	オブジェクトへのハイパーリンクを作成する.....	57
6.14	検索の機能.....	57
6.15	検索対象.....	59
6.16	検索テクニック.....	61
6.17	BI ラウンチパッドで検索を実行する.....	63
6.18	フォルダとカテゴリ.....	64
6.18.1	フォルダまたはカテゴリを作成する.....	65
6.18.2	フォルダまたはカテゴリのプロパティを設定する.....	65

6.18.3	フォルダへのオブジェクトの追加.....	66
6.18.4	オブジェクトをカテゴリに割り当てる.....	66
<b>第 7 章</b>	<b>オブジェクトのスケジュール.....</b>	<b>67</b>
7.1	オブジェクトのスケジュール.....	67
7.2	オブジェクトをスケジュールする.....	67
7.2.1	スケジュールされたインスタンスにラベルを設定する.....	68
7.2.2	定期的なスケジュールパターンを選択する.....	68
7.2.3	データベースログオン情報を指定する.....	71
7.2.4	インスタンス形式を選択する.....	71
7.2.5	出力先を選択する.....	79
7.2.6	レコード選択式を適用する.....	93
7.2.7	Crystal レポートの印刷設定を選択する.....	94
7.2.8	パラメータ (プロンプト) でオブジェクトをスケジュールする.....	95
7.2.9	イベントでオブジェクトをスケジュールする.....	95
7.2.10	スケジュールするオブジェクトのサーバグループを選択する.....	96
7.2.11	Web Intelligence ドキュメントのキャッシュ形式を選択する.....	96
7.2.12	Crystal レポートインスタンスの言語を選択する.....	97
7.3	インスタンスの一時停止および再開.....	97
7.3.1	インスタンスを一時停止する.....	97
7.3.2	一時停止したインスタンスを再開する.....	98
7.4	オブジェクトパッケージのスケジュール.....	98
7.4.1	オブジェクトパッケージをスケジュールする.....	99
7.5	インスタンスの使用.....	99
7.5.1	オブジェクトの最新のインスタンスを表示する.....	99
7.5.2	履歴インスタンスの表示.....	100
<b>第 8 章</b>	<b>コラボレーションの使用.....</b>	<b>103</b>
8.1	コラボレーション列.....	103
8.1.1	コラボレーション列のアイコン.....	104
8.1.2	コラボレーション列を表示する.....	104
8.1.3	コラボレーション列を非表示にする.....	105
8.2	フィードパネル.....	105
8.2.1	[コラボレーション] ドロワ機能.....	105
8.2.2	フィードパネルを開く.....	106
8.2.3	フィードパネルをサイズ変更する.....	107
8.3	SAP StreamWork のカスタムホームページを表示する.....	107
8.4	コラボレーションに必要なアクセス権.....	107
8.5	ドキュメントのフィード.....	108
8.5.1	フィードを最新表示する.....	108
8.5.2	新しいタブでインスタンスのコラボレーションコメントを表示する.....	109

8.5.3	OpenDocument リンクを介してコラボレーションコメントを表示する .....	109
8.5.4	フィードをフォローする.....	110
8.5.5	フィードにコメントを投稿する.....	110
8.5.6	フィードのフォローを停止する.....	111
8.6	SAP StreamWork にコンテンツをスケジュールする.....	111
8.7	SAP StreamWork にコンテンツを送信する.....	112
<b>第 9 章</b>	<b>公開.....</b>	<b>115</b>
9.1	公開について.....	115
9.2	パブリケーションとは.....	115
9.3	公開の概念.....	115
9.3.1	レポートバースト.....	116
9.3.2	配信ルール.....	117
9.3.3	動的受信者.....	119
9.3.4	パブリケーション配信出力先.....	120
9.3.5	パブリケーションソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ .....	127
9.3.6	電子メールフィールドのパーソナライズされたプレースホルダ .....	127
9.3.7	形式.....	128
9.3.8	パーソナライゼーション.....	131
9.3.9	パブリケーション拡張.....	132
9.3.10	購読.....	132
9.3.11	Crystal レポートの場合の PDF ファイルのマージ.....	133
9.4	公開に必要なアクセス権.....	133
9.4.1	公開者と受信者: 表示する内容とアクセス権.....	137
<b>第 10 章</b>	<b>パブリケーションの使用.....</b>	<b>139</b>
10.1	パブリケーションのデザイン.....	139
10.1.1	Live Office 用のパブリケーションのデザイン.....	139
10.1.2	SAP 受信者用パブリケーションの設計.....	139
10.1.3	CMC で新しいパブリケーションを作成する .....	140
10.1.4	BI ラウンチパッドで新しいパブリケーションを作成する.....	140
10.1.5	パブリケーションを開く.....	141
10.1.6	パブリケーションに一般プロパティを定義する.....	141
10.1.7	ソースドキュメントを選択する.....	141
10.1.8	Enterprise 受信者を選択する.....	142
10.1.9	動的受信者を選択する.....	143
10.1.10	パブリケーションの出力先を選択する.....	144
10.1.11	定期的なスケジュールパターンを選択する.....	152
10.1.12	パブリケーションソースドキュメントに対してパーソナライズされたプレースホルダを選択する.....	155
10.1.13	電子メールに動的ソースドキュメントのコンテンツを埋め込む.....	155
10.1.14	Crystal レポートのデザインタスク.....	156

10.1.15	Web Intelligence ドキュメントのデザインタスク.....	171
10.1.16	オブションのパブリケーション機能.....	173
10.2	パブリケーションのデザイン後のタスク.....	177
10.2.1	パブリケーションの最終処理.....	177
10.2.2	パブリケーションをテストする.....	178
10.2.3	パブリケーションを購読または購読解除する.....	178
10.2.4	パブリケーションの実行をスケジュールする.....	179
10.2.5	パブリケーションの結果を表示する.....	179
10.2.6	パブリケーションインスタンスを再配布する.....	183
10.2.7	失敗したパブリケーションを再試行する.....	183
10.3	パブリケーションパフォーマンスの向上.....	184
10.3.1	ソースドキュメントの追加に関する推奨事項.....	186
10.3.2	動的受信者ソースの使用に関する推奨事項.....	187
10.3.3	電子メールのパブリケーションインスタンスの送受信に関する推奨事項.....	188
<b>第 11 章</b>	<b>アラートの使用.....</b>	<b>189</b>
11.1	アラート.....	189
11.1.1	アラートソース.....	190
11.1.2	アラートと Crystal レポートアラート通知の相違点.....	190
11.1.3	アラートワークフロー.....	191
11.1.4	アラートに必要なアクセス権.....	192
11.1.5	BI 起動パッドにおけるアラートソースオブジェクトの検索.....	194
11.1.6	アラート通知の表示.....	195
11.2	アラートタスク.....	195
11.2.1	アラートを購読する.....	195
11.2.2	アラートを購読解除する.....	196
11.2.3	他のユーザをアラートの購読者として指定する.....	196
11.2.4	ユーザをアラートから除外する.....	197
11.2.5	アラートソースのカスタムアラート設定を管理する.....	197
<b>第 12 章</b>	<b>アプリケーションの使用.....</b>	<b>199</b>
12.1	BI ラウンチパッドにおけるアプリケーションの処理.....	199
12.2	BI ラウンチパッドでアプリケーションを起動する.....	199
12.3	BI ラウンチパッドでの BEx Web アプリケーション.....	199
12.3.1	BI ラウンチパッドで BEx Web アプリケーションにアクセスする.....	200
12.3.2	BEx Web アプリケーションをブックマークとして保存する.....	200
<b>第 13 章</b>	<b>ディスカッションの使用.....</b>	<b>203</b>
13.1	ディスカッションの使用.....	203
13.1.1	[ディスカッション] ドロウを開く.....	203

13.1.2	メモを追加する.....	203
13.1.3	メモを編集する.....	204
13.1.4	メモに返信する.....	204
13.1.5	メモを削除する.....	205
付録 A	より詳しい情報.....	207
	索引	209



## ドキュメント履歴

以下の表は、最も重要なドキュメント変更の概要です。

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1	2013 年 5 月	<p>SAP Jam のサポートが追加されました。SAP Jam を統合すると、ソーシャルメディア機能およびコラボレーション機能が BI ラウンチパッドに追加されます。</p> <p>追加のコラボレーションアクセス権がユーザおよびグループに追加されました。コラボレーションのフィードパネルには、インスタンスおよび時刻のドロップダウンリストおよびフィードのフォローまたはフォロー解除のためのボタンが含まれています。SAP Jam または SAP StreamWork のテンプレートドキュメントをフォローすると、関連するすべてのインスタンスを自動的にフォローすることになります。インスタンスに関するコメントは特定のインスタンスに対してのみ投稿されます。</p> <p>ドキュメントおよびインスタンスへの OpenDocument リンクは、タブ上で、またはリンクから開くことができます。OpenDocument リンクからドキュメントまたはインスタンスを表示しているときに、SAP StreamWork のフィードパネルを開いて、ドキュメントフィードをモニタリングしたり、それに返信したりすることができます。</p> <p>[出力先] ダイアログボックスに [ファイル拡張子を追加する] チェックボックスが追加されました。</p>

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 サポートパッケージ 1	2013 年 8 月	<p>このガイドは以下の情報を掲載するため更新されました。</p> <p><b>注</b></p> <p>BI ラウンチパッドの 1 つのセッションを同時に実行できます。タブ (設定によりウィンドウ) を使用して、複数のオブジェクトとアプリケーションを表示できます。</p>

# はじめに

## 2.1 このドキュメントについて

このドキュメントでは、SAP BusinessObjects Business Intelligence (BI) プラットフォームと BI ラウンチパッドの使用に関する情報と手順を示します。

BI 起動パッドは Web ブラウザで実行され、BI プラットフォームでオブジェクトを使用する場合の主要なインターフェースです。管理者は、BI プラットフォームプラグインコンポーネントから作成された Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメントなど、さまざまな種類のオブジェクトをデプロイできます。BI 起動パッドを使用して、ユーザのニーズに合わせてこれらのオブジェクトを表示、整理、操作します。

### 注

BI 起動パッドの表示や機能はカスタマイズできるため、実際のユーザインターフェースは、このドキュメントと異なる場合があります。それでも、ほとんどの内容をユーザインターフェースに適用することができます。

## 2.2 このドキュメントの対象読者

このドキュメントは、BI プラットフォームおよび BI ラウンチパッドを使用して Web を介したオブジェクト操作を行うユーザを対象としています。

BI プラットフォームの詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) にある『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド』および『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

## 2.3 BI ラウンチパッドとは

SAP BusinessObjects Business Intelligence (BI) プラットフォームには BI ラウンチパッドが付属しています。BI ラウンチパッドは、会社のビジネス情報への窓口として機能する Web アプリケーションです。BI ラウンチパッドを使用して、以下のタスクを行うことができます。

- ・ Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、およびその他のオブジェクトにアクセスして構成する。
- ・ 情報を Web ブラウザで表示し、他のビジネスアプリケーション (Microsoft Excel や SAP Jam など) にエクスポートし、指定した場所に保存する。

- ・ アナリティクスツールを使用して、ビジネス情報を詳細に調査する。

ユーザは、BI ラウンチパッドの 1 つのセッションのみにログオンできます (別のブラウザタブまたはウィンドウで、複数の BI ラウンチパッドのセッションを実行することはできません)。

#### 注

BI ラウンチパッドの機能はコンテンツタイプによって異なります。また、BI ラウンチパッドで使用できるアプリケーションはアクセス権に応じて異なります。導入している BI プラットフォームデプロイメントの機能については、システム管理者に確認してください。

## 2.4 BI 起動パッドの新機能

### SAP Jam

SAP Jam はコラボレーションオプションとして Business Intelligence (BI) ラウンチパッドに追加されました。SAP Jam を統合すると、ソーシャルメディア機能およびコラボレーション機能が BI ラウンチパッドに追加されます。

### コラボレーションの向上

SAP Jam を追加すると、BI ラウンチパッドで 2 つのコラボレーションオプションがサポートされます。コラボレーションアプリケーションを使用するには、管理者がセントラル管理コンソール (CMC) でコラボレーションアプリケーションを設定する必要があります。

両方のコラボレーションアプリケーションとも、次の拡張をサポートしています。

- ・ 新しいビューアオプション
- ・ BI ラウンチパッドとの統合性の向上
- ・ 新しいアクセス権
- ・ OpenDocument リンクからドキュメントまたはインスタンスを開いたときの、フィードへのコメントの追加

### 任意のビューアで詳細パネルを開く

詳細パネルは、BI ラウンチパッドのあらゆる場所から開くことができ、OpenDocument リンクを使用している場合はビューアのあらゆる場所から開くことができます。

### スケジュール時にファイル拡張子を自動的に追加する

[出力先] ダイアログボックスで [ファイル拡張子を追加する] をオンにしておくと、レポートおよびパブリケーションのスケジュール時にファイル拡張子がファイル名に自動的に追加されます。チェックボックスはデフォルトではオンになっています。

次の出力先の場所にスケジュールする場合は、ファイル拡張子のプレースホルダを追加することもできます。

- ・ BI 受信ボックス
- ・ 電子メール
- ・ FTP サーバ
- ・ ファイルシステム

### 警告

ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。

## 2.5 ライセンス

BI プラットフォームでは、以下のタイプのユーザライセンスをサポートしています。

- ・ BI ビューア
- ・ BI アナリスト
- ・ 同時接続ユーザ
- ・ 指定ユーザ

ライセンスタイプによって、特定のタスクとアプリケーションに対するアクセスが許可または制限されます。お持ちのライセンスによって、特定のアプリケーションへのアクセス、コンテンツの作成、リポジトリへのドキュメントの追加ができないことがあります。お持ちのライセンスについては、システム管理者に問い合わせてください。ライセンスの詳細については、SAP ヘルプポータルにある、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド 』(<http://help.sap.com>) を参照してください。

## 2.6 基本概念

始める前に、BI ラウンチパッドの基本概念を一読してください。実行するタスクによっては、該当しない概念もあります。

### オブジェクト

オブジェクトは、BI プラットフォームまたはその他のソフトウェアで作成され、BI プラットフォームリポジトリに保存され管理されるドキュメントまたはファイルです。

### カテゴリ

カテゴリは、フォルダの代替となる組織的な構成です。オブジェクトの分類に使用します。

### スケジュール

スケジュールは、指定した時間に自動的にオブジェクトを実行するプロセスです。スケジュールによって、オブジェクト内の動的コンテンツまたはデータの最新表示、インスタンスの作成、ユーザへのインスタンスの配布、ローカルへの保存が実行されます。

### イベント

イベントは、BI プラットフォームシステム内のオカレンスを表すオブジェクトです。イベントは、次の目的に使用できます。

- ・ スケジュールされたジョブの実行後にアクションをトリガする、スケジュール依存関係として動作する。
- ・ アラート通知をトリガする。
- ・ BI プラットフォームのパフォーマンスを監視する。

#### カレンダー

カレンダーは、スケジュールされたジョブの実行日をカスタマイズしたリストです。

#### インスタンス

インスタンスは、オブジェクトを実行した時刻以降のデータを含むオブジェクトのスナップショットです。

#### 公開

公開は、パーソナライズした動的コンテンツを大量消費するために一般に公開するプロセスです。

#### プロフィール

プロフィールは、ユーザおよびグループをパーソナライズした値に関連付けるオブジェクトです。プロフィールは、パーソナライズしたコンテンツを作成し、受信者に配布するために、公開に使用します。

#### アラート

アラートは、BI プラットフォームでイベントが発生するとユーザおよび管理者に通知するプロセスです。

## 2.7 主要タスク

ここでは、BI ラウンチパッドの次の主要タスクについて説明します。

- ・ BI ラウンチパッドでのオブジェクトの表示
- ・ BI 起動パッドへのオブジェクトの追加
- ・ 追加したオブジェクトの変更および管理
- ・ ユーザへのコンテンツ配布
- ・ SAP Jam または SAP StreamWork でのコンテンツの使用
- ・ 個人用の基本設定の設定

## BI ラウンチパッドの基本

### 3.1 ユーザインタフェース

#### 3.1.1 タブ

オブジェクトまたはアプリケーションを開くとタブに表示されます。BI ラウンチパッドでは複数のタブ（複数のオブジェクトおよび複数のアプリケーション）を同時に開くことができます。

BI 起動パッドには、[ホーム] タブと [ドキュメント] タブの 2 つのデフォルトタブがあります。システム管理者は、SAP Jam 用などの追加のカスタムホームタブを必要に応じて設定できます。

##### 注

ドキュメント表示の基本設定でオブジェクトをタブではなくウィンドウで開くように設定できます。

##### ヒント

より大きい表示エリアでオブジェクトを表示するには、任意のタブツールバーの  をクリックします。

##### 3.1.1.1 ホームタブ

[ホーム] タブを使用して、ドキュメントおよび BI ラウンチパッドの機能を管理します。デフォルトの [ホーム] タブには次のエリアがあります。

- ・ 最近表示したドキュメント: 最近表示したドキュメント 10 件が、最も新しい表示日付のドキュメントが最上段に表示されるようにソートされて一覧にされます。
- ・ マイ受信ボックスの未読メッセージ数: BI 受信ボックスにおける最近の未読メッセージ 10 件が一覧にされます。

すべてのメッセージを表示するには、モジュールの右下隅にある [その他を表示] をクリックします。

- ・ 最近実行したドキュメント: スケジュールまたは実行したリポジトリの最近のドキュメント 10 件が、それぞれのドキュメントインスタンスのステータスとともに表示されます。

成功したインスタンス、または失敗したインスタンスの詳細を表示するには、インスタンスリンクをクリックします。

- ・ 未読アラート: 最近の未読アラート通知 10 件が表示されます。  
すべてのアラート通知を表示するには、モジュールの右下隅にある [その他を表示] をクリックします。
- ・ マイアプリケーション: BI ラウンチパッドにおけるアプリケーションへの迅速なアクセスを提供します。

#### カスタムホームタブ

システム管理者は、ユーザやグループに対し、カスタマイズされたダッシュボード、よく使用する Crystal レポート、Web サイト、SAP Jam モジュールなどのオブジェクトを含むカスタムホームタブを作成できます。適切なアクセス権限がある場合、カスタムホームタブを BI ラウンチパッドの基本設定で選択できます。

#### SAP Jam または SAP StreamWork カスタムホームタブ

適切なアクセス権限がある場合、SAP Jam または SAP StreamWork カスタムホームタブを BI ラウンチパッドの全般基本設定で選択できます。

### 3.1.1.2 ドキュメントタブ

[ドキュメント] タブを使用して、リポジトリのオブジェクトを表示および管理します。



## 3.1.1.2.1 ツールバー

ツールバーのボタンを使用して、オブジェクトの表示および管理を行います。

オプション	説明
[表示] メニュー	オブジェクト、オブジェクトの最新インスタンス、およびオブジェクトプロパティの表示に使用します。
[新規作成] メニュー	ドキュメントのアップロード、および次のタイプの新規オブジェクトの作成に使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ローカルドキュメント</li> <li>パブリケーション</li> <li>ハイパーリンク</li> <li>フォルダ</li> <li>カテゴリ</li> </ul>
[整理] メニュー	オブジェクトのショートカットの管理や、オブジェクト（メッセージなど）のカット、コピー、ペースト、削除に使用します。また、静的ドキュメント（Microsoft Word ファイル、Adobe PDF ファイル、Microsoft Excel ファイルなど）を新しいバージョンのドキュメントと交換するときに使用します。
[送信] メニュー	ドキュメントまたはインスタンスを出力先に送信するときに使用します。利用できる送信先は、BI ラウンチパッドの設定によって異なります。
[その他のアクション] メニュー	次のタスクの実行に使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>オブジェクトをスケジュールする</li> <li>オブジェクトの履歴を表示する</li> <li>オブジェクトをカテゴリに追加する</li> <li>オブジェクトが属しているカテゴリを表示する</li> <li>オブジェクトに OpenDocument リンクを作成する</li> <li>ドキュメントをフォローする（CMC でコラボレーションが有効になっている場合）</li> </ul> <p>使用できるアクションは、オブジェクトタイプおよびアクセス権限により異なります。</p>
[詳細] ボタン	

オプション	説明
	<p>ドキュメントの詳細パネルの表示/非表示を切り替えるときに使用します。</p> <p><b>ヒント</b>          または、詳細パネルの左端にある[&lt;]をクリックしてパネルを開くこともできます。パネルを開くとボタンは[&gt;]に変わります。詳細パネルを最小化するには、[&gt;]をクリックします。</p> <p><b>注</b>          BI ラウンチパッドが SAP Jam または SAP StreamWork と統合されている場合、このパネルはフィードパネルと呼ばれます。</p>

### 3.1.1.2.2 ナビゲーション パネル

ナビゲーションパネルには、BI プラットフォームのフォルダおよびカテゴリの最上位のビューが表示されます。

### 3.1.1.2.3 ドロワ

ドロワはナビゲーションパネル上で拡張できるペインで、詳細パネル上にあります。

ドロワを拡張または最小化するには、ドロワをクリックします。ユーザのアクセス権限によっては、ドロワでオブジェクトが表示されない場合があります。

ナビゲーションパネルには、次のドロワがあります。

- ・ マイドキュメント: ユーザのお気に入りフォルダ、BI 受信ボックス、マイアラートフォルダ、購読済みアラート、および個人用カテゴリが含まれます。
- ・ フォルダ: リポジトリのフォルダビューが表示されます。
- ・ カテゴリ: リポジトリのカテゴリビューが表示されます。
- ・ 検索: 検索オプションと検索結果が表示されます。

詳細パネルには、次のドロワがあります。

- ・ 概要: 選択したオブジェクトの情報(所有者、内容説明、ドキュメントタイプ、インスタンス数、最後にインスタンスが実行された時刻)が表示されます。
- ・ コラボレーション: (BI ラウンチパッドが、SAP Jam または SAP StreamWork とコラボレーションできるように設定されている場合)
- ・ ディスカッション: (BI ラウンチパッドでディスカッションが有効になっている場合)

### 3.1.1.2.4 一覧パネル

一覧パネルには、フォルダまたはカテゴリにあるオブジェクトの一覧ビューが表示されます。

### 3.1.1.2.5 詳細パネル

詳細パネルには、オブジェクトに関する概要情報を表示するドロワが含まれます。ドロワ内の情報にアクセスするには、ドロワをクリックします。

詳細パネルの [概要] ドロワには、オブジェクトに関する次の情報が表示されます。

- ・ 所有者
- ・ 説明
- ・ オブジェクトタイプ
- ・ インスタンスの数
- ・ 前回実行した日付 (スケジュール可能なオブジェクト)

SAP Jam または SAP StreamWork が BI ラウンチパッドに統合されている場合、このパネルはフィードパネルと呼ばれ、[コラボレーション] ドロワが含まれます。ドキュメントのフィードを表示するには、ドロワをクリックします。

BI ラウンチパッドのディスカッションが有効化されていて、オブジェクトおよび関連するメモに表示権限が割り当てられている場合は、詳細パネルで [ディスカッション] ドロワを利用できます。ドキュメントに関する投稿コメントを表示するには、[ディスカッション] ドロワをクリックします。

#### 注

デフォルトでは、ディスカッションは無効です。ディスカッションを有効にするには、システム管理者にお問い合わせください。

### 詳細パネルを開く

詳細パネルは、BI ラウンチパッドのあらゆる場所から開くことができ、OpenDocument リンクを介してドキュメントを表示しているときにも開くことができます。

#### 注

SAP Jam または SAP StreamWork とのコラボレーションが CMC で有効になっている場合、詳細パネルはフィードパネルと呼ばれます。

- ・ 詳細パネルの左端にある [く] をクリックします。

#### 注

BI ラウンチパッドのツールバーで [詳細] をクリックすることもできます。

詳細パネルが、[概要] ドロワが開いた状態で表示されます。ドキュメントまたはインスタンスをクリックすると概要情報を表示できます。

SAP Jam または SAP StreamWork が BI ラウンチパッドに統合されている場合、代わりに [コラボレーション] ドロワが表示されます。

ディスカッションが有効になっている場合は、代わりに [ディスカッション] ドロワが表示されます。

### 詳細パネルのサイズを変更する

詳細パネルのサイズは、BI ラウンチパッドのあらゆる場所から変更できます。

**注**

BI ラウンチパッドが、SAP Jam または SAP StreamWork とコラボレーションできるように設定されている場合、このパネルはフィードパネルと呼ばれます。

- ・ 詳細パネルのサイズを変更するには、パネルの左端をクリックして、必要な幅の位置までドラッグします。

**詳細パネルを閉じる**

詳細パネルは、BI ラウンチパッドのあらゆる場所から閉じることができ、OpenDocument リンクを介してドキュメントを表示しているときにも閉じることができます。

- ・ 詳細パネルの左端にある [X] をクリックします。

**注**

BI ラウンチパッドのツールバーで [詳細] をクリックすることもできます。

### 3.1.2 ヘッダー パネル

ヘッダパネルには、BI ラウンチパッドにログオンしているユーザアカウント名が表示され、次のメニューが含まれます。

- ・ アプリケーション: BI ワークスペースなど、BI ラウンチパッドのプラグインアプリケーションにアクセスできます。使用できるアプリケーションはアクセス権によって異なります。
- ・ 基本設定: BI ラウンチパッドでの情報の表示方法を設定します。
- ・ [ヘルプ] メニュー: BI ラウンチパッドのヘルプ、および製品情報を含む [バージョン情報] ダイアログボックスにアクセスできます。

BI 起動パッドからログオフするには、[ログオフ] をクリックします。

## 3.2 BI ラウンチパッドにログオンする

ユーザは、BI ラウンチパッドの 1 つのセッションのみにログオンできます (別のブラウザタブまたはウィンドウで、複数の BI ラウンチパッドのセッションを実行することはできません)。

BI ラウンチパッドにログオンするには、コンピュータに Microsoft Internet Explorer、Firefox、または Safari (Macintosh ユーザ用) をインストールしておく必要があります。

- 1 Web ブラウザで、BI ラウンチパッドの URL「http://<Web サーバ>:<ポート番号>/BOE/BI/」を入力します。  
<Web サーバ> を Web サーバの名称に、<ポート番号> を BI プラットフォームのポート番号に置き換えます。

システム管理者が BI ラウンチパッドのカスタム URL を設定している場合、管理者に Web サーバの名称、ポート番号、または URL を問い合わせる必要がある場合があります。

### ヒント

Windows に BI プラットフォームクライアントツールをインストールしている場合は、[スタート] > [プログラム] > [SAP Business Intelligence] > [ SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム Java BI ラウンチパッド] をクリックします。

デフォルトでは、システム名を入力する必要はありません。ただし、一部のエンタープライズシステムではシステム名の入力が必要される場合があります。

- 2 入力を要求されたら、[システム] ボックスに Central Management Server (CMS) の名前を入力します。
- 3 [ユーザ名] ボックスと [パスワード] ボックスに、ログオン認証情報を入力します。

デフォルトでは、認証の種類の選択は要求されません。ただし、一部のエンタープライズシステムではシステム名の入力が必要される場合があります。

- 4 選択を要求されたら、[認証] リストで認証の種類を選択します。

Enterprise 認証は、デフォルトの認証方法です。LDAP、Windows AD、Windows NT、およびその他のサードパーティの認証の種類には、特別な設定が必要です。使用する認証の種類が不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。認証の種類に関する詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

- 5 [ログオン] をクリックします。

BI ラウンチパッドが開き、デフォルトの [ホーム] タブが表示されます。



## 基本設定の設定

### 4.1 基本設定の設定

基本設定により、BI ラウンチパッドへのログオン方法、表示されるビュー、および表示されるオブジェクトに適用される設定が決定されます。

システム管理者が割り当てるアクセス権限によって、独自の基本設定を設定できるかどうかが決まります。管理者が自分に対して基本設定を設定している場合、基本設定は変更できません。BI ラウンチパッドを使用し始める前に、基本設定が設定されているかどうかをチェックし、未設定の場合は設定します。

#### 4.1.1 全般基本設定を設定する

BI ラウンチパッドの全般基本設定では、ソフトウェアのデフォルトビューの外観を設定します。

システム管理者が、インストール時に初期（デフォルト）の基本設定を設定します。デフォルトの設定のままにすることも、独自の基本設定を設定することもできます。

##### 注

管理者がユーザのユーザグループを更新すると、ユーザが設定した基本設定はデフォルト設定に戻ります。

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。  
[基本設定] ダイアログボックスに全般基本設定オプションが表示されます。
- 2 [基本設定] ダイアログボックスで、[全般] をクリックします。
- 3 [デフォルト設定の使用 (Administrator 定義済み)] チェックボックスをオフにします。  
このオプションは編集することができ、変更するまではデフォルト値が含まれます。

##### ヒント

BI ラウンチパッドビューを管理者が設定したデフォルト基本設定（ビューのカスタマイズ後に実装されたすべての更新を含む）に戻すには、[デフォルト設定の使用 (Administrator 定義済み)] を選択します。[基本設定] ダイアログボックスのオプションが更新され、継承された値が表示されて、値が読み取り専用になります。

- 4 BI ラウンチパッドを起動したときに表示するビューを選択します。
  - a [ホーム] タブを表示するには、[ホーム] タブを選択して、次のオプションのいずれかを選択します。

- ・ 管理者が設定したデフォルトビューを選択するには、[デフォルトの [ホーム] タブ] を選択します。管理者がデフォルトの BI ラウンチパッドビューを設定していない場合は、BI プラットフォームの [ホーム] タブが使用されます。
  - ・ カスタムビューを選択するには、[[ホーム] タブの選択] を選択し、[[ホーム] タブを参照] をクリックし、[[カスタムホーム] タブの選択] ダイアログボックスでタブを選択して、[開く] をクリックします。
- SAP Jam または SAP StreamWork で BI ワークスペースビューが作成されている場合は、[[カスタムホーム] タブの選択] ダイアログボックスにリスト表示されます。
- b [ドキュメント] タブを表示するには、[[ドキュメント] タブ] を選択して、デフォルトで開くドロワとフォルダを選択します。
- [マイドキュメント] ドロワ、[フォルダ] ドロワ、または、[カテゴリ] ドロワを選択できます。たとえば、ログオンしたときに BI 受信ボックスに [マイドキュメント] ドロワを開く場合は、[マイドキュメント] と [マイ受信ボックス] を選択します。
- 5 [[ドキュメント] タブに表示される列を選択します] で、各オブジェクトについて、概要情報に表示される列見出しを選択します。
- たとえば、SAP Jam または SAP StreamWork コラボレーションの列を表示するには、[コラボレーション/ディスカッションステータス] チェックボックスを選択します。
- 6 [ドキュメントの表示場所の設定] で、ドキュメントを新しいタブで開くのか、または新しいブラウザウィンドウで開くのかを選択します。
- 7 [ページあたりの最大アイテム数の設定] ボックスに、オブジェクトの一覧を表示するときに 1 ページに表示するオブジェクトの最大数を入力します。
- 8 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 4.1.2 パスワードを変更する

ユーザのアクセス権限によっては、このタスクを実行できない場合があります。自分のパスワードを変更できない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 2 [基本設定] ダイアログボックスで、[パスワードの変更] をクリックします。
- 3 [古いパスワード] ボックスに、古いパスワードを入力します。
- 4 [新しいパスワード] ボックスに、新しいパスワードを入力します。
- 5 [新しいパスワードの確認] ボックスに、新しいパスワードを再度入力します。
- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 4.1.3 優先表示ロケール



優先表示ロケール (PVL) では、BI ラUNCHパッドにおける日付、時間、および数値の書式を設定します。また、多言語オブジェクトの場合は PVL でオブジェクトの名前および説明を表示する言語も設定します。オブジェクトに翻訳された名前および説明が複数ある場合、表示言語は以下のようにして決定されます。

- 1 ユーザの PVL に対応する名前および説明が表示されます。

BI プラットフォームではデフォルトのフォールバックロケールが使用されることもありますが、これは通常、ユーザの PVL のバリエーションとなります。たとえば、PVL がフランス語 (カナダ) である場合に、オブジェクトにフランス語 (カナダ) に翻訳された名前および説明がないと、フランス語 (フランス) が使用されます。

- 2 PVL が設定されていない場合、製品のロケールと同じ言語で名前および説明が表示されます。
- 3 上記のオプション 1 または 2 に該当しない場合は、オブジェクトのソース言語で名前および説明が表示されます。

#### 4.1.3.1 ロケールとタイムゾーンの基本設定を設定する

オブジェクトを実行するようスケジュールする前に、BI ラUNCHパッドで選択したタイムゾーンを確認します。デフォルトのタイムゾーンは、BI プラットフォームを実行している Web サーバのローカルタイムゾーンであり、ユーザが接続する Central Management Server (CMS) コンピュータのタイムゾーンではありません。タイムゾーンを自分の地域に合わせて正しく設定し、スケジュールしたオブジェクトがその地域のタイムゾーンで処理されるようにします。

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 2 [基本設定] ダイアログボックスで、[ロケールおよびタイムゾーン] をクリックします。
- 3 [製品ロケール] リストで、BI ラUNCHパッドで使用する言語を選択します。
- 4 [優先表示ロケール] リストで、オブジェクトの表示中に使用する日付、数字、時刻の書式設定規則を使用するロケールを選択します。

このオプションでは、表示される多言語オブジェクトの言語名および説明も決定されます。

- 5 [現在のタイムゾーン] リストで、自分の地域のタイムゾーンを選択します。
- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 4.1.4 Crystal レポートの表示の基本設定を設定する

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 2 [基本設定] ダイアログボックスのナビゲーション一覧で、[Crystal Reports] をクリックします。
- 3 [デフォルトの表示形式を選択] で、Crystal レポートの表示に使用するビューを選択します。

- ・ Web (ダウンロードは不要)

ビューはファイルをダウンロードせず、Java または ActiveX がなくても機能します。Crystal Reports で作成されたレポートを表示するには、このビューを使用する必要があります。

- ・ Web ActiveX (ActiveX が必要)

このビューアは、ActiveX コントロールをサポートする Microsoft Internet Explorer バージョンを使用している場合に使用できます。

- ・ Web Java (Java が必要)

Java 仮想マシンをサポートする Web ブラウザでは、このビューアを使用します。

- 4 [Web (ダウンロードは不要)] ビューアを選択した場合、[プリントコントロールを選択 (Web)] から、以下のアクションのいずれかを実行します。
  - ・ レポートを PDF にエクスポートし、PDF ファイルを印刷できるようにするには、[PDF 1 クリック印刷 (Adobe Acrobat が必要)] をクリックします。印刷する Flash オブジェクトがレポートに含まれている場合は、PDF ファイルに印刷する必要があります。
  - ・ ビューアからレポートを印刷するには、[ActiveX 1 クリック印刷 (ActiveX が必要)] をクリックします。小さな ActiveX コンポーネントをインストールする必要があります。
- 5 [Web (ダウンロードは不要)] ビューアを選択した場合、[描画の解像度を選択 (Web)] から、表示の解像度を選択します。
- 6 [デフォルトの単位を選択] で、[インチ] または [ミリメートル] を選択します。
- 7 SAP Crystal Reports 2011 形式のレポートの使用時に、SAP 変数の技術名を表示するには、[SAP 変数の技術名の表示 (SAP Crystal Reports 2011 のみ)] チェックボックスを選択します。
- 8 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 4.1.5 BI ワークスペースの基本設定を設定する

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 2 [基本設定] ダイアログボックスで、[BI ワークスペース] をクリックします。
- 3 [BI ワークスペース] の下にある [新しいワークスペースの作成時に使用するデフォルトのスタイルシート] リストで、新しい BI ワークスペースに適用するページ書式を選択します。
- 4 [スタイルシートの背景] の [スタイルシートを選択] リストから、新しい BI ワークスペースのスタイルシートを選択します。
- 5 背景画像を選択するには、[画像] チェックボックスを選択して [画像を変更] をクリックし、画像を参照して選択します。

イメージファイルは、2 MB より小さくする必要があります。イメージ形式は、JPG、GIF、または PNG にできます。
- 6 背景色を選択するには、[色] チェックボックスを選択し、色情報を入力します。
- 7 新しい BI ワークスペースを作成するのに使用するスタイルシートごとに、手順 3 から 6 を繰り返します。
- 8 [保存して閉じる] をクリックします。

BI ワークスペースを編集するには、BI ラウンチパッドのタブとしてワークスペースを開く必要があります。

#### 4.1.6 Analysis edition for OLAP の基本設定を設定する

- 1 BI ラウンチパッドにログオンします。
- 2 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 3 [基本設定] ダイアログボックスのナビゲーションリストで、[Analysis edition for OLAP] をクリックします。
- 4 [アクセシビリティモード] チェックボックスをオンにして、Analysis edition for OLAP のスクリーンリーダーを使用します。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。  
[基本設定変更] ダイアログボックスが表示され、いくつかの変更はページの再ロード後に行われることが表示されます。
- 6 [OK] をクリックします。

次回、Analysis edition for OLAP を使用するとき、スクリーンリーダーが使用されます。

#### 4.1.7 Web Intelligence 基本設定

##### 4.1.7.1 Web Intelligence ドキュメントの読み取りインターフェースを選択する

[PDF] 以外のすべての読み取りインターフェースに、表示モードとデザインモードがあります。表示モードでは基本的な表示タスクを実行し、デザインモードではドキュメントを変更します。読み取りインターフェースの中での唯一の相違点は、これらのうち 2 つでコンポーネントのダウンロードが必要になるという点です。

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 2 [基本設定] ダイアログボックスで、[Web Intelligence] をクリックします。
- 3 [表示] で、Web Intelligence ドキュメントを表示するための読み取りインターフェースを選択します。
  - ・ コンポーネントをダウンロードせず、インターネットを経由してドキュメントを表示する場合は、[HTML (ダウンロードは必要ありません)] を選択します。
  - ・ ドキュメントを表示するのに使用する Java アプレットをダウンロードする場合は、[アプレット (ダウンロードが必要です)] を選択します。
  - ・ オフラインで作業することもある場合は、[デスクトップ (リッチクライアント、Windows のみ、インストールが必要です) (インストールが必要です)] を選択し、ドキュメントの表示に使用するデスクトップアプリケーションをダウンロードします。
  - ・ PDF でドキュメントを表示する場合は、[PDF] を選択します。
- 4 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 4.1.7.2 Web Intelligence ドキュメントの変更インタフェースを選択する

変更インタフェースを使用して、Web Intelligence ドキュメントを作成/編集します。

変更インタフェースには、どれも同じような機能があります。インタフェースの中での唯一の相違点は、これらのうち 2 つでコンポーネントのダウンロードが必要になるという点です。

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 2 [基本設定] ダイアログボックスで、[Web Intelligence] をクリックします。
- 3 [変更 (ドキュメントの作成、編集および分析)] で、変更インタフェースを選択します。
  - ・ 何もダウンロードせず、オンラインでドキュメントを作成および変更する場合は、[HTML (ダウンロードは必要ありません)] を選択します。
  - ・ ドキュメントの表示に必要な Java アプレットをダウンロードする場合は、[アプレット (ダウンロードが必要です)] を選択します。
  - ・ ドキュメントの表示に必要なデスクトップアプリケーションをダウンロードする場合は、[デスクトップ (リッチクライアント、Windows のみ、インストールが必要です) (インストールが必要です)] を選択します。

##### ヒント

オフラインで作業することもある場合は、このオプションを選択します。

- 4 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 4.1.7.3 デフォルトユニバースを選択する

Web Intelligence ドキュメントを作成するときにデフォルトのデータソースとして使用するユニバースを指定できます。

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 2 [基本設定] ダイアログボックスで、[Web Intelligence] をクリックします。
- 3 [デフォルトのユニバースを選択] で、[参照] をクリックし、ユニバースを選択します。
- 4 [OK] をクリックし、[保存して閉じる] をクリックします。

#### 4.1.7.4 Web Intelligence ドキュメントの書式設定ロケールを選択する

優先表示ロケール (PVL) では、Web Intelligence ドキュメントにおける日付、時間、および数値の書式を設定します。

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。

- 2 [基本設定] ダイアログボックスで、[Web Intelligence] をクリックします。
- 3 [ドキュメントの表示] で、ロケールを選択します。
  - ・ ドキュメント作成時に使用したロケールを維持する場合は、[データの書式設定にドキュメントのロケールを使用] を選択します。
  - ・ PVL を使用する場合は、[データの書式設定に現在の優先表示ロケールを使用] を選択します。
- 4 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 4.1.7.5 データのドリルオプション

データのドリルアップおよびドリルダウン時における Web Intelligence ドキュメントの動作を指定する必要があります。データをドリルして、表示されるデータの内容を調整できます。たとえば、国別にグループ化されたデータをドリルダウンして地域別にグループ化されたデータを表示したり、都市別にグループ化されたデータをドリルアップして国別にグループ化されたデータを表示したりできます。

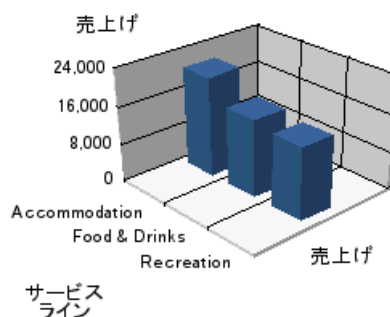
ドリルモードを開始すると、レポートの上部に [ドリル] ツールバーが自動的に表示され、ドリルした値が表示されます。この値は、ドリルしたレポートに表示されている結果に適用されているフィルタです。

レポートの各テーブル、チャート、または独立セルは、特定のデータのブロックを表します。複数のレポートブロックが含まれるレポートは、次の方法でドリルできます。

- ・ レポートのブロックのドリルを同期化
- ・ 選択したブロックのみをドリル

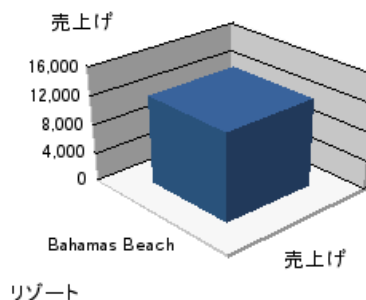
次の例は、テーブルをドリルダウンしてサービス行ごとの詳細な結果を分析した場合の、各オプションによるレポートへの影響を示しています。最初の例では、[レポートのブロックのドリルを同期化] が選択されているため、テーブルとチャートの両方にドリルされた値が表示されます。

サービス ライン↑	売上げ
Accommodation	21,180
Food & Drinks	16,585
Recreation	15,520



次の例では、[レポートのブロックのドリルを同期化] が選択されていないため、ドリルは選択されたブロックでのみ実行され、テーブルのみにドリルされた値が表示されます。

サービス ライン↑	売上げ
Accommodation	21,180
Food & Drinks	16,565
Recreation	15,520



ドリルセッションで分析範囲外にドリルを実行するには、必要なアクセス権限を持っている必要があります。たとえば、ドキュメントの結果をドリルする場合、そのドキュメントの範囲に含まれる、上位レベルまたは下位レベルの情報をドリルすることがあります。そのためには、データソースから追加データを取得するための新規クエリが必要であり、追加クエリを実行するかどうかを決定するよう指示されます。たとえば、2001 年をドリルすると、ドリルしたテーブルの結果は、2001 年の第 1 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期、および第 4 四半期になります。これは、ドリルする四半期ごとの値が 2001 でフィルタされることを意味します。[ドリル] ツールバーには、ドリルした結果をフィルタする値 2001 が表示されます。

[ドリル] ツールバーを使用して他の値を選択し、結果をさまざまな方法でフィルタできます。たとえば、[ドリル] ツールバーを使用して“2002 年”を選択すると、ドリルを実行したテーブルの結果は、2002 年の第 1 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期、および第 4 四半期になります。

ドリルしたレポートに複数のクエリのディメンションが含まれている場合、フィルタの値にカーソルを合わせると、ツールヒントでクエリ名と値のディメンションが表示されます。

#### 4.1.7.5.1 ドリルオプションを設定する

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 2 [基本設定] ダイアログボックスで、[Web Intelligence] をクリックします。
- 3 [表示] で、[HTML (ダウンロードは必要ありません)] または [デスクトップ (リッチクライアント、Windows のみ、インストールが必要です)] (インストールが必要です) 読み取りインターフェースを選択します。
- 4 [ドリルオプション] で、ドリルセッションに適用する一般的なオプションを選択します。
  - a ドリル操作において、ドキュメントにデータを追加するために新しいクエリが必要な場合にプロンプトが表示されるようにする場合は、[ドリルでさらにデータが必要な場合はプロンプトを表示] を選択します。  
メッセージが表示された場合、新しいクエリの中で外部ディメンションにフィルタを適用することがあります。フィルタによって、分析に必要なデータのクエリのサイズを制限します。
  - b すべてのレポートブロックのドリルを同期するには、[レポートのブロックのドリルを同期化] を選択します。
  - c ドリルモードに切り替えたときに、[ドリル] ツールバーを非表示にするには、[スタートアップ時にドリル ツールバーを非表示] を選択します。  
[ドリル] ツールバーが非表示になります (ドリルセッション中にフィルタを選択しない場合など)。
- 5 [ドリルセッションの開始] で、ドリルセッションに適用するオプションを選択します。
  - a 元のドキュメントのコピーを保持して、ドリルした結果を元のデータと比較できるようにするには、[レポートのコピーで] を選択します。  
元のレポートの複製が作成されます。ドリルモードを終了すると、元のレポートとドリルされたレポートの両方が表示用にドキュメントに維持されます。

- b 現在のレポートをドリルしてレポートをドリル操作で変更する場合は、[既存のレポートで]を選択します。  
ドリルモードを終了すると、レポートにはドリルした値が表示されます。
- 6 [保存して閉じる]をクリックします。

#### 4.1.7.6 Excel 形式を選択する

選択した Microsoft Excel 形式によって、ドキュメントをスケジュールまたは Excel にエクスポートする場合の Web Intelligence ドキュメントのインスタンスのデータ表示が決定されます。

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 2 [基本設定] ダイアログボックスで、[Web Intelligence] をクリックします。
- 3 [MS Excel へ保存する優先順位の選択] で次のようにオプションを選択します。
  - ・ Web Intelligence と同じような形式でデータを表示する場合は、[ドキュメントの書式設定の優先順位をつける] をクリックします。
  - ・ テキスト形式でデータを表示するには、[Excel 内で容易なデータ処理の優先順位をつける] をクリックします。
- 4 [保存して閉じる] をクリックします。





## オブジェクトの表示

### 5.1 オブジェクトの表示

[ドキュメント] タブで、表示または編集するオブジェクトを開きます。オブジェクトをダブルクリックすると、新しいタブでそのオブジェクトが開きます。そこから、必要に応じてウィンドウで開くことができます。

Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントを表示する場合、管理者が設定したアクセス権限とデフォルト設定によって表示されるデータが決まります。ソースのレポートデータ、オブジェクトの最新インスタンスのレポートデータ、またはレポートの保存データからのレポートデータを表示できます。アクセス権によっては、レポートまたはドキュメントをソースの新しいデータで最新表示することができます。

オブジェクトの表示方法によって、表示される情報が変わります。例:

- ・ オブジェクトをダブルクリックして動的コンテンツドキュメント (たとえば、Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメント) を表示すると、ドキュメントの最新のインスタンスが開きます。最新のインスタンスがない場合は、オブジェクト自体が開きます。
- ・ [ビュー] > [ビュー] を選択すると、オブジェクトが開きます。
- ・ [ビュー] > [最新のインスタンスを表示] を選択すると、最新のオブジェクトインスタンスが開きます。
- ・ パブリケーションまたはプログラムオブジェクトを表示し、最新のインスタンスがない場合は、BI ラウンチパッドにオブジェクトプロパティが表示されます。

#### 注

オプションが提供されていない場合、そのオブジェクトに対するアクセス権限がありません。

#### 5.1.1 オブジェクトを表示する

- ・ [ドキュメント] タブで、表示するオブジェクトを見つけて、オブジェクトをダブルクリックします。

オブジェクトが動的コンテンツドキュメントの場合 (たとえば、Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメント) は、ドキュメントの最新のインスタンスが開きます。最新のインスタンスがない場合は、オブジェクト自体が開きます。パブリケーションまたはプログラムオブジェクトの最新のインスタンスが使用できない場合は、オブジェクトプロパティが開きます。


### 5.1.2 オブジェクトを最新表示する

オブジェクトのデータを最新表示するには、そのオブジェクトに対する最新表示権限を持っていること、およびサーバにデータソース情報が含まれていることが必要です。

オブジェクトを最新表示することで、データをオンデマンドで表示することができます。しかし、最新表示によって大量のシステムリソースが使用される場合があります。

#### ヒント

一般に、オブジェクトの最新表示は、データが変更された可能性が高い場合にのみ行います。

- ・ オブジェクトビューアのツールバーの  をクリックします。

### 5.1.3 古いインスタンスを表示する

新しいタブで古いインスタンスを開きます。

- 1 インスタンスを表示するオブジェクトを右クリックして、[履歴] を選択します。
- 2 [履歴] ダイアログボックスで、表示するインスタンスをダブルクリックします。

### 5.1.4 将来表示するためにタブをピン留めする

タブをピン留めするには、BI ラウンチパッドの基本設定でタブ付きのドキュメント表示が有効化されている必要があります。

頻繁に表示するドキュメントまたはインスタンスを BI ラウンチパッドのタブにピン留めすることができます。次回 BI ラウンチパッドにログオンすると、ドキュメントまたはインスタンスが自動的にタブに表示されます。

#### 注


タブのピン留めを外すには、タブの右上隅にある  をクリックします。ピン留めが外れているときには、ボタンのアイコンが横向きになります。


- 1 次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ オブジェクトを開くには、オブジェクトまたはインスタンスを右クリックして [表示] を選択します。
  - ・ オブジェクトの最新のインスタンスを開くには、オブジェクトまたはインスタンスを右クリックして [最新のインスタンスを表示] を選択します。

#### ヒント

古いインスタンスを開くには、オブジェクトを右クリックして [履歴] を選択してから、[履歴] ダイアログボックスでインスタンスを選択します。

オブジェクトまたはインスタンスが新しいタブで開きます。

2 タブの右上隅にある  をクリックします。

 ボタンのアイコンが下向きになり、タブがピン留めされていることが示されます。

### 5.1.5 レポートをより大きな表示領域で開く

レポートをより詳しく表示するために、レポートを BI ラウンチパッドの新しいタブまたは新しいウィンドウで表示することができます。

たとえば、レポートをより大きな領域に表示する必要がある場合は、レポートを新しいウィンドウで開きます。

- ・ レポートを右クリックして、[新しいウィンドウで開く] を選択します。

## 5.2 Crystal レポートの表示

Crystal レポートをクリックすると、そのレポートがビューアに表示されます。

使用するビューアの種類によって、実行できるタスクが異なります。

### 5.2.1 Crystal レポートビューア

Crystal レポートビューアを使用すると、レポートの表示、ページ間の移動、データの最新表示、またドリルダウンによるチャートおよび集計データから得られる詳細情報の確認、パラメータの選択、印刷、およびデータのエクスポートが可能です。また、Crystal レポートビューアでは、BI プラットフォームに接続していない場合でもレポートを表示することができます。

Crystal レポートビューアは ActiveX、Java および Web 限定の表示形式をサポートしています。通常は、システム管理者が企業のニーズに合わせて、最も適切なタイプのビューアを選択します。ただし、BI ラウンチパッドの基本設定で、手動でビューアのタイプを選択することもできます。

#### 注

Crystal レポートビューアの一部の機能は、管理者によって無効にされている場合があります。詳細については、管理者に問い合わせてください。

#### 5.2.1.1 Web ビューア

このビューアを選択すると、レポートの表示、最新表示、印刷、パラメータの編集、およびさまざまな形式へのエクスポートを実行できます。[ファイル] > [開く] を選択すると、リポジトリに保存された Crystal レポートを開くことができます。

Web ビューアには、プラグインをダウンロードせずにブラウザでアクセスできます。

#### 注

Web ビューアは、[パラメータパネル] にアクセスでき、SAP Crystal Reports for Enterprise レポートを表示できる唯一の Crystal レポートビューアです。

#### 5.2.1.1.1 Web ビューアツールバーのオプション


##### ヒント

レポートをドリルダウンした後は、タブを使用してレポート内を移動します。

オプション	説明
[ファイル] メニュー	<p>このメニューから、[開く]、[送信先]、[お気に入り]にショートカットを作成]、[スケジュール]、または [履歴] を選択できます。</p> <p>[ファイル] &gt; [開く] を選択すると、リポジトリから Crystal レポートを開くことができます。その他のオプションは、BI ラウンチパッドの [ファイル] メニューのオプションと同様に機能します。</p>

オプション	説明
 および 	 をクリックするとレポート内で 1 ページ前に戻り、  をクリックすると 1 ページ先に進みます。
	レポートを印刷する場合にクリックします。
	レポートを最新表示し、レポートのデータソースから最新のデータを取得する場合にクリックします。
	Crystal レポートをコンピュータまたはネットワーク上の場所にエクスポートする場合にクリックします。
	<ul style="list-style-type: none"> <li> をクリックするとレポート内の前のページに戻り、 をクリックすると次のページに進みます。</li> <li>リストで [最初のページへ] および [最後のページへ] を選択すると、レポートの最初のページまたは最後のページに移動します。</li> </ul>
	リストで [400%]、[300%]、[200%]、[150%]、[125%]、[100%]、[75%]、[50%]、または [25%] を選択し、選択した拡大率または縮小率でレポート内のテキストを表示します。
	[グループツリー] を開く場合にクリックします。

#### 5.2.1.1.2 グループツリーを開く

Web ビューアの左側にある  をクリックします。

#### 5.2.1.2 Web ActiveX ビューア

このビューアを選択すると、レポートの表示、最新表示、印刷、およびさまざまな形式へのエクスポートを実行できます。

Web ActiveX ビューアは、ActiveX コントロールをサポートする Microsoft Internet Explorer バージョンで使用できます。ActiveX コンポーネントをダウンロードし、インストールする必要があります。ActiveX がインストールされていない場合は、Web ActiveX ビューアを使用できません。ActiveX をダウンロードするか、システム管理者に問い合わせてください。

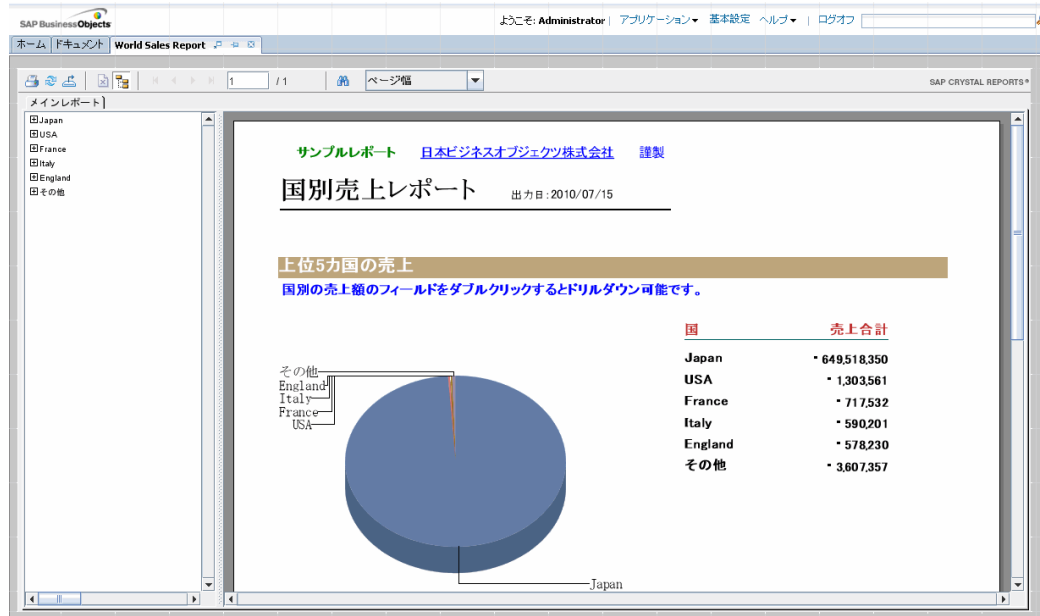


#### ヒント

レポートのデータをドリルダウンした後は、レポートタブを使用してレポート内を移動できます。

### 5.2.1.3 Web Java ビューア

このビューアを選択すると、レポートの表示、最新表示、印刷、およびさまざまな形式へのエクスポートを実行できます。Web Java ビューアには、Java 仮想マシンをサポートするブラウザでアクセスできます。



### 注


Web Java ビューアでレポート内をスクロールするときに、不具合が発生する場合があります。この問題は、一部の Web ブラウザでの Java 仮想マシン実装が原因で発生します。問題が発生した場合は、スクロールボタンを繰り返しクリックしてスクロールしてください。スクロールボタンを押したままにはしないでください。

#### 5.2.1.3.1 Web Java ビューアツールバーのオプション

### ヒント

レポートをドリルダウンした後は、レポートタブを使用して移動できます。

オプション	説明
	レポートを印刷する場合にクリックします。
	レポートを最新表示し、レポートのデータソースから最新のデータを取得する場合にクリックします。
	Crystal レポートをコンピュータまたはネットワーク上の場所にエクスポートする場合にクリックします。
	レポートの処理を停止する場合にクリックします。

オプション	説明
	レポート内のデータ間を移動するときに使用する[グループツリー]を表示するか、非表示にする場合にクリックします。
	<p>ボタンをクリックすると、レポート内の以下のページに移動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◀ をクリックすると、最初のページに移動します。</li> <li>◀ をクリックすると、前のページに移動します。</li> <li>▶ をクリックすると、次のページに移動します。</li> <li>▶ をクリックすると、最後のページに移動します。</li> </ul>
	レポートのページ範囲を表示します。テキストボックスに移動先のページ番号を入力します。
	レポート内のテキストを検索する場合にクリックします。
	リストで [400%]、[300%]、[200%]、[150%]、[100%]、[75%]、[50%]、または [25%] を選択し、選択した拡大率または縮小率でレポート内のテキストを表示します。

### 5.2.2 SAP Crystal Reports viewer 2011

SAP Crystal Reports viewer 2011 がコンピュータにインストールされているため、BI プラットフォームに接続しなくても、ダウンロードした Crystal レポートを表示することができます。SAP Crystal Reports viewer 2011 を使用して、次のタスクを実行できます。

- ・ レポートの印刷またはエクスポート
- ・ レポートの保存
- ・ 表示するデータを選択
- ・ レポート内のデータのドリルダウン



- ・ 複数のレポートの表示

SAP Crystal Reports viewer 2011 は、BI ラウンチパッドの Crystal レポートビューアと同様に機能します。

SAP Crystal Reports viewer 2011 で実行できるタスクの詳細については、『SAP Crystal Reports Viewer 2011 ヘルプ』を参照してください。

### 5.2.2.1 SAP Crystal Reports viewer 2011 をインストールする

Crystal Reports viewer 2011 をインストールすると、クライアントソフトウェアビューアとしてコンピュータに常駐します。

#### 注

この作業は、[www.sap.com](http://www.sap.com) Web サイトの英語版にのみあてはまります。

- 1 ブラウザで、<http://www.sap.com/solutions> に移動します。
- 2 Web ページの [Search] ボックスで、Crystal Reports viewer を検索します。  
検索結果が表示されます。
- 3 『SAP Crystal Reports viewer』という最初の結果をクリックします。  
SAP Crystal Reports viewer の Web ページが表示され、ページの右側に [Download Now] リンクが表示されます。
- 4 SAP Crystal Reports viewer 2011 インストールプログラムをダウンロードして実行します。
- 5 画面の指示に従い、可能な限りデフォルト値を使用します。
- 6 [Finish] をクリックします。

### 5.2.2.2 SAP Crystal Reports viewer 2011 を開く

SAP Crystal Reports viewer 2011 は、コンピュータで Crystal レポート (.rpt) ファイルをダブルクリックすると開きます。

#### 注

SAP Crystal Reports がコンピュータにインストールされている場合、SAP Crystal Reports viewer 2011 よりも優先され、デフォルトで SAP Crystal Reports にレポートが表示されます。

## 5.2.3 Crystal レポートデータをドリルダウンする

レポートをドリルダウンして、チャートと集計したグループの下位にあるデータを表示できます。


- ・ Crystal レポートビューアで、レポート内のリンクをダブルクリックします。

## 5.2.4 Crystal レポートにアラートを表示する

BI プラットフォームでは、アラートのトリガとなるレポートインスタンスに関する情報を記録します。SAP Crystal Reports で作成されたレポートのアラートを表示できます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 表示する Crystal レポートが含まれるフォルダまたはカテゴリを見つけて、オブジェクトを選択します。
- 3 [その他のアクション] > [アラート] を選択します。  
[アラート] ダイアログボックスには、アラートを生成したインスタンスが表示されます。
- 4 タイトルをダブルクリックしてレポートインスタンスを開きます。


## 5.2.5 Web ビューアで Crystal レポートのパラメータを表示および編集する

- 1 表示する Crystal レポートを見つけて選択します。
- 2 [表示] > [表示] を選択します。
- 3 レポート値を入力するよう指示された場合は、値を入力します。  
レポートを表示する前に、レポート値を入力する必要があります。
- 4 表示するデータを選択し、[OK]をクリックします。
- 5 レポート内でアクセスできるパラメータを識別するには、 をクリックします。  
パラメータパネルには、レポートパラメータが表示されます。
- 6 パラメータを選択します。
- 7 パラメータ値を編集するには、次のいずれかを行います。
  - ・ [パラメータ] パネルに、新しい値を入力します。
  - ・ [>] をクリックして編集ダイアログボックスを開き、新しい値を入力して、[OK] をクリックします。
- 8 必要に応じて、残りのパラメータを編集します。
- 9 新規のパラメータ値が適用されたレポートを表示するには、[適用] をクリックします。

## 5.2.6 Crystal レポートを印刷する

必要に応じて、成功したレポートのインスタンスや表示したレポートのインスタンスを印刷できます。

**注**

- ・ 使用している Crystal レポートビューアに応じて、このタスクの手順が異なる可能性があります。ただし、レポートの印刷の一般的な原則は同じです。画面に手順が表示される場合は、このタスクの手順ではなく、画面の手順に従ってください。
  - ・ ページの方向は、レポートの設計者が選択します。[印刷] ダイアログボックスでは変更できません。
- 1 表示するドキュメントを開きます。
  - 2 [ビューア] ツールバーで  をクリックします  
[印刷] ダイアログボックスが表示されます。
  - 3 [ページ範囲] で、[すべて] を選択するか、印刷するページの範囲を入力します。
  - 4 [部数] で、印刷する部数を入力します。

**ヒント**

ページを番号順で印刷する場合は、[部単位で印刷] チェックボックスをオンにします。たとえば、4 ページのレポートを 2 部印刷する場合、まず 1 部目の 1、2、3、4 ページを印刷してから、2 部目の 1、2、3、4 ページを印刷します。


- 5 (Web ビューアと Web ActiveX ビューア) [用紙] で、用紙サイズと給紙方法のオプションを選択します。
- 6 (Web ビューアと Web ActiveX ビューア) Crystal レポートの幅が広く、印刷時にレポートをページの大きさに合わせるには、[オプション] で、[横方向のページを 1 ページに合わせる] をクリックします。
- 7 Crystal レポートに埋め込まれた Flash オブジェクトを印刷するには、[現在のページの Flash オブジェクトを印刷する] を選択します。
- 8 [OK] をクリックします。

## 5.2.7 Crystal レポートをエクスポートする

必要に応じて、成功した Crystal レポートのインスタンスおよび表示したレポートを複数の形式にエクスポートできます。たとえば、売上動向の予測データを Excel スプレッドシートにエクスポートしてから、営業チームに電子メールで送信することができます。

**ヒント**

ドリルダウンできるレポートでは、ドリルダウンしたビューをエクスポートします。

- 1 表示する Crystal レポートを開きます。
- 2 [ビューア] ツールバーで  をクリックします。  
[エクスポート] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [ファイル形式] リストで、Crystal レポートをエクスポートするファイル形式を選択します。
- 4 [ページ範囲] で、[すべてのページ] を選択するか、エクスポートするページの範囲を入力します。
- 5 [エクスポート] をクリックします。

### 5.2.7.1 エクスポート形式のオプション

SAP Crystal Reports (".rpt") 以外のファイル形式にレポートをエクスポートすると、レポートの書式設定の一部またはすべてが失われる場合があります。BI ラウンチパッドでは、そのエクスポート形式で再現できるだけの手書式設定が維持されます。

レポートは以下のファイル形式にエクスポートできます。



ファイル形式	説明
Crystal レポート	ドリルダウンビューからこの .rpt 形式にエクスポートすることはできません。
Crystal レポート (RPTR)	この読み取り専用 .rptra 形式では、元のレポートの外観を維持しようとします。
Microsoft Excel(97-2003)	.xls 形式
Microsoft Excel (97-2003) (データのみ)	データ専用 .xls 形式
Microsoft Word(97-2003)	.doc 形式
PDF	.pdf 形式
リッチテキスト形式(RTF)	この .rtf 形式は、Web ビューアでのみ使用できます。
Microsoft Word - 編集可能 (RTF)	この .doc 形式で維持される書式設定は、Microsoft Word (97-2003) 形式よりも少なくなります。テキストは行内に表示され、イメージはテキストと共に行内に配置されます。
カンマ区切り値(CSV)	.csv 形式
XML	.xml 形式

**注**

Flash オブジェクトは、Crystal レポート形式 (.rpt または .rptr) または Adobe PDF (.pdf) にエクスポートした場合にのみ表示されます。それ以外のすべての形式にエクスポートした場合は、代替イメージが表示されます。

Crystal レポートを特定の形式にスケジュールする方法については、『SAP Crystal Reports 2011 ユーザガイド』のエクスポートに関する情報を参照してください。

## 5.2.8 データをインタラクティブに並べ替える

- 1 インタラクティブソートを使用する Crystal レポートを開きます。
- 2 並べ替えの基準とする値を選択します。
- 3 矢印をクリックして、レポート内のデータを並べ替えます。
  - ・ データを昇順で並べ替えるには、 をクリックします。
  - ・ データを降順で並べ替えるには、 をクリックします。










## 5.3 Web Intelligence ドキュメントの表示



Web Intelligence ドキュメントを開くと、ドキュメントがビューアに表示されます。ビューアの種類、およびシステム管理者が有効にする機能に応じて、さまざまな操作を実行できます。

次の節では、Web Intelligence ツールバーの詳細、およびナビゲーションマップの使用、ユーザプロンプトの表示、テキストの検索、ドキュメントでのデータのドリルダウンの方法を説明します。

Web Intelligence ドキュメントで分析を実行する手順については、SAP BusinessObjects Web Intelligence のドキュメントを参照してください。

### 5.3.1 Web Intelligence ビューアツールバー


ツールバーのオプション	説明
[Web Intelligence] メニュー	<p>このメニューでは、BI ラウンチパッドユーザインタフェースの以下の部分の表示/非表示を切り替えます。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フィルタバー</li> <li>・ アウトライン</li> <li>・ サイドパネルのメニューオプション: [標準]、[最小化済み]、または [オフ]</li> <li>・ レポートタブ</li> <li>・ ステータスバー</li> </ul>
	新しい Web Intelligence ドキュメントを作成する場合にクリックします。
	Web Intelligence ドキュメントを開いて表示する場合にクリックします。
	<p>このメニューを使用して、ドキュメントの変更内容をさまざまなファイル形式として、ローカルコンピュータに新しい名前で作成します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保存</li> <li>・ 名前を付けて保存</li> </ul>
	印刷用に PDF バージョンのドキュメントを作成する場合にクリックします。
	ドキュメント内のテキストを検索する場合にクリックします。
	ドキュメントインスタンスの日付を表示する場合にクリックします。
	<p>このメニューを使用して、選択する形式でドキュメント、現在のレポート、またはデータをコンピュータにエクスポートします。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ドキュメントのエクスポート形式] メニューのオプション: [PDF]、[Excel]、[Excel 2007]、または [テキスト]</li> <li>・ [現在のレポートのエクスポート形式] メニューのオプション: [PDF]、[Excel]、[Excel 2007]、または [テキスト]</li> <li>・ [データを CSV 形式でエクスポート]</li> </ul>
	<p>このメニューを使用して、ドキュメントを宛先に送信します。利用できる送信先は、BI 起動パッドの設定によって異なります。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [電子メールで送信] は、ドキュメントを電子メールアドレスに送信します。</li> <li>・ [ユーザに送信] は、ドキュメントを特定のユーザに送信します。</li> <li>・ [Ftp に送信] は、ドキュメントを FTP サーバに送信します。</li> </ul>
	前の操作を元に戻す場合にクリックします。

ツールバーのオプション	説明
	前の操作をやり直す場合にクリックします。
	このメニューを使用して、コンテンツを最新表示します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ [クエリの最新表示] は、現在のタブを最新表示します。</li><li>・ [すべて最新表示] は、ドキュメント全体を最新表示します。</li></ul>
[追跡] メニュー	このメニューを使用して、ドキュメントの変更を追跡します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ [追跡] は、変更を追跡します。</li><li>・ [変更の表示] は、追跡した変更を表示します。</li><li>・ [表示オプション] は、追跡オプションを設定します。</li></ul>
[ドリル] メニュー	このメニューを使用して、ドキュメントデータをドリルアップまたはドリルダウンします。利用できるオプションは、ドリルが実行中かどうかによって変わります。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ [ドリルモードの開始] は、データのドリルを開始します。</li><li>・ [ドリルモードの停止] は、データのドリルを停止します。</li><li>・ [スナップショット] は、データのドリル中に明らかになった分析のレベルを取得します。レポートのコピーが作成され、新しいタブで開きます。</li></ul>
フィルタバー	[レポートフィルタ] ツールバーの表示/非表示を切り替える場合にクリックします。

ツールバーのオプション	説明
アウトライン	ドキュメントのアウトラインの表示/非表示を切り替える場合にクリックします。
[読み取り] メニュー	このメニューを使用して、別の形式でドキュメントを読み取ります。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>HTML</li> <li>PDF</li> </ul>
[デザイン] メニュー	このメニューを使用して、ドキュメントのデザインを変更します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[データあり] は、ドキュメントのデータを変更します。</li> <li>[構造のみ] は、ドキュメントの構造のみを変更します。</li> </ul>


### 5.3.2 ナビゲーションマップを表示する

ナビゲーションマップ (  ) を使用して Web Intelligence ドキュメント内のレポートを検索します。


- 1 レポートを検索する Web Intelligence ドキュメントを開きます。
- 2 ビューアのツールバーで、[Web Intelligence] > [サイドパネル] > [標準] を選択します。
- 3 サイドパネルで、  をクリックします。

[ナビゲーションマップ] がサイドパネルに表示されます。

### 5.3.3 ユーザプロンプトを表示する

Web Intelligence ドキュメントの場合、プロンプトによってユーザがら収集した情報によって、ドキュメントに表示するデータを決めることができます。[ユーザプロンプト入力] アイコン (  ) を使用してユーザから情報を収集します。



たとえば、営業で使用するドキュメントでは、ユーザに地域の選択を求めるプロンプトが表示されます。ユーザが地域を選択すると、ドキュメントには、ドキュメント内のすべての地域の結果が表示されるのではなく、選択された地域の結果が含まれます。

- 1 表示する Web Intelligence ドキュメントを開きます。
- 2 ビューアのツールバーで、[Web Intelligence] > [サイドパネル] > [標準] をクリックします。
- 3 サイドパネルで、  をクリックします。



[ユーザプロンプト入力] ペインがサイドパネルに表示されます。

### 5.3.4 テキストを検索する

- 1 表示する Web Intelligence ドキュメントを開きます。
- 2 ビューアのツールバーで、 をクリックします。  
[検索バー] がドキュメントの下に表示されます。
- 3 検索ボックスに、検索するテキストを入力します。
- 4 アイコンの矢印をクリックし、[大文字と小文字を区別しない] または [大文字と小文字を区別する] を選択します。
- 5 検索ボックスの横にある  をクリックします。
- 6 (オプション)[前を検索]をクリックして前の出現箇所を検索するか、[次を検索]をクリックして次の出現箇所を検索します。

### 5.3.5 ドキュメントデータをドリルする

ドキュメントデータをドリルダウンして、チャートと集計したグループの下位にある情報を表示できます。

- 1 データをドリルする Web Intelligence ドキュメントを開きます。
- 2 ビューアのツールバーで、[ドリル] > [ドリルモードの開始] を選択して、ドリルダウンするドキュメント内のリンクをクリックします。
- 3 ビューアがドリルモードになったら、[ドリル] > [スナップショット] を選択し、ドリルされたビューのスナップショットを撮って、それを新規タブで開きます。
- 4 ドキュメントのビューにフィルタを適用するには、ビューアのツールバーで [フィルタバー] をクリックし、フィルタを設定します。
- 5 [ドリル] > [ドリルモードの終了] を選択します。



## オブジェクトの使用

### 6.1 オブジェクトを管理する

BI プラットフォーム内のすべてのドキュメントとファイル（ハイパーリンク、ショートカット、Crystal レポート、および Web Intelligence ドキュメント）は、オブジェクトと呼ばれます。BI プラットフォームではフォルダとカテゴリを使用してオブジェクトを整理します。オブジェクトは 1 つのフォルダに属する必要がありますが、カテゴリに割り当てなくても、複数のカテゴリに割り当ててもかまいません。

フォルダとカテゴリは、パブリック（会社用）と個人用のどちらでもかまいません。適切なアクセス権限を持つ BI ラウンチパッドのユーザは、パブリックフォルダとカテゴリを表示することができ、パブリックフォルダやカテゴリでオブジェクトを追加したり、編集したりできます。

個人用カテゴリとお気に入りフォルダは、ユーザ個人が使用します。フォルダとカテゴリを新規に作成し、必要に応じてその中にオブジェクトを含めることができます。個人用カテゴリとお気に入りフォルダは個人専用で、他の BI 起動パッドユーザはそれらを表示または変更できませんが、管理者はそれらを編集できます。

BI プラットフォームでは、オブジェクトおよびインスタンス（またはオブジェクトおよびインスタンスへのショートカット）を、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、または SAP Jam や SAP StreamWork でのアクティビティ、またはファイルのデフォルトの場所を使用して他のユーザに送信できます。送信可能な場所は、システム管理者が行う設定内容により異なる場合があります。[ドキュメント] タブでドキュメントを閲覧または参照してオブジェクトを送信し、また、オブジェクトの履歴でインスタンスを送信します。受信したオブジェクトを表示するには、[ドキュメント] タブで [マイドキュメント] ドロワを展開して、[マイ受信ボックス] をクリックします。

#### ヒント

オブジェクトのタイトルを右クリックすると、そのオブジェクトで実行可能なすべてのアクションにアクセスできます。たとえば、オブジェクトの履歴を表示するには、オブジェクトを右クリックし、[履歴] を選択します。

システム管理者によって割り当てられたアクセス権限によっては、一部のフォルダやカテゴリにアクセスできない場合があります。たとえば、システム管理者が会社内で使われていないカテゴリを無効にする場合があります。

### 6.2 新規オブジェクトの作成と追加

ユーザが必要な権限を持っている場合は、BI 起動パッドでオブジェクトを作成し、また既存のオブジェクトを BI 起動パッドに追加できます。

## 6.3 コンピュータから BI ラウンチパッドにドキュメントを追加する

BI ラウンチパッドにオブジェクトを追加するには、適切なアクセス権限が必要です。

たとえば、最近の合併が販売に与えた影響についてのレポートをビジネスアナリストが作成し、社内でそのレポートを共有する必要があるとします。ビジネスアナリストはレポートを BI プラットフォームに追加して、社内の適切なアクセス権限を持つ全員がレポートを表示できるようにします。

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開し、ドキュメントを追加するフォルダを選択します。  
フォルダのコンテンツが表示されます。
- 2 [新規] > [ローカルドキュメント] を選択します。  
[新しいローカルドキュメント] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [ファイル名] ボックスの横にある [参照] をクリックして、追加するドキュメントを見つけて選択します。  
ドキュメントのファイル名が [タイトル] ボックスに表示されます。
- 4 (オプション) ドキュメントの説明とキーワードを入力します。
- 5 ドキュメントが Crystal レポートの場合:
  - a レポート概要情報を保持するには、[レポートからの説明を使用する] をクリックします。
  - b レポートの保存済みデータを保持するには、[保存済みデータを保持] をクリックします。
- 6 (オプション) [MIME] ボックスに、ファイルの MIME タイプを入力します。
- 7 (オプション) [オブジェクトを追加する 1 つ以上のカテゴリを選択します] でドキュメントを割り当てるカテゴリを選択します。  
  
ドキュメントは、複数のカテゴリに追加することも、どのカテゴリにも追加しないこともできます。ユーザのアクセス権限によっては、ドキュメントを一部のカテゴリに追加できない場合があります。
- 8 [追加] をクリックします。

## 6.4 サードパーティのソースドキュメントを置換する

サードパーティのソースドキュメントを置換できるようにするには、ドキュメントに対して [編集] アクセス権限を持っている必要があります。

サードパーティ (“その他” ともいいます) のソースドキュメントは、BI ラウンチパッド由来のものではありません。Microsoft Word、Adobe PDF、Microsoft Excel などのファイルがこれにあたります。

サードパーティドキュメントのコンテンツは更新できませんが、サードパーティドキュメントを最新バージョンのドキュメントに置換することはできます。これにより、BI ラウンチパッド以外で作成されたドキュメントで、最新のソース情報を見ることができます。

- 1 サードパーティドキュメントを右クリックして、[整理] > [ファイルの置換] を選択します。

**注**

[ファイルの置換] メニューオプションがサードパーティドキュメントで使用できない場合、そのドキュメントに対して [編集] 権限を持っていないことになります。

- 2 [ファイルの置換] ダイアログボックスで、[参照] をクリックし、コンピュータ上にある最新バージョンのソースドキュメントファイルを選択します。

**注**

「ファイルがソースドキュメントのファイル形式と一致しない」というメッセージが表示された場合、元のソースドキュメントとは異なる形式のファイルを選択しています。[OK] をクリックしてメッセージを閉じ、[参照] をクリックして正しいソースドキュメントを選択します。

- 3 [置換] をクリックします。
- 4 確認メッセージで、[OK] をクリックしてサードパーティドキュメントを更新します。

## 6.5 オブジェクトの並べ替えとフィルタ処理


デフォルトでは、オブジェクトはタイトルのアルファベット順に並べ替えられますが、その他の基準でオブジェクトの並べ替えやフィルタを実行できます。

特定の列でオブジェクトを昇順に並べ替えるには、その列見出しをクリックします。その列見出しを再度クリックすると、オブジェクトが降順で並べ替えられます。

選択したデータでオブジェクトをフィルタするには、フィルタの基となる列見出しをポイントします。🔍 (じょうごアイコン) が列見出しに表示されます。🔍 をクリックし、列ごとに異なるフィルタオプションを設定します。

### 6.5.1 リポジトリのオブジェクトをフィルタリングする



デフォルトでは、フォルダまたはカテゴリのコンテンツを表示するときに、BI ラウンチパッドにはユーザが表示権限を持っているすべてのオブジェクトが表示されます。表示する情報を調整するために、列見出しでオブジェクトをフィルタリングできます。

- 1 [ドキュメント] タブで、フィルタリングする列見出しをポイントして、見出しの  をクリックします。  
その列のフィルタオプションが表示されます。
- 2 必要に応じて次のようにフィルタオプションを設定します。
  - ・ タイトルでフィルタするには、[タイトル] 列で、テキストボックスにオブジェクトのタイトルを入力し、[OK] をクリックします。
  - ・ オブジェクトタイプでフィルタするには、[タイプ] 列で、参照するオブジェクトタイプのチェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。
  - ・ オブジェクトの最終実行時間でフィルタするには、[最終実行日時] 列で、開始時刻と終了時刻を選択し、[OK] をクリックします。

- ・ オブジェクト作成者でフィルタするには、[作成者] 列で、[Everyone] または [自分] を選択し、[OK] をクリックします。
- ・ オブジェクトの作成時間でフィルタするには、[作成日] 列で、開始時刻と終了時刻を選択し、[OK] をクリックします。

フィルタリングされたオブジェクトだけが表示されます。

## 6.5.2 フィルタを削除する

- ・ ビューがフィルタされている列見出しで  をクリックし、[フィルタのクリア] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。  
たとえば、ビューがオブジェクトタイプでフィルタされている場合は、[種類] 列で  をクリックし、[すべての種類] チェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。

## 6.6 オブジェクトプロパティを設定する

適切なアクセス権限がある場合は、オブジェクトのタイトル、説明、キーワード、およびカテゴリプロパティを変更できます。

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開し、オブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトを右クリックし、[表示] > [プロパティ] を選択します。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 (オプション) オブジェクトの説明とキーワードを編集します。
- 4 [保存して閉じる] をクリックします。
- 5 (オプション) オブジェクトを右クリックし、[カテゴリ] を選択します。
- 6 [カテゴリ] ダイアログボックスで、オブジェクトに割り当てるカテゴリを 1 つまたは複数選択して、[OK] をクリックします。

## 6.7 オブジェクトをコピーする

オブジェクトをコピーし、コピーをアクセス権限のあるフォルダに保存できます。これにより、元のオブジェクトを保持したまま新しいオブジェクトを編集できます。

### 注

[コピー] コマンドではオブジェクトがクリップボードにコピーされます。同じフォルダにオブジェクトのコピーが作成されるわけではありません。

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開し、コピーするオブジェクトを選択します。

#### ヒント

同時に複数のオブジェクトをコピーできます。そのためには、Ctrl または Shift キーを押したままオブジェクトをクリックして選択します。

- 2 [整理] > [コピー] を選択します。  
オブジェクトがクリップボードにコピーされます。
- 3 コピーを保存するフォルダを見つけて選択します。
- 4 [整理] > [貼り付け] を選択します。

## 6.8 オブジェクトを移動する

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開し、移動するオブジェクトを選択します。
- 2 [整理] > [切り取り] を選択します。  
オブジェクトがクリップボードにコピーされます。オブジェクトは、貼り付けるまで削除されません。
- 3 オブジェクトを保存するフォルダを見つけて選択します。
- 4 [整理] > [貼り付け] を選択します。

オブジェクトは、貼り付け先のフォルダにのみ存在します。移動したオブジェクトへのショートカットは、これまでどおり正しく機能します。

## 6.9 オブジェクトへのショートカットを作成する

#### ヒント

[お気に入り] フォルダで表示する頻度が高いオブジェクトのショートカットを作成できます。オブジェクトを右クリックして、[整理] > [お気に入りにショートカットを作成] を選択します。

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開します。
- 2 ショートカットを作成するオブジェクトを右クリックして、[整理] > [ショートカットのコピー] を選択します。
- 3 ショートカットを保存するフォルダを右クリックして、[整理] > [ショートカットの貼り付け] を選択します。

## 6.10 オブジェクトまたはインスタンスを出力先に送信する

新しいインスタンスを作成するためにオブジェクトを実行したり、レポートインスタンスのデータを最新表示したりしなくても、オブジェクトまたはインスタンスを出力先に送信できます。オブジェクトまたはインスタンスのコピーまたはショートカットを送信し、FTP サーバや BI 受信ボックスなどの出力先を選択できます。すべてのタイプのオブジェクトがすべての出力先に送信できるわけではありません。

**ヒント**

タブにオブジェクトやインスタンスが表示されている場合、そのタブからオブジェクトやインスタンスを送信できます。

- 1 [ドキュメント] タブで、送信するオブジェクトまたはインスタンスを検索します。
- 2 オブジェクトまたはインスタンスを選択します。
  - ・ オブジェクトを送信するには、オブジェクトを右クリックして [送信] を選択し、出力先の場所をクリックして、出力先オプションを設定します。
  - ・ インスタンスを送信するには、インスタンスを含むオブジェクトを 1 つ選択して右クリックし、[履歴] を選択し、[履歴] ダイアログボックスで 1 つ以上のインスタンスを選択して、[送信] をクリックします。

**ヒント**

複数のオブジェクトを選択するには、Shift + クリックまたは Ctrl + クリックを押します。

ステータスが [成功] または [失敗] のインスタンスを送信できます。ステータスが [定期] または [待機] のインスタンスはスケジュールされていますが、データが格納されていません。

- 3 [送信] をクリックします。

## 6.11 オブジェクトへの OpenDocument リンクを作成する

OpenDocument リンクは、受信者に直接リンクを送信するためや、受信者がフォルダおよびカテゴリ間の移動で不便を感じないようにするために使用できます。受信者がリンクをクリックすると、BI ラウンチパッドログオンダイアログボックスがブラウザに表示されます。受信者が有効なログオン認証情報を入力すると、ドキュメントが開きます。

- 1 [ドキュメント] タブで送信するドキュメントを右クリックして、[ドキュメントリンク] を選択します。  
[ドキュメントリンク] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [リンク] ボックスで OpenDocument リンク全体を選択し、右クリックして、[コピー] を選択します。
- 3 [OK] をクリックします。
- 4 リンクを貼り付ける場所（電子メールの本文など）にカーソルを置き、右クリックして、[貼り付け] を選択します。  
これでリンクが貼り付けられました。

## 6.12 オブジェクトを削除する

オブジェクトを削除するには、適切なアクセス権限が必要です。

- 1 [ドキュメント] タブで、削除するオブジェクトを選択します。
- 2 [整理] > [削除] を選択します。
- 3 確認を求めるメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。



## 6.13 オブジェクトへのハイパーリンクを作成する

### ヒント

時間を節約するために、[お気に入り] フォルダで表示する頻度が高いドキュメントのハイパーリンクを、[マイドキュメント] ドロワで作成します。

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開します。
- 2 ハイパーリンクを作成するフォルダを右クリックして、[新規作成] > [ハイパーリンク] を選択します。  
[ハイパーリンク] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [一般プロパティ] をクリックします。
- 4 ハイパーリンクのタイトル、説明、およびキーワードを入力します。
- 5 [URL] をクリックして、ハイパーリンクを作成する Web ページの URL を入力します。  
たとえば、「http://www.sap.com」と入力します。
- 6 (オプション) [カテゴリ] をクリックし、ハイパーリンクを割り当てるカテゴリを 1 つまたは複数選択します。
- 7 [OK] をクリックします。

## 6.14 検索の機能

### 入力中の検索文字列の認識

ユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスの一部または全部を入力して、ユーザまたはグループを検索できます。入力中に、検索機能は、入力されている単語と一致する結果を探します。

たとえば、[BI 受信ボックス] 出力先にスケジュールするときに、[利用可能な受信者] リストでユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索] ボックスに受信者のユーザのフルネームを入力します。

検索テキストへの一致は、オブジェクトのキーワード、タイトル、説明、所有者情報、およびコンテンツに基づいて実行されます。検索結果が、[検索] ドロワに表示され、いつでもその検索結果を表示できます。

### 別のスペリング (綴り) の提案

BI プラットフォームでは、検索テキストにスペルミスがある場合や生成される結果が 0 件の場合に、検索テキストの別のスペルが提案されます。その提案された検索語では、一致する項目が存在します。別のスペルは、検索語から、BI プラットフォーム内のスペルが類似した語を取り出すことで作成されます。たとえば、Euroe sales trent を検索しようとする、BI プラットフォームはスペルミスを認識し、Europe sales trend を提案します。

### 注

この機能は、中国語、日本語、または韓国語のテキストでは使用できません。

### クエリーの提案

BI プラットフォームによって、検索語に基づいて自動的にドキュメントが提案されます。検索の実行時に、結果のドキュメントに検索対象の情報がない場合、または結果が見つからなかった場合は、BI プラットフォームによって、ユーザの質問に答えられる可能性があるドキュメントが提案されます。

BI プラットフォームは、検索語を解釈し、それを既存のドキュメントに含まれるユニバースやデータの構造と比較することでドキュメントを選択し提案します。たとえば、Mexico sales 2006 を検索する場合、検索では、sales が会社の販売データを保存するユニバースにあるメジャーであるか、フィールド country が別のドキュメントにある Mexico と等しいか、または 2006 が事前定義済みフィルタであると解釈し、その情報を使用してデータをフィルタする可能性があります。次に、BI プラットフォームはユニバースのデータを使用してドキュメントを作成し、フィルタして識別します。これで、新しいドキュメントを表示、編集できます。

[クエリの実行] リンクをクリックし、生成されたドキュメントを表示して保存します。[クエリの編集] をクリックすると、編集用のドキュメントが開くので、必要に応じてクエリをさらに調整することができます。

#### 注

提案される新しいドキュメントは、Web Intelligence ドキュメントの形式のみとなります。

### 一致した語の強調表示

検索テキストがオブジェクトのタイトルや説明に含まれる語と一致すると、一致した語は太字で表示されます。

### ファセットおよび検索結果のグループ化

#### 注

レポートフィールドによるファセットのグループ分けは Crystal レポートと Web Intelligence ドキュメントでのみ使用可能です。

検索から多くの結果が生成される場合、BI プラットフォームでは、その結果情報をファセット（つまりグループ）に分類します。ファセットを選択して、そのファセットの検索結果を表示することができます。検索結果は次のファセットに分類されます。

- ・ ドキュメントの種類
- ・ パブリックカテゴリ
- ・ レポート内のデータ
- ・ レポートコンテンツの側面

各ファセットには、検索結果に表示されるオブジェクトが割り当てられます。たとえば、パブリックカテゴリファセットには、HR レポート、法務文書、および売上げレポートという 3 つのオブジェクトが含まれる場合があります。2006 sales by employee を検索し、検索結果で売上げレポートオブジェクトをクリックし、パブリックカテゴリファセットの売上げレポートに対する結果のみを表示できます。

ファセットは、メタデータおよびドキュメントコンテンツに基づいて生成されます。コンテンツベースのファセットは、ドキュメント内のフィールドまたは変数に基づいて生成されます。たとえば、product 変数を多くの売上げレポートで使用している場合、検索ではそれに対応するファセットが生成されます。製品名で検索を絞り込み、その製品に関連する結果のみを表示することができます。

検索を絞り込んだ後は、その結果を参照するか、他のファセットのオプションを選択してその結果をさらに絞り込むことができます。現在の絞り込み結果が、検索条件の絞り込みパネルの上部に表示されます。

#### 注

オブジェクトタイプによるファセットのグループ化では、インスタンスなどの他のタイプのオブジェクトを含めることができます。たとえば、Crystal レポートファセットの検索結果を表示すると、結果に同じ名前の Crystal レポー

ト、PDF ドキュメント、および Word ドキュメントが表示される場合があります。この動作は、他のオブジェクトが同じ Crystal レポートのインスタンスであるために発生します。

#### 検索結果のランク

検索結果のすべてのオブジェクトに、検索テキストとの関連度に応じて 1 から 5 までのランクを示すスコアが付けられます。スコア 5 は、オブジェクトの一致率が非常に高いことを示し、スコア 1 は、一致率が低いことを示します。

#### 関連項目

- ・ 59 ページの[検索対象](#)」
- ・ 61 ページの[検索テクニック](#)」

## 6.15 検索対象

次の表は、各オブジェクトタイプの検索可能コンテンツを示したものです。

オブジェクトタイプ	検索可能コンテンツ
Crystal レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タイトル</li> <li>・ 説明</li> <li>・ 選択式</li> <li>・ 保存データ</li> <li>・ テキストフィールド</li> <li>・ パラメータ値</li> <li>・ サブレポート</li> </ul>
Web Intelligence ドキュメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タイトル</li> <li>・ 説明</li> <li>・ ユニバースフィルタ名</li> <li>・ 保存データ</li> <li>・ ドキュメントで定義されているフィルタ条件内の定数</li> <li>・ ユニバースメジャー名</li> <li>・ ユニバースオブジェクト名</li> <li>・ レコードセット内のデータ</li> <li>・ セル内の静的テキスト</li> </ul>
Microsoft Excel ファイル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ データ</li> <li>・ ドキュメントプロパティ(タイトル、件名、作成者、会社、カテゴリ、キーワード、およびコメント)</li> <li>・ ヘッダおよびフッタテキスト</li> <li>・ 計算値または式値</li> <li>・ 番号および日付/時間値</li> </ul>
Microsoft Word ドキュメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキスト</li> <li>・ ドキュメントプロパティ(タイトル、件名、作成者、会社、カテゴリ、キーワード、およびコメント)</li> <li>・ ヘッダおよびフッタテキスト</li> <li>・ 数値</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ RTF ファイル</li> <li>・ PDF ファイル</li> <li>・ Microsoft PowerPoint ファイル</li> <li>・ TXT ファイル</li> </ul>	テキスト

オブジェクトタイプ	検索可能コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ その他のオブジェクト</li> <li>・ 分析ビュー</li> <li>・ BI ワークスペース</li> <li>・ Dashboard と Xcelsius オブジェクト</li> <li>・ ディスカッション</li> <li>・ イベント</li> <li>・ Flash オブジェクト</li> <li>・ ハイパーリンク</li> <li>・ ライフサイクルマネジメントコンソールのジョブ</li> <li>・ メタデータ (インフォメーションデザイナー)</li> <li>・ モジュール</li> <li>・ オブジェクト パッケージ</li> <li>・ プロフィール</li> <li>・ プログラムオブジェクト</li> <li>・ パブリケーション</li> <li>・ クエリ (Query as a Web Service から)</li> <li>・ ユニバース</li> <li>・ ウィジェット</li> <li>・ ワークスペース (SAP BusinessObjects Analysis edition for OLAP で作成)</li> </ul>	<p>メタデータ</p> <p><b>注</b>                      その他のオブジェクトとは、BI ラウンチパッドでアクセスできる BusinessObjects 以外のオブジェクトです。その他のオブジェクトのデータは変更されず、オブジェクトはスケジュールすることができません。</p>

## 6.16 検索テクニック

テクニック	例	説明
検索語をスペースで区切る	finance report	<p>検索語をスペースで区切ることは、AND 区切りと同等です。</p> <p>このテクニックでは、検索テキスト内のすべての語がドキュメントに含まれている場合に結果が生成されます。</p>

テクニック	例	説明
ワイルドカード文字としてアスタリスク(*)または疑問符(?)を使用する	売上げ 199* l?st	<p>検索テキストに、小文字と大文字を混ぜ合わせて使用しないでください。</p> <p>最初の例では、“売上げ”という語と1990 から 1999 年のいずれかの年度を含む結果が生成されます。</p> <p>2 番目の例では、last、list、または lost という語を含む結果が生成されます。</p>
検索テキストを引用符(“)で囲む	“total sales growth”	このテクニックでは、ドキュメント内で完全に同じ検索テキストが見つかった場合に、結果が生成されます。
検索語の前にプラス記号(+)を付ける	episode +I	<p>このテクニックでは、検索テキスト内のすべての語がドキュメントに含まれている場合に結果が生成されます。</p> <p>検索語の前にプラス記号(+)を付けて、検索時に通常はフィルタによって除外される語 (a、for、by、is、the など) を検索します。</p>
検索語の前にマイナス記号(-)を付ける	Europe sales -revenue	このテクニックでは、マイナス記号(-)の後ろの語がドキュメントに含まれておらず、かつ、その他の検索テキストがドキュメントに含まれている場合に結果が生成されます。
検索語を大文字の OR で区切る	bug OR defect count report	このテクニックでは、“OR” の前または後ろの語がドキュメントに含まれおり、かつ、その他の検索テキストがドキュメントに含まれている場合に結果が生成されます。

テクニック	例	説明
属性を検索する	タイプ: "Crystal Reports" 国: 米国	<p>このテクニックでは、メタデータまたはコンテンツ内の属性値が検索されます。</p> <p>属性検索を実行するには、属性、コロン、検索する値を入力します。複数の語で構成される属性値は引用符で囲みます。</p> <p>最初の例では、オブジェクトタイプ値が Crystal Reports の結果が生成されます。</p> <p>2 番目の例では、国の値が "米国" の結果が生成されます。</p>
検索テクニックを組み合わせる	marketing OR sales -finance "increase OR decrease trend"	<p>この例では、ドキュメントに "marketing" または "sales" のいずれかの単語が含まれ、かつ、フレーズ "increase or decrease trend" が含まれ、"finance" という単語は含まれない場合に結果が生成されます。</p>

## 6.17 BI ラウンチパッドで検索を実行する

BI ラウンチパッドで、検索から除外されていないすべてのオブジェクトを検索できます。

- 1 [ドキュメント] タブの [検索] ボックスに検索テキストを入力します。

入力時に一時停止すると、BI ラウンチパッドのクイック検索機能により、入力したテキストに基づいて上位 6 つの一致が表示されます。一致するものがすぐに表示されない場合は、検索テキストの入力を続行します。

- 2 ツールバーの  をクリックします。

検索結果がリストパネルに表示されます。次のファセットが [検索] ドロウに表示される場合があり、フィルタリングされた検索結果を見ることができます。

- ・ 場所
- ・ 型
- ・ 最新表示時刻
- ・ 作成者
- ・ データソース

ファセットは結果の内容に基づいて表示されます。検索によって5つを超えるファセットが生成される場合、[その他]をクリックすると、他のファセットが表示されます。

3 以下のアクションのいずれかを実行し、検索結果を表示します。

- ・ オブジェクトリンクをダブルクリックする
- ・ [検索]ドロワで、ファセットをクリックして結果を絞り込み、次にオブジェクトリンクをダブルクリックする

Web Intelligence ドキュメントまたは Crystal レポートをダブルクリックすると、ビューアが開き、レポートの検索テキストの最初の一致項目に移動します。

#### 注

- ・ この機能は、HTML ビューアのみで機能します。
- ・ オブジェクトタイプによるファセットのグループ化では、他のタイプのオブジェクトを含めることができます。たとえば、Crystal レポートファセットの検索結果を表示すると、結果に同じ名前の Crystal レポート、PDF ドキュメント、および Word ドキュメントが表示される場合があります。この動作は、他のオブジェクトが同じ Crystal レポートのインスタンスであるために発生します。

## 6.18 フォルダとカテゴリ

すべてのユーザがアクセスできるフォルダやカテゴリは、通常システム管理者が作成します。ただし、適切なアクセス権限がある場合は、他のユーザが BI ラウンチパッドでフォルダやカテゴリを作成することもできます。

BI プラットフォームでは次の2つのタイプのフォルダをサポートしています。

- ・ お気に入り個人用フォルダ

お気に入りには、任意の数のフォルダを作成し、オブジェクトを整理することができます。[マイドキュメント]ドロワを展開し、[お気に入り]をクリックすると、作成したフォルダを利用できます。作成したお気に入りフォルダにオブジェクトを追加したり、パブリックフォルダ内のオブジェクトへのショートカットやオブジェクトのコピーを作成したり、オブジェクトを作成したりすることができます。

BI 起動パッド内のお気に入りフォルダへのアクセス権があるのはそのフォルダを作成したユーザのみですが、管理者はそのフォルダを管理できます。

- ・ パブリックフォルダ

パブリックフォルダは、管理者または適切なアクセス権限を持つユーザによって作成されます。適切な権限がある場合は、パブリックフォルダを作成し、適切な権限を持つ他のユーザが表示できるオブジェクトを含めることができます。パブリックフォルダを表示するには、[フォルダ]ドロワを展開します。

BI プラットフォームでは次の2つのタイプのカテゴリをサポートしています。

- ・ 個人用カテゴリ

任意の数の個人用カテゴリを作成し、オブジェクトを整理することができます。[マイドキュメント]ドロワを展開し、[個人用カテゴリ]をクリックすると、作成したカテゴリを利用できます。

- ・ 会社用カテゴリ



会社用カテゴリは、通常管理者または適切なアクセス権限を持つユーザによって作成されます。適切な権限がある場合、会社用カテゴリを作成できます。会社用カテゴリを表示するには、[カテゴリ] ドロウを展開します。

### 6.18.1 フォルダまたはカテゴリを作成する

- 1 [ドキュメント] タブで、フォルダまたはカテゴリを作成する場所に移動します。
  - ・ 個人用フォルダを作成するには、[マイドキュメント] ドロウを展開し、[お気に入り] をクリックします。
  - ・ パブリックフォルダを作成するには、[フォルダ] ドロウを展開します。
  - ・ 個人用カテゴリを作成するには、[マイドキュメント] ドロウを展開し、[個人用カテゴリ] をクリックします。
  - ・ 会社用カテゴリを作成するには、[カテゴリ] ドロウを展開します。
- 2 [新規] > [フォルダ]、または [新規] > [カテゴリ] を選択します。
- 3 新しいフォルダまたはカテゴリの名前の入力が必要されたら、名前を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

### 6.18.2 フォルダまたはカテゴリのプロパティを設定する

ユーザ自身が作成したか、またはアクセス権限を持っているフォルダやカテゴリのプロパティを編集できます。フォルダまたはカテゴリの名前、説明、およびキーワードプロパティを変更できます。(キーワードを使用してフォルダおよびカテゴリを検索します)

- 1 [ドキュメント] タブで、プロパティを設定するフォルダまたはカテゴリを検索します。
  - ・ 個人用フォルダのプロパティを編集するには、[マイドキュメント] ドロウを展開し、[お気に入り] をクリックします。
  - ・ パブリックフォルダのプロパティを編集するには、[フォルダ] ドロウを展開します。
  - ・ 個人用カテゴリのプロパティを編集するには、[マイドキュメント] ドロウを展開し、[個人用カテゴリ] をクリックします。
  - ・ 会社用カテゴリのプロパティを編集するには、[カテゴリ] ドロウを展開します。
- 2 フォルダまたはカテゴリを選択し、[表示] > [プロパティ] を選択します。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 (オプション) フォルダ名、説明、およびキーワードを編集します。
- 4 [OK] をクリックします。

### 6.18.3 フォルダへのオブジェクトの追加

ユーザが適切なアクセス権限を持っている場合は、フォルダに個別にオブジェクトを追加し、新規オブジェクトを作成できます。

### 6.18.4 オブジェクトをカテゴリに割り当てる

- 1 カテゴリに割り当てるオブジェクトを含むフォルダに移動します。
- 2 オブジェクトを選択し、[その他のアクション] > [カテゴリ] を選択します。  
[カテゴリ] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 オブジェクトを割り当てるカテゴリを選択します。

#### ヒント

カテゴリを展開するには、カテゴリ名の横にあるプラス記号 (+) をクリックします。

- 4 [OK] をクリックします。

# オブジェクトのスケジュール

## 7.1 オブジェクトのスケジュール

指定された時刻に自動的に実行されるよう、オブジェクトをスケジュールできます。スケジュールしたオブジェクトが正しく実行されると、インスタンスが作成されます。

インスタンスは、オブジェクトを実行した時刻以降のデータを含むオブジェクトのバージョンです。インスタンスのリストは、オブジェクトの履歴で表示できます。オンデマンドでオブジェクトを表示するアクセス権を持っていれば、任意のインスタンスを最新表示して、データソースから最新のデータが取得できます。インスタンスをスケジュールおよび表示することにより、常にオブジェクトの最新情報を表示、印刷および配布することができます。

デフォルトのタイムゾーンは、接続している CMS のローカルタイムゾーンではなく、BI プラットフォームを実行している Web サーバのローカルタイムゾーンです。オブジェクトをスケジュールする前に、BI ラウンチパッドの基本設定でローカルタイムゾーンを選択していることを確認します。基本設定を表示または設定するアクセス権がない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

### 関連項目

- ・ 23 ページの[基本設定の設定](#)

## 7.2 オブジェクトをスケジュールする

デフォルト設定のあるオブジェクトオプションでは、オブジェクトをスケジュールするときにデフォルトを保持するか設定を変更できます。

- 1 [ドキュメント] タブでスケジュールするオブジェクトを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスのナビゲーション一覧でカテゴリをクリックしてから、オブジェクトのそのカテゴリのオプションを設定します。  
スケジュールオプションを設定するカテゴリそれぞれについてこの手順を繰り返します。
- 3 [スケジュール] をクリックします。  
[履歴] ダイアログボックスが表示され、スケジュールされたジョブが [実行中] ステータスのインスタンスとして表示されます。

## 7.2.1 スケジュールされたインスタンスにラベルを設定する

- 1 [ドキュメント] タブで、スケジュールされたインスタンスに名前を割り当てるオブジェクトを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[インスタンスタイトル] をクリックします。
- 3 [インスタンスタイトル] ボックスにインスタンスの名前を入力して、[スケジュール] をクリックします。

## 7.2.2 定期的なスケジュールパターンを選択する

選択した定期的なスケジュールパターンで、BI プラットフォームがオブジェクトを実行するタイミングを指定します。

- 1 オブジェクトを右クリックし、[スケジュール] を選択します。  
[スケジュール] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [繰り返し] をクリックします。
- 3 [オブジェクトの実行] リストで、定期的なスケジュールパターンを選択します。
- 4 [スケジュール] をクリックします。

### 7.2.2.1 定期スケジュールパターン

オプション	説明
今すぐ	オブジェクトを 1 回実行します。すぐに開始されます。
1 回	<p>指定された開始時間に、オブジェクトを 1 回だけ実行します。イベントを使用してオブジェクトをスケジュールする場合、開始時間と終了時間の間にイベントが発生すると、オブジェクトは 1 度だけ実行されます。</p> <p>[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>

オプション	説明
時間単位	<p>指定された時間に、毎時間インスタンスを作成します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎時間指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>[時間 (N)] リストおよび [分 (X)] リストでオブジェクトの実行頻度を選択し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>
日単位	<p>指定された開始時間に、オブジェクトを 1 日に 1 回だけ実行します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎日指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>[日数 (N)] ボックスでオブジェクトの実行間隔を入力し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>
週単位	<p>毎週指定された曜日の指定された開始時間に、オブジェクトを実行します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎週指定された曜日の指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>オブジェクトを実行する各曜日のチェックボックスを選択し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>

オプション	説明
月単位	<p>指定された月間隔で、指定された日の指定された開始時間に、オブジェクトを実行します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、指定された月間隔の指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>[月 (N)] ボックスでオブジェクトの実行間隔を選択し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>
N 日	<p>毎月指定された日の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎月指定された日の指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>オブジェクトの実行開始日時および終了日時、オブジェクトを実行する月の日を入力します。</p>
第 1 月曜日	<p>毎月第 1 月曜日の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。</p> <p>オブジェクトの実行開始時間および実行停止時間を入力します。</p>
月末日	<p>毎月月末の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。</p> <p>オブジェクトの実行開始時間および実行停止時間を入力します。</p>
第 N 週の X 日	<p>毎月指定された週の日の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。</p> <p>オブジェクトの実行開始日時および終了日時、オブジェクトを実行する月の週と週の日を入力します。</p>

オプション	説明
カレンダー	指定されたカレンダーの日付の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。  オブジェクトの実行開始時間および終了時間を入力し、オブジェクトを実行するカレンダーの日付を選択します。

### 7.2.3 データベースログオン情報を指定する

データベースログオン情報を指定するには、オブジェクトのデータソースに対するアクセス権限が必要です。

- 1 [ドキュメント] タブでデータベースログオン情報を指定するオブジェクトを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで [データベースログオン] をクリックします。
- 3 必要に応じてオブジェクトのデータソースのログオン情報を変更し、[スケジュール] をクリックします。

### 7.2.4 インスタンス形式を選択する

スケジュールするオブジェクトの種類に応じて、BI プラットフォームで生成されたときにオブジェクトインスタンスを保存する形式を選択できます。

- 1 [ドキュメント] タブでインスタンス形式を選択するオブジェクトを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで [形式] をクリックし、次の操作のいずれかを実行して出力形式を選択します。
  - ・ Crystal レポートインスタンスの場合は、[出力形式] リストで形式を選択します。
  - ・ Web Intelligence ドキュメントインスタンスの場合は、[選択したドキュメントの形式オプション] リストで形式を選択します。
- 3 必要に応じて残りの形式オプションを設定します。  
一部の Crystal レポートインスタンス形式では、追加オプションを指定する必要がある場合があります。
- 4 必要に応じて他のスケジュールオプションを設定し、[スケジュール] をクリックします。

### 7.2.4.1 インスタンスの出力ファイル形式

#### Crystal レポートのファイル形式[crystalレポートノファイルケイシキ]

オブジェクトは、インスタンスの種類ごとに異なる形式で送信またはスケジュールすることができます。Crystal レポートを特定の形式にスケジュールするために必要なオプションの詳細については、『SAP Crystal Reports 2011 ユーザガイド』のエクスポートに関する情報を参照してください。

[Crystal Reports] オプションは、すべてのオプションのほとんどの書式設定を保持します。Crystal Reports 以外のオプションを選択する場合、BI プラットフォームはその形式で可能な限り多くの書式設定を保持します。ただし、レポートでは一部または全部の書式設定が失われる場合があります。

#### 注

スケジュール時にレポートの印刷を選択すると、レポートインスタンスが Crystal Reports 形式で自動的にプリンタに送信されます。このファイル形式は、レポートをスケジュールする際に選択したファイル形式と競合することはありません。

形式	説明
Crystal レポート	この .rpt 形式は、すべての出力形式オプションのほとんどの書式設定を保持します。この形式では、通常の編集可能なレポートが作成されます。
Crystal レポート (RPTR)	この .rprr 形式では、読み取り専用の Crystal レポートが作成されます。
Microsoft Excel(97-2003)	この .xls 形式では、元のレポートの外観を維持しようとします。データを保持し、セルのマージを行いません。レポートの書式設定プロパティをいくつか指定する必要があります。
Microsoft Excel (97-2003) (データのみ)	この .xls 形式ではデータのみが保存され、各セルはフィールドを表します。
Microsoft Excel ワークブックデータのみ	
Microsoft Word(97-2003)	この .doc 形式では、グラフィックを含め、できるだけ多くの書式設定が保持されます。各オブジェクトは、個別のテキストフィールドに表示されます。
PDF	.pdf 形式



形式	説明
リッチテキスト形式(RTF)	この .rtf 形式では、グラフィックを含め、できるだけ多くの書式設定が保持されます。各オブジェクトは、個別のテキストフィールドに表示されます。このオプションは、Web ビューアでのみ使用できます。
Microsoft Word – 編集可能 (RTF)	この .doc 形式で維持される書式設定は、Microsoft Word (97–2003) オプションよりも少なくなります。テキストは行内に表示され、イメージはテキストと共に行内に配置されます。
テキスト	
ページ区切り付きテキスト	レポートの書式設定プロパティをいくつか指定する必要があります。
タブ区切りテキスト (TTX)	この形式では、複数の値の間にタブ文字を置きます。レポートの書式設定プロパティをいくつか指定する必要があります。
カンマ区切り値(CSV)	この .csv 形式では、複数の値の間に指定された文字を置きます。レポートの書式設定プロパティをいくつか指定する必要があります。たとえば、このオプションを選択した場合は、区切り文字および区切り記号を入力する必要があります。
XML	.xml 形式

## Web Intelligence ファイル形式

形式	説明
Web Intelligence	
Microsoft Excel	
Adobe Acrobat	.pdf 形式
カンマ区切り値 (CSV)	.csv 形式

### 7.2.4.2 Crystal レポートインスタンスの書式設定オプション

Crystal レポートインスタンスをいくつかの出力形式にスケジュールする場合、追加のオプションの設定が必要になる場合があります。

表 7-4: Microsoft Excel (97-2003) 形式

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。</li> <li>ある範囲のページを含めるには、[開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] フィールドに最後に含めるページ番号を入力します。</li> </ul>
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート内のオブジェクトに基づいて Excel 列の幅を設定するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる] を選択し、リストで列幅を取得するレポート領域を選択します。</li> <li>一定の列幅を設定するには、[列幅を一定にする (ポイント単位)] を選択し、ボックスに幅を入力します。</li> </ul>
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	<ul style="list-style-type: none"> <li>インスタンスにページヘッダとページフッタをエクスポートするタイミングを選択するには、[レポートごとに 1 回] または [各ページ] を選択します。</li> <li>インスタンスからページヘッダおよびページフッタを除外するには、[なし] を選択します。</li> </ul>
ページごとにページ区切りを作成	レポート内の各ページの後にページ区切りを作成する場合は、このチェックボックスを選択します。
日付の値を文字列に変換する	レポート内の日付値をテキスト文字列としてエクスポートする場合は、このチェックボックスを選択します。
グリッドラインの表示	エクスポートしたドキュメントにグリッドラインを表示する場合は、このチェックボックスを選択します。

表 7-5: Microsoft Excel (97-2003) (データのみ) および Microsoft Excel ワークブックのデータ専用形式

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート内のオブジェクトに基づいて Excel 列の幅を設定するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる]を選択し、リストで列幅を取得するレポート領域を選択します。</li> <li>一定の列幅を設定するには、[列幅を一定にする (ポイント単位)]を選択し、ボックスに幅を入力します。</li> </ul>
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	オブジェクトの書式設定を維持する場合は、このチェックボックスを選択します。
画像をエクスポートする	レポート内の画像をエクスポートする場合は、このチェックボックスを選択します。
集計にワークシートの関数を使用する	レポートで集計を使用して Excel でワークシート関数を作成する場合は、このチェックボックスを選択します。
オブジェクトの相対位置を維持する	別のオブジェクトと相対的なオブジェクトの位置を維持する場合は、このチェックボックスを選択します。
列の配置を維持する	レポートの列内のテキスト配置を維持する場合は、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	インスタンスにヘッダおよびフッタを含める場合は、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダを簡略化する	簡略なページヘッダを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。
グループのアウトラインを表示する	グループアウトラインを表示する場合は、このチェックボックスを選択します。

表 7-6: Microsoft Word (97-2003) 形式

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。</li> <li>ある範囲のページを含めるには、[開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] フィールドに最後に含めるページ番号を入力します。</li> </ul>

表 7-7: PDF 形式

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。</li> <li>ある範囲のページを含めるには、[開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] フィールドに最後に含めるページ番号を入力します。</li> </ul>
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
グループツリーからブックマークを作成	レポートのツリー構造に基づいて PDF ファイルにブックマークを作成する場合は、このチェックボックスを選択します。これにより、レポート内での移動が簡単になります。

表 7-8: リッチテキスト形式 (RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。</li> <li>ある範囲のページを含めるには、[開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] フィールドに最後に含めるページ番号を入力します。</li> </ul>

表 7-9: Microsoft Word – 編集可能 (RTF) 形式

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。</li> <li>ある範囲のページを含めるには、[開始] を選択して最初を含めるページを入力し、[終了] ボックスに最後に含めるページを入力します。</li> </ul>

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
レポートのページごとに改ページする	レポート内の各ページの後にページ区切りを挿入する場合に、このチェックボックスを選択します。

表 7-10: テキスト形式

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
インチあたりの文字数	インチあたりに含める文字数として 8 ～ 16 の値を入力します。この設定では、テキストファイルの表示方法と書式設定方法を指定します。

表 7-11: ページ区切り付きテキスト形式

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
1 ページあたりの行数	ページ区切り間に含めるテキストの行数を入力します。
インチあたりの文字数	インチあたりに含める文字数として 8 ～ 16 の値を入力します。この設定では、テキストファイルの表示方法と書式設定方法を指定します。

表 7-12: 区切り値 (CSV) 形式

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
区切り文字	区切り文字として使用する文字を入力します。
区切り文字	値を区切るのに使用する文字を入力するか、[タブ] チェックボックスを選択します。
モード	[標準モード] または [レガシーモード] を選択します。  [標準モード] を選択すると、インスタンスに含めるレポートセクション、ページセクション、およびグループセクションを選択できます。[レガシーモード] を選択すると、レポートセクション、ページセクション、またはグループセクションのオプションを選択できません。
レポートセクションとページセクション	[標準モード] を選択した場合、[エクスポート] または [エクスポートしない] を選択してレポートセクションとページセクションをエクスポートするかどうかを指定します。  [エクスポート] を選択した場合、レポートセクションとページセクションを切り離すには、[レポート/ページセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。
グループセクション	[標準モード] を選択した場合、[エクスポート] または [エクスポートしない] を選択してグループセクションをエクスポートするかどうかを指定します。  [エクスポート] を選択した場合、グループセクションを切り離すには、[グループセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。

表 7-13: XML

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
XML エクスポート形式	[Crystal Reports XML] などの XML エクスポート形式を選択します。

## 7.2.5 出力先を選択する

オブジェクトインスタンスをスケジュールして、コンピュータ、ネットワーク、デフォルトのファイルの場所、電子メール、FTP サーバ、SAP Jam または SAP StreamWork (使用可能な場合) のいずれかの出力先に送信できます。

利用できる出力先は、システム管理者が有効にしている出力先とユーザのアクセス権限によって変わります。

管理者があるオブジェクトのある出力先を指定していた場合、[スケジュール] ダイアログボックスにその出力先のオプションがリスト表示されます。出力先のオプションを設定するか、別の出力先を選択することができます。ほとんどの出力先で、追加情報を設定する必要があります。

- 1 [ドキュメント] タブで出力先を選択するオブジェクトを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[出力先] をクリックします。  
[出力先] ダイアログボックスが表示されます。利用できるオプションは、選択した出力先によって変わります。
- 3 [出力先] リストで出力先を選択します。
- 4 インスタンスのコピーを保存する場合は [履歴にインスタンスを保持する] チェックボックスをオンにします。
- 5 出力先のデフォルトの設定を使用する場合は、[デフォルト設定を使用] チェックボックスをオンにします。
- 6 必要に応じて残りの出力先オプションを設定します。
- 7 [スケジュール] をクリックします。

### 7.2.5.1 出力先

次の出力先を選択できます。

- ・ デフォルトの Enterprise の場所
- ・ BI 受信ボックス
- ・ 電子メール
- ・ FTP サーバ
- ・ ファイルシステム
- ・ SAP StreamWork (有効化かつ設定されている場合)

表 7-14: デフォルトの Enterprise の場所出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションには、そのパブリケーションを作成したフォルダからアクセスできます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li><li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li></ul> <p>この場所にパブリケーションを送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。</p>	<p>Output File Repository Server</p> <p>履歴のインスタンスはデフォルトの Enterprise サーバに保存されますが、他の出力先には保存されません。</p>



表 7-15: BI 受信ボックス出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、各受信者の BI 受信ボックスに送信されます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> </ul> <p><b>注</b> ユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索] ボックスで受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを検索できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デフォルトのファイル名を使用するか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>・ ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリケーションをショートカットまたはコピーとして送信する。パブリケーションを受信者の BI 受信ボックスにショートカットとして送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。パブリケーションのショートカットを BI 受信ボックスに送信するには、出力先として、[BI 受信ボックス] および [デフォルトの Enterprise の場所] の両方を選択します。</li> <li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Output File Repository Server</li> <li>・ 指定された BI 受信ボックス</li> </ul>

表 7-16: 電子メール出力先

説明	インスタンスの保存先
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ Output File Repository Server</li><li>・ 指定された電子メール受信者</li></ul> <p>レポートインスタンスをスケジュールするかこの出力先に送信するには、Adaptive Job Server で電子メール (SMTP) の出力先を有効にして設定する必要があります。</p>

説明	インスタンスの保存先
<p><b>注</b></p> <p>この出力先を選択する前に、Adaptive Job Server で電子メール設定が正しく設定されていることを確認します。</p> <p>パブリケーションは、電子メールで受信者に送信されます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> <li>・ (必須) [差出人] ボックスに自分の電子メールアドレスを入力する。電子メールアドレスを入力しない場合、BI プラットフォームでは、公開者のアカウントに関連付けられている電子メールアドレスが使用されます。公開者のアカウントに電子メールアドレスがない場合、BI プラットフォームでは、Adaptive Job Server の電子メールアドレスが使用されます。</li> </ul> <p><b>警告</b></p> <p>[差出人] ボックス、公開者のアカウント、または Adaptive Job Server のいずれにも電子メールアドレスがない場合、パブリケーションは失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [宛先] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [CC] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [BCC] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [件名] ボックスに件名を入力するか、プレースホルダを追加する</li> <li>・ [メッセージ] ボックスに、パブリケーションと一緒に配信する情報を入力するか、プレースホルダを追加して電子メール本文に動的コンテンツドキュメントを埋め込む</li> <li>・ ソースドキュメントのインスタンスを電子メールに添付する</li> <li>・ デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイ</li> </ul>	

説明	インスタンスの保存先
<p>ル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	

表 7-17: FTP サーバ出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、FTP サーバに送信されます。[ホスト] ボックスに、FTP サーバの場所を入力する必要があります (入力しないと、BI プラットフォームは、Adaptive Job Server 用に設定された FTP サーバを使用します)。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>ポート番号、ユーザ名とパスワード、およびアカウントを入力する</li> <li>ディレクトリ名を入力する</li> <li>デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する] を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Output File Repository Server</li> <li>選択された FTP サーバ</li> </ul>

表 7-18: ファイルシステム出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、ファイルシステムのディレクトリに送信されます。パブリケーションのディレクトリを入力する必要があります。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ ファイルの場所にアクセスするためのユーザ名とパスワードを入力する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> <li>・ デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>・ ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Output File Repository Server</li> <li>・ 選択されたファイルの場所</li> </ul>

表 7-19: SAP StreamWork 出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、他のユーザとのコラボレーションのために送信されます。</p> <p><b>注</b> この出力先は、BI プラットフォームで SAP StreamWork が設定されて有効化されている場合に使用できます。</p>	SAP StreamWork

デフォルトでは、すべての出力先に対して [各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスがオンになっています。ただし、場合によっては、各ユーザにオブジェクトを配信しないようにする場合もあります。たとえば、3 人の受信者が同一のパーソナライゼーション値を持っていると、パブリケーションインスタンスの同じデータが受

信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオフにした場合は、1 つのパブリケーションインスタンスが生成され、それが 3 人の受信者すべてに配信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオンにした場合は、同じパブリケーションインスタンスが 3 回 (受信者ごとに 1 回ずつ) 配信されます。

パブリケーションを [FTP サーバ] または [ファイルシステム] 出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオフにすると、処理時間全体を短縮できます。[各ユーザにオブジェクトを配信] をオフにする場合は、出力先の設定時に使用するプレースホルダには、受信者ではなく公開者の情報が入力されます。

### 7.2.5.2 出力先オプション

#### 注

CMC の [サーバ] エリアで、デフォルトの Adaptive Job Server の設定を変更できます。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

表 7-20: デフォルトの Enterprise の場所出力先

オプション	説明
出力先	<p>デフォルトの Enterprise の場所</p> <p>スケジュールされたジョブは、Output File Repository Server (FRS) で実行されます。この出力先では、追加のオプションを設定する必要はありません。</p> <p>履歴のインスタンスはデフォルトの Enterprise サーバに保存されますが、他の出力先には保存されません。</p>

表 7-21: BI 受信ボックス出力先

オプション	説明
出力先	BI 受信ボックス

オプション	説明
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
デフォルト設定を使用	<p>BI 受信ボックスのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p>
[利用可能な受信者] および [選択した受信者]	[利用可能な受信者] リストで、インスタンスの送信先とするユーザまたはユーザグループを選択して、[>] をクリックして [選択した受信者] リストにユーザまたはユーザグループを追加します。
タイトルの検索 (利用可能な場合)	[利用可能な受信者] リストでユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索] ボックスに受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを入力します。
ターゲット名	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。</li> <li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、および [ファイル拡張子] です。</li> </ul> <p>インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択します。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開けないことがあります。</p>
送信者の名前	<ul style="list-style-type: none"> <li>インスタンスへのショートカットを受信者に送信するには、[ショートカット] を選択します。</li> <li>インスタンスのコピーを受信者に送信するには、[コピー] を選択します。</li> </ul>

表 7-22: 電子メール出力先

オプション	説明
出力先	電子メール
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
デフォルト設定を使用	<p>電子メールのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p>
差出人	<p>差出人の電子メールアドレスを入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] です変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミicolon (;) で区切ります。</p> <p><b>注</b> システム設定によっては、このオプションを使用できない場合があります。</p>
宛先	<p>インスタンスを送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] です変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミicolon (;) で区切ります。</p>
CC	<p>電子メールとインスタンスのコピーを送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] です変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミicolon (;) で区切ります。</p>
BCC	<p>非公開受信者の電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] です変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミicolon (;) で区切ります。</p>



オプション	説明
件名	電子メールの件名を入力するか、[プレースホルダの追加] リストから件名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] です変数をクリックして追加します。
メッセージ	電子メール本文のメッセージを入力するか、[プレースホルダの追加] リストからメッセージの変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、[ビューア]、および [ドキュメント名] です。変数をクリックして追加します。
添付ファイルの追加	インスタンスを含む電子メールに添付ファイルを追加する場合は、このチェックボックスをオンにします。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。</li> <li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、および [ファイル拡張子] です。</li> </ul> <p>インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択します。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開けないことがあります。</p>

表 7-23: FTP サーバ出力先

オプション	説明
出力先	FTP サーバ
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>

オプション	説明
デフォルト設定を使用	<p>FTP サーバのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p> <p>CMC の [サーバ] エリアで、値を変更できます。詳細については、『SAP Business Objects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。</p>
ホスト	インスタンスを送信する FTP サーバホストコンピュータの IP アドレスを入力します。
ポート	インスタンスを送信する FTP サーバのポートを入力します。デフォルトは「21」です。
ユーザ名	FTP サーバにオブジェクトをアップロードするアクセス権限を持つユーザ名を入力します。
パスワード	FTP サーバへのアクセスに必要なパスワードを入力します。
Account	<p>FTP サーバへのアクセスに必要なアカウントを入力します。</p> <p><b>注</b> アカウントは標準の FTP プロトコルの一部ですが、実装されている場合はまれです。アカウントは、FTP サーバで必要な場合にのみ入力します。</p>
ディレクトリ	インスタンスを送信する FTP ディレクトリへのパスを入力します。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。</li> <li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、[ドキュメント名]、および [ファイル拡張子] です。</li> </ul> <p>インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択します。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開けないことがあります。</p>

表 7-24: ファイルシステム出力先

オプション	説明
出力先	ファイルシステム
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p><b>注</b> インスタンスは、イベントを監査するのに必要です。このチェックボックスは、スケジュールされたオブジェクトで監査が有効にされている場合は、無効にされます。</p>
デフォルト設定を使用	<p>ファイルシステムのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p>
ユーザ名	<p>出力先ディレクトリにファイルを保存するアクセス権限を持つユーザ名を入力します。</p> <p><b>注</b> Windows のサーバにだけ、ユーザ名とパスワードを指定することができます。</p>
パスワード	<p>出力先ディレクトリへのアクセスに必要なユーザパスワードを入力します。</p> <p><b>注</b> Windows のサーバにだけ、ユーザ名とパスワードを指定することができます。</p>
ディレクトリ	<p>ローカルハードディスクの場所かマップされた場所へのパス、またはインスタンスを送信するディレクトリへの UNC パスを入力します。</p> <p>Web Intelligence ドキュメントをスケジュールしていて、変数 (インスタンスのタイトル、オーナー、日時、ユーザ名など) に基づいてフォルダを作成する場合は、プレースホルダを使用します。プレースホルダは、このボックスのテキストの後に挿入されます。</p>

オプション	説明
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する]を選択します。</li> <li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する]を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、[ドキュメント名]、および [ファイル拡張子] です。</li> </ul> <p>インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択します。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開けないことがあります。</p>

[SAP StreamWork] 出力先は、BI プラットフォームで SAP StreamWork が有効化されて設定されている場合に使用できます。

表 7-25: SAP StreamWork 出力先

オプション	説明
出力先	SAP StreamWork
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
デフォルト設定を使用	<p>SAP StreamWork のデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先オプションを設定します。</p>
ファイル	このボックスにはファイル名が表示されます。ここで、名前を変更することはできません。
出力先の選択	レポートの出力先として、既存または新しいアクティビティを選択します。ワークリストでアクティビティをフィルタリングする場合は、最初のリストを使用します。

オプション	説明
ワークリストの選択	ワークリストの名前を入力するか、リストで選択します。
アクティビティの選択	アクティビティの名前を入力するか、リストで選択します。
アクティビティ名	オブジェクトを新しいアクティビティに公開する場合は、このボックスにアクティビティの名前が表示されます。
アクティビティの目的	このボックスには、可能な場合に、アクティビティの目的が表示されます。
アイテムの説明	(オプション) 参加者がオブジェクトの内容と使用方法を理解しやすくするために、オブジェクトのコンテンツに関する説明を入力します。
アクティビティの種類 の選択	(オプション) スケジュールするアクティビティの種類を選択します。
参加者の追加	(オプション) 新しい SAP StreamWork アクティビティを作成する場合は、アクティビティに招待する各参加者（ユーザ）の電子メールアドレスを入力します。電子メールアドレスは、カンマで区切ります。

## 7.2.6 レコード選択式を適用する

オブジェクトにレコードまたはグループ選択式が含まれる場合は、オブジェクトをスケジュールする前にこの式を変更できます。選択式を使用すれば、どのデータをレポートに表示するかを決定できます。また、不要なレコードを取り除いて、パフォーマンスを向上させることができます。レコード選択式の詳細については、『SAP Crystal Reports ユーザガイド』を参照してください。

- 1 [ドキュメント] タブで、レコードまたはグループ選択式を適用するオブジェクトを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで [フィルタ] をクリックします。
- 3 必要に応じてレコードまたはグループの選択式を変更します。
- 4 [スケジュール] をクリックします。

## 7.2.7 Crystal レポートの印刷設定を選択する

Crystal レポートをスケジュールすると、レポート生成後にオブジェクトのインスタンスを印刷できます。

- 1 [ドキュメント] タブで Crystal レポートの印刷設定を選択するオブジェクトを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[出力設定] をクリックします。
- 3 Web ビューアの印刷モードを選択します。
  - ・ レポートを PDF 形式で印刷する場合は、[常に PDF に印刷する (プレビュー)] を選択します。
  - ・ レポートのデフォルトの印刷設定を使用する場合は、[Crystal Reports の基本設定に従う] を選択します。
- 4 レポートを実行後に印刷する場合は、[スケジュール時に Crystal レポートを印刷する] チェックボックスをオンにして、以下の操作を実行します。
  - a [デフォルトのプリンタを使用するか、または特定のプリンタを指定します] で、[通常使用するプリンタ] を選択してデフォルトのプリンタを使用するか、[プリンタの指定] を選択してリストでプリンタを選択します。
  - b [部数] ボックスに、印刷する部数を入力します。
  - c [ページ範囲] で、レポートのすべてのページを印刷する場合に [すべて] を選択するか、[ページ] を選択して印刷する最初のページ番号を [開始] ボックスに、印刷する最後のページ番号を [終了] ボックスに入力します。
  - d [部単位で印刷するオプションを設定] リストで、[部単位で印刷]、[ページ単位で印刷]、または [プリンタのデフォルト値を使用] を選択してインスタンスを部単位で印刷するかどうかを指定します。
  - e [ページの拡大縮小] リストで、[拡大して合わせる]、[縮小のみで合わせる]、または [縮小拡大しない] を選択します。
  - f 各ページを中央揃えにする場合は、[ページの中央揃え] チェックボックスをオンにします。
  - g 横方向のページを用紙に合わせる場合は、[横方向のページを 1 ページに合わせる] チェックボックスをオンにします。
- 5 (オプション) [レイアウトの設定] の横にある [ページレイアウトの指定] で、ページレイアウトを選択します。
  - ・ レポートのページレイアウトを使用する場合は、[レポートファイルのデフォルト] を選択します。
  - ・ プリンタのページレイアウトを使用する場合は、[指定のプリンタ設定] を選択して、[通常使用するプリンタ] または [プリンタの指定] を選択します。

[プリンタの指定] を選択した場合は、リストでプリンタを選択します。

  - ・ ページレイアウトを選択する場合は、[カスタム設定] を選択して、[標準のレイアウト設定を使用する] または [カスタムレイアウト設定を使用する] を選択します。

[カスタムレイアウト設定を使用する] を選択した場合は、[縦] 方向または [横] 方向を選択し、[用紙サイズ] リストで用紙サイズを選択します。
- 6 [スケジュール] をクリックします。

## 7.2.8 パラメータ (プロンプト) でオブジェクトをスケジュールする

パラメータでは、情報の入力が必要とされます。レポートオブジェクトでは、入力した情報によってレポートに表示されるデータが決まります。Web Intelligence ドキュメントでは、パラメータはプロンプトと呼ばれます。

たとえば、営業で使用するレポートでは、ユーザに地域の選択を求めるパラメータが示されます。ユーザが地域を選択すると、レポートには、その地域の結果のみが表示されます。

### 注

スケジュールするオブジェクトにパラメータが含まれない場合は、[プロンプト] オプションは利用できません。

- 1 [ドキュメント] タブでパラメータをスケジュールするオブジェクトを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[プロンプト] をクリックします。  
パラメータオプションがどのように表示されるかは、システム管理者がパラメータフィールドを設定した方法に応じて、オブジェクトごとに異なります。たとえば、プログラムオブジェクトは [引数] ボックスに表示されることがあります。
- 3 [プロンプト] ダイアログボックスで、必要に応じてパラメータ値を変更します。
  - ・ Crystal レポートの場合は、[値の編集] をクリックしてパラメータ値を変更します。
  - ・ Web Intelligence ドキュメントの場合は、[変更] をクリックしてプロンプト値を編集します。
- 4 [スケジュール] をクリックします。

## 7.2.9 イベントでオブジェクトをスケジュールする

イベントベースのスケジュールでは、オブジェクトをスケジュールするときに追加の制御ができます。指定したイベントの発生後にオブジェクトが実行されるように、BI プラットフォームを設定できます。イベントに関する作業は、イベントの作成と、オブジェクトのスケジュールという2つの手順によって成り立ちます。イベントを作成した後で、オブジェクトをスケジュールする際にそれを依存関係として選択できます。これにより、スケジュールされたジョブは、イベントの発生時に処理されます。

オブジェクトをスケジュールするときに、セントラル管理コンソール (CMC) でイベントを作成してから、BI ラウンチパッドでイベントを選択します。イベントを使用するオブジェクトのスケジュールの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド』を参照してください。

- 1 [ドキュメント] タブでイベントをスケジュールするオブジェクトを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで [イベント] をクリックします。
- 3 スケジュールされたオブジェクトを発生させるイベントを指定するには、[利用可能なイベント] リストでイベントを選択してから、[>] をクリックしてイベントを [待機するイベント] リストに移動します。

- 4 スケジュールされたジョブの終了時に発生させるイベントを指定するには、スケジュールされたイベントを [利用可能なスケジュールイベント] リストで選択してから、[>] をクリックしてイベントを [完了時に発生させるイベント] リストに移動します。
- 5 [スケジュール] をクリックします。

## 7.2.10 スケジュールするオブジェクトのサーバグループを選択する

- 1 [ドキュメント] タブでサーバグループを選択するオブジェクトを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[スケジューリングサーバグループ] をクリックします。
- 3 次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ (デフォルト) スケジュール時に最も多くのリソースが空いているサーバでオブジェクトを実行する場合は [最初に見つかった利用可能なサーバを使用する] を選択します。
  - ・ 選択したサーバグループのサーバでオブジェクトの実行を試みる場合は [選択したグループに所属するサーバを優先して使用する] を選択してから、リストでサーバグループを選択します。サーバグループに使用できるサーバがない場合、オブジェクトは次に利用可能なサーバで実行されます。
  - ・ 選択したサーバグループのサーバでのみオブジェクトを実行する場合は [選択したグループに所属するサーバだけを使用する] を選択してから、リストでサーバグループを選択します。指定したサーバグループのサーバが使用できない場合、オブジェクトは処理されません。
- 4 BI プラットフォームのデプロイメント環境でフェデレーションを使用し、オブジェクトが配置されているサイトでオブジェクトを実行する場合は、[元のサイトで実行] チェックボックスをオンにします。
- 5 [スケジュール] をクリックします。

## 7.2.11 Web Intelligence ドキュメントのキャッシュ形式を選択する

キャッシュオプションを選択する前に、オブジェクトの出力形式として Web Intelligence が選択されていることを確認します。別の出力形式が選択されている場合は、キャッシュオプションは効果がありません。

スケジュールされた Web Intelligence ドキュメントを BI プラットフォームが実行する際には、インスタンスが生成され、Output File Repository Server に保存されます。ドキュメントのキャッシュ形式を選択して、適切な Report Server にレポートをキャッシュすることも可能です。キャッシュ形式を選択しないと、BI プラットフォームではドキュメントがキャッシュされません。

- 1 [ドキュメント] タブでキャッシュ形式を選択するオブジェクトを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[キャッシュ] をクリックします。
- 3 [スケジュール時にキャッシュをプリロードするための形式を選択する] で、1 つまたは複数のチェックボックスをオンにします。  
複数のキャッシュ形式を選択できます。



- 4 [利用可能なロケール] で 1 つまたは複数のキャッシュ用ロケールを選択し、[>] をクリックしてロケールを [選択されたロケール] リストに移動します。

ドキュメントをスケジュールすると、BI プラットフォームでは選択した形式とロケールが事前ロードされて、指定したロケールにドキュメントのキャッシュバージョンが生成されます。

- 5 [スケジュール] をクリックします。

## 7.2.12 Crystal レポートインスタンスの言語を選択する

- 1 [ドキュメント] タブでレポートインスタンスの言語を選択するオブジェクトを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[言語] をクリックします。
- 3 次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ 基本設定で設定した優先表示ロケールに従ってレポートをスケジュールし、そのロケールのみを使用してインスタンスを作成する場合は、[優先表示ロケールでレポートをスケジュール] を選択します。
  - ・ 複数の言語でレポートをスケジュールする場合は、[複数のロケールでレポートをスケジュール] を選択し、[すべてのロケール] リストで 1 つ以上のロケールを選択して、[>] をクリックしてロケールを [選択インスタンスのロケール] リストに移動します。
- 4 [スケジュール] をクリックします。

## 7.3 インスタンスの一時停止および再開

ステータスが [待機] または [定期] のオブジェクトに対して、オブジェクトのスケジュールされたインスタンスを一時停止してから再開できます。

たとえば、Job Server が保守目的で停止されている場合は、スケジュールされたインスタンスを一時停止して BI プラットフォームがオブジェクトを実行しないようにすることができます。Job Server が稼働していないとき、スケジュールされたジョブは失敗します。Job Server が再始動したら、このスケジュールされたインスタンスを再開することができます。

### 7.3.1 インスタンスを一時停止する

- 1 オブジェクトインスタンスを右クリックし、[履歴]を選択します。
- 2 [履歴] ダイアログボックスで、一時停止するスケジュールされたインスタンスを選択します。
- 3 [一時停止] をクリックします。

### 7.3.2 一時停止したインスタンスを再開する

- 1 オブジェクトインスタンスを右クリックし、[履歴]を選択します。
- 2 [履歴] ダイアログボックスで、再開する一時停止したインスタンスを選択します。
- 3 [再開] をクリックします。

## 7.4 オブジェクトパッケージのスケジュール

オブジェクトパッケージは、他のオブジェクトのコンテナ (コンポーネント) として機能するオブジェクトです。オブジェクトパッケージには、スケジュール可能なすべてのオブジェクトタイプを設定できます。オブジェクトパッケージは、セントラル管理コンソール (CMC) で作成して編集できます。

オブジェクトをオブジェクトパッケージに追加するには、CMC で適切なアクセス権を持っているユーザがオブジェクトをコピーして、オブジェクトパッケージに貼り付ける必要があります。オブジェクトパッケージのコンポーネントは、コピー元のオブジェクトとは分離されます。オブジェクトは、オブジェクトパッケージのコンポーネントになります。

オブジェクトパッケージをスケジュールすると、コンポーネントごとにインスタンスが作成されるため、複数のオブジェクトを同時にスケジュールできます。オブジェクトパッケージの 1 つのコンポーネントをスケジュールするには、そのオブジェクトパッケージのすべてのコンポーネントをスケジュールする必要があります。オブジェクトパッケージのスケジュールは、個別のオブジェクトのスケジュールとは多少異なります。オブジェクトパッケージレベルで、次のスケジュールオプションを設定します。

- ・ 繰り返し
- ・ 出力先
- ・ イベント
- ・ サーバー グループの設定

オブジェクトパッケージの各コンポーネントに、次のスケジュールオプションを設定します。

- ・ 通知
- ・ データベースログオン設定
- ・ フィルタ (適用可能な場合)
- ・ 形式
- ・ 印刷設定
- ・ パラメータまたはプロンプト
- ・ 引数 (適用可能な場合)

## 7.4.1 オブジェクトパッケージをスケジュールする

- 1 IOMS-コンテンツエクスプローラで、スケジュールするオブジェクトパッケージを検索して選択します。
- 2 IOMS-コンテンツエクスプローラツールバーで、[アクション] をクリックし、表示されるリストから [スケジュール] を選択します。
- 3 [スケジュール] ダイアログボックスの [インスタスタイトル] ボックスにインスタンスのタイトルを入力します。
- 4 [繰り返し] をクリックし、オブジェクトパッケージの [オブジェクトの実行] リストから定期的なスケジュールパターンを選択します。
- 5 [イベント] をクリックし、オブジェクトパッケージに関する 1 つまたは複数のイベントを選択します。
- 6 [サーバグループのスケジュール] をクリックし、オブジェクトパッケージを実行するサーバグループを選択します。
- 7 [出力先] をクリックし、オブジェクトパッケージの出力先を選択します。
- 8 [コンポーネント] をクリックし、コンポーネント名をクリックして、コンポーネントの通知、データベースログオン、フィルタ、形式、印刷、キャッシュ、パラメータ/プロンプトを設定し、[OK] をクリックします。
- 9 オブジェクト内のコンポーネントごとに、手順 8 を繰り返します。
- 10 [スケジュール] をクリックします。  
選択したオプションに基づいて、スケジュールした時間にオブジェクトパッケージが実行されます。

## 7.5 インスタンスの使用

インスタンスとは、レポートの単一のパブリケーションです。

BI ラウンチパッドが SAP Jam または SAP StreamWork と統合されている場合、[履歴] ダイアログボックスまたは [フィード] パネルの [コラボレーション] ドロウでインスタンスのディスカッションを表示できます。

### 関連項目

- ・ 103 ページの [コラボレーションの使用](#)


Web 上でホストされる SAP Jam または SAP StreamWork により、BI ラウンチパッドに協調的意思決定およびソーシャルメディアの機能が追加されます。

### 7.5.1 オブジェクトの最新のインスタンスを表示する

Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、パブリケーション、およびオブジェクトパッケージなどのオブジェクトの最新のインスタンスを表示できます。

- ・ オブジェクトを右クリックし、[表示] を選択します。

#### ヒント

必要なアクセス権限が与えられている場合は、ビューアツールバーの  をクリックして、レポートまたはドキュメントをデータソースの最新情報で最新表示できます。

オブジェクト用に設定されたビューアにオブジェクトの最新のインスタンスが表示されます。

## 7.5.2 履歴インスタンスの表示

BI プラットフォームは、スケジュール済みのオブジェクトを実行後、オブジェクトインスタンスの履歴をデフォルトの Enterprise サーバに保存します。



[履歴] ダイアログボックスでは、最新のインスタンスをリストの先頭にして、オブジェクトインスタンスが時系列で表示されます。表示しているオブジェクトのタイプによって、以下の履歴情報を使用できる場合があります。

- ・ インスタンスの日時
- ・ タイトル
- ・ ステータス
- ・ 作成者
- ・ タイプ
- ・ ロケール
- ・ パラメータ

### 7.5.2.1 オブジェクトの履歴を表示する

- 1 オブジェクトを右クリックし、[履歴] を選択します。
- 2 [履歴] ダイアログボックスの [インスタンスの日時] 列のリンクをダブルクリックして、履歴インスタンスを表示します。

#### ヒント

[インスタンスの日時]、[タイトル]、[ステータス]、または [作成者] 列見出しの横の  をクリックすると、すべてのインスタンスが列の情報で並べ替えて表示されます。列見出しをポイントすると  アイコンが表示されます。

### 7.5.2.2 BI 受信トレイを空にする

BI 受信ボックスからすべてのインスタンスを削除できます。

- 1 [ドキュメント] タブで [マイドキュメント] ドロワを展開し、[受信ボックス] をクリックします。  
BI 受信ボックスのコンテンツが表示されます。
- 2 [整理] > [すべてのメッセージを削除] をクリックします。
- 3 メッセージが表示されたら、[OK] をクリックして削除を確定します。



## コラボレーションの使用

Web 上でホストされる SAP Jam または SAP StreamWork により、BI ラウンチパッドに協調的意思決定およびソーシャルメディアの機能が追加されます。

コラボレーションを使用するには、BI プラットフォームがコラボレーション用に設定されている必要があります。BI ラウンチパッドで使用可能なコラボレーションアプリケーションがない場合は、システム管理者に連絡してください。

コラボレーションを使用して、以下のタスクを行うことができます。

- ・ Crystal レポートおよび Web Intelligence ドキュメントの SAP StreamWork アクティビティへの送信またはスケジュール
- ・ SAP StreamWork フィードのモニタリング
- ・ ドキュメントおよびインスタンスへのコメントの投稿、およびパブリックドキュメントに関して他の SAP Jam または SAP StreamWork ユーザによって投稿されたコメントの表示

フィードへのコメントの表示および投稿は、フィードパネルで行います。

### 8.1 コラボレーション列




コラボレーションの機能およびオプションは、BI ラウンチパッドの [ドキュメント] タブに表示されます。

他のユーザがドキュメントまたはインスタンスにコメントすると、タブの [コラボレーション] 列のツールヒントでフィードのステータスが説明され、アイコンによってドキュメントにコメントがあるかどうか、およびユーザがフィードをフォローしているかどうかを示されます。

機能	説明
フィードパネル	表示権限またはコメント権限のあるドキュメントまたはインスタンスに対して他のユーザが投稿したコメントを表示します。ディスカッションへの参加もここでを行います。
フィードパネルの [コラボレーション] ドロウ	ドロウをクリックして、フィードパネルを開いたり閉じたりすることができます。

機能	説明
リストパネルの [コラボレーション] 列	フィードのステータスおよびそのフィードに参加しているかどうかを示すアイコンが含まれています。
[フォロー] および [フォロー解除] の右クリック項目	フィードのフォローまたはフォロー解除を行うことができます。便宜上、これらのメニュー項目は [その他のアクション] メニューでも使用できます。
[コラボレーション] の出力先 ([送信] メニューおよび [スケジュール] メニュー)	コラボレーション用にドキュメントを SAP StreamWork に送信またはスケジュールする場合には、この出力先を選択します。

### 8.1.1 コラボレーション列のアイコン

アイコン	意味
	このドキュメントまたはインスタンスのフィードをフォローしています。
	このドキュメントまたはインスタンスに対するコメントが投稿されています。
	このドキュメントまたはインスタンスに対するコメントは投稿されていません。

### 8.1.2 コラボレーション列を表示する

[コラボレーション] 列は、管理者がセントラル管理コンソール (CMC) で有効化した場合にデフォルトで表示されます。有効化されていない場合でも、ユーザは列を表示できます。

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 2 [基本設定] ダイアログボックスで、[全般] をクリックします。
- 3 [[ドキュメント] タブに表示される列を選択します] で、[コラボレーション/ディスカッションステータス] チェックボックスをオンにします。



- 4 [保存して閉じる] をクリックします。  
[ドキュメント] タブに [コラボレーション] 列が表示されます。

### 8.1.3 コラボレーション列を非表示にする

- 1 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 2 [基本設定] ダイアログボックスで、[全般] をクリックします。
- 3 [[ドキュメント] タブに表示される列を選択します] で、[コラボレーション/ディスカッションステータス] チェックボックスをオフにします。
- 4 [保存して閉じる] をクリックします。  
[コラボレーション] 列が [ドキュメント] タブに表示されなくなります。

## 8.2 フィードパネル




[コラボレーション] ドロワからフィードパネルにアクセスして、表示権限またはコメント権限のあるドキュメントを表示したり、ドキュメントにコメントを投稿することができます。

フィードパネルでは、次の操作を行えます。

- ・ フィードのフォローまたはフォロー解除
- ・ フォローしているフィードに関するコメントのモニタリング
- ・ 投稿されたコメントへの返信
- ・ ニュースの投稿またはディスカッションスレッドの開始

ドキュメントに複数のインスタンスがある場合は、フィードパネルにインスタンス名と実行時間が一覧表示されます。一覧からインスタンスを選択して、そのフィードを表示します。フィードにコメントがある場合、コメントはフィードパネルに表示されます。

### 8.2.1 [コラボレーション] ドロワ機能

機能	説明
インスタンス名および実行時間のドロップダウンリスト	インスタンス名と実行時間を、最新のインスタンスを先頭に時系列順でリストします。インスタンスを選択して、そのフィードを表示します。
[発言してください] ボックス	フィードに関するコメントを入力します。
 ボタン	クリックすると、フィードが最新表示され最新のコメントが表示されます。
[投稿] ボタン	[発言してください] ボックスにコメントを入力した後、このボタンをクリックしてコメントをフィードに追加します。
 ボタン	フィードをフォローする場合にクリックします。
 ボタン	フィードのフォローを停止する場合にクリックします。

## 8.2.2 フィードパネルを開く

フィードパネルは、新しいタブや、OpenDocument リンクを介してドキュメントを表示しているときなど、BI ラウンチパッドのあらゆる場所から開くことができます。

- 1 ドキュメントを選択し、詳細パネルの [く] をクリックします。  
詳細パネルが、[概要] ドロワが開いた状態で開きます。
- 2 このパネルの下部にある [コラボレーション] ドロワをクリックします。  
[コラボレーション] ドロワが開き、フィードパネルが表示されます。  
SAP Jam を使用している場合は、自動的に Jam にログオンします。
- 3 SAP StreamWork を使用していて、フィードに初めてアクセスする場合は、SAP StreamWork にログオンします。

いったんログオンしたら、BI ラウンチパッドのフィードパネルに表示されるドキュメントおよびインスタンスにコメントが付けられます。

ドキュメントへの新しいコメントに関する通知を受信するには、フィードをフォローする必要があります。

### 8.2.3 フィードパネルをサイズ変更する

読むスペースを大きくする必要がある場合には、フィードパネルをサイズ変更します。

- ・ パネルの左端をクリックして、必要な幅の位置までドラッグします。

## 8.3 SAP StreamWork のカスタムホームページを表示する

BI ラUNCHパッドでは、SAP StreamWork のカスタムホームページで、フォローしているフィードの更新をモニタリングできます。

SAP StreamWork のカスタムホームページを表示するには、適切なアクセス権が必要です。

BI ラUNCHパッドで BI ワークスペースにモジュールを追加し、SAP StreamWork ワークスペースを選択すると、デフォルトで [SAP StreamWork] カスタムホームページが [ホーム] および [ドキュメント] ページの横に表示されます。

- 1 [アプリケーション] > [BI ワークスペース] を選択します。
- 2 [モジュールライブラリ] をクリックして使用可能なモジュールをすべて表示し、BI ラUNCHパッドモジュールのアイコンをクリックし、追加できるモジュールのリストを表示します。
- 3 ウィンドウのメインペインに [SAP StreamWork フィード] モジュールをドラッグします。  
[SAP StreamWork] カスタムホームページが BI ラUNCHパッドに追加されます。
- 4 右上隅の [編集モードの終了] をクリックし、[はい] をクリックして終了します。  
[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。
- 5 [ファイル名] ボックスにページのタイトルを入力します。  
このテキストは、[SAP StreamWork] ページにラベルとして表示されます。
- 6 [カテゴリの割り当て] の横にある [個人用カテゴリ] または [会社用カテゴリ] を選択します。
- 7 [保存] をクリックします。

## 8.4 コラボレーションに必要なアクセス権

実行するタスク	必要なアクセス権
ドキュメントまたはインスタンスにコメントする	ドキュメントのコメント

実行するタスク	必要なアクセス権
ユーザが所有するドキュメントまたはインスタンスにコメントする	ユーザが所有するドキュメントのコメント
ドキュメントまたはインスタンスを表示する	ドキュメントのコメントを表示
ユーザが所有するドキュメントまたはインスタンスのコメントを表示する	ユーザが所有するドキュメントのコメントを表示

## 8.5 ドキュメントのフィード

ドキュメントフィードを使用して、他のユーザによって投稿されたコメントをモニタリングしたり、ディスカッションに参加したりすることができます。

フィードのモニタリングは、[ドキュメント] タブ、フィードパネル、または SAP StreamWork のタブ（使用可能な場合）で行えます。

- ・ [ドキュメントのコメントを表示] 権限および [ユーザが所有するドキュメントのコメントを表示] 権限を持つ各ドキュメントまたはインスタンスについては、フィードパネルでディスカッションを表示できます。
- ・ [ドキュメントのコメント] 権限および [ユーザが所有するドキュメントのコメント] 権限を持つ各ドキュメントまたはインスタンスについては、フィードパネルでディスカッションにコメントできます。


### 注

ドキュメントまたはインスタンスに必要なアクセス権限を持っていない場合は、システム管理者に連絡してください。

### 8.5.1 フィードを最新表示する

ドキュメント全体を最新表示しなくても、フィードを最新表示してドキュメントまたはインスタンスへの最新のコメントを表示することができます。

この機能は、たとえば、レポートが BI ラウンチパッドのタブにピン留めされている場合に、レポートを最新表示せずにそのレポートのフィードを最新表示するのに役立ちます。



- ・ フィードパネル上部の [投稿] ボタンの横にある  をクリックします。

## 8.5.2 新しいタブでインスタンスのコラボレーションコメントを表示する

- 1 BI ラウンチパッドの [ドキュメント] タブで、フォルダ内のインスタンスを右クリックして [履歴] を選択します。
- 2 [履歴] ダイアログボックスで、インスタンスを右クリックして [最新のインスタンスを表示] を選択します。  
インスタンスがデフォルトビューアの新しいタブに開きます。
- 3 ビューアで、詳細パネルの左側にある [◀] をクリックしてパネルを開きます。
- 4 [コラボレーション] ドロワをクリックして開きます。

### 8.5.2.1 タブでインスタンスのフィードをフォローする

フィードをフォローすると、自動的にそのドキュメントに関連するすべてのインスタンスをフォローすることになります。また、繰り返し発生するインスタンスをフォローする場合は、元のインスタンスから発生するすべてのインスタンスをフォローすることになります。

- ・ タブでドキュメントまたはインスタンスを表示しているときに、フィードパネルの上部にある  をクリックします。
- フィードがフィードパネルに表示され、インスタンスに関する更新を受信できます。また、BI ラウンチパッドの [ドキュメント] タブの [コラボレーション] 列に、 が表示されます。

## 8.5.3 OpenDocument リンクを介してコラボレーションコメントを表示する


ドキュメントまたはインスタンスを開くと、フィードパネルの [コラボレーション] ドロワを展開することによってそのドキュメントまたはインスタンスのコメントを表示できます。


OpenDocument リンクは、タブ上で、またはリンクをクリックすることによって表示できます。これは、たとえば、複数のインスタンスを同時に表示する場合などに役立ちます。

- 1 OpenDocument リンクを右クリックして、[新しいタブで開く] を選択します。  
ドキュメントまたはインスタンスがブラウザの新しいタブで開きます。
- 2 フィードパネルが閉じている場合は、このパネルの左側にある [◀] をクリックして開きます。  
ドキュメントまたはインスタンスの横にあるタブにフィードパネルが開きます。
- 3 [コラボレーション] ドロワをクリックして開きます。  
ドロワが開き、ドキュメントまたはインスタンスのコメントが表示されます。

### 8.5.3.1 OpenDocument リンクからフィードをフォローする

フィードをフォローすると、自動的にそのドキュメントに関連するすべてのインスタンスをフォローすることになります。また、繰り返し発生するインスタンスをフォローする場合は、元のインスタンスから発生するすべてのインスタンスをフォローすることになります。

- ・ OpenDocument リンクを介してドキュメントまたはインスタンスを表示しているときに、フィードパネルの上部にある  をクリックします。

フィードがフィードパネルに表示され、ドキュメントまたはインスタンスに関する更新を受信できます。また、BI ラウンチパッドの [ドキュメント] タブの [コラボレーション] 列に、 が表示されます。

### 8.5.4 フィードをフォローする


ドキュメントへの新しいコメントに関する通知を受信するには、フィードをフォローする必要があります。

フィードをフォローするには、ドキュメントまたはインスタンスに対して以下の権限が必要です。

- ・ ドキュメントのコメントを表示
- ・ ユーザが所有するドキュメントのコメントを表示

ドキュメントまたはインスタンスのフィードを最初に表示するときに、ドキュメントの既存のコメントが表示されます。フィードパネルでフィードをフォローすると、自動的にそのドキュメントに関連するすべてのインスタンスをフォローすることになります。また、繰り返し発生するインスタンスをフォローする場合は、元のインスタンスから発生するすべてのインスタンスをフォローすることになります。

- ・ [ドキュメント] タブで、ドキュメントまたはインスタンスを右クリックして、[フォロー] を選択します。

フィードのコメントがフィードパネルに表示され、[コラボレーション] 列にドキュメントまたはインスタンスの  アイコンが表示されます。

### 8.5.5 フィードにコメントを投稿する

フィードパネルで、フィードにドキュメントまたはインスタンスに関するコメントを投稿したり、ディスカッションを表示したりすることができます。

ドキュメントまたはインスタンスに対してコメントするには、ドキュメントまたはインスタンスに対して以下の権限が必要です。


- ・ ドキュメントのコメント

- ・ ユーザが所有するドキュメントのコメント

レポートのインスタンスにコメントすると、コメントはレポート全体ではなくそのインスタンスに対してのみ投稿され、そのインスタンスに対する新しいディスカッションが開始します。


#### 警告

コメントと返信は個人専用ではありません。ドキュメントまたはインスタンスに対する適切な表示権限を持つすべての BI ラウンチパッドユーザがコメントを表示でき、適切なコメント権限を持つすべてのユーザがコメントに返信できます。



- 1 フィードパネルの [コラボレーション] ドロワで、一覧からインスタンスを選択します。
- 2 [発言してください] ボックスにコメントを入力し、[投稿] をクリックします。  
コメントがフィードパネルに表示され、 が [コラボレーション] 列に表示されてこのフィードに新しいコメントがあることを示します。

## 8.5.6 フィードのフォローを停止する

ドキュメントまたはインスタンスのコメントをフォローする必要がなくなった場合は、フィードのフォローを停止できます。

- ・ [ドキュメント] タブで、ドキュメントまたはインスタンスを右クリックして、[フォロー解除] を選択します。  
これにより、ドキュメントまたはインスタンスの更新を受信なくなり、 が [コラボレーション] 列に表示されなくなります。

### 8.5.6.1 OpenDocument リンクからフィードのフォローを停止する

- ・ OpenDocument リンクを介してドキュメントまたはインスタンスを表示しているときに、フィードパネルの上部にある  をクリックします。  
これにより、ドキュメントまたはインスタンスの更新を受信なくなり、 が [ドキュメント] タブの [コラボレーション] 列に表示されなくなります。

## 8.6 SAP StreamWork にコンテンツをスケジュールする

Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、および PDF ファイルを SAP StreamWork にスケジュールすることができます。

- 1 [ドキュメント] タブで、スケジュールするドキュメントまたはインスタンスを右クリックして [スケジュール] を選択します。

- [スケジュール] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [出力先] をクリックして、[出力先] リストから [コラボレーション] を選択します。  
ファイル名が [ファイル] ボックスに表示されます。
  - 3 このインスタンスを [履歴] ダイアログボックスに保存するには、[履歴にインスタンスを保持する] チェックボックスをオンにします。
  - 4 [ワークリストの選択] リストで、スケジュールするワークリストの名前を入力するか、リストから名前を選択します。
  - 5 [アクティビティの選択] リストで、スケジュールするアクティビティの名前を入力するか、リストから名前を選択します。  
アクティビティの名前が [アクティビティ名] ボックスに表示されます。アクティビティの目的が定義されている場合は、[アクティビティの目的] ボックスに表示されます。
  - 6 (オプション) [アイテムの説明] ボックスに、スケジュールするコンテンツの説明を入力します。
  - 7 (オプション) [アクティビティの種類の選択] ボックスで、スケジュールするアクティビティの種類を選択します。
  - 8 (オプション) [参加者の追加] ボックスに、アクティビティに招待する各電子メールアドレスをカンマで区切って入力します。  
SAP StreamWork によって、入力した各電子メールアドレスに招待が送信されます。
  - 9 [スケジュール] をクリックします。  
[履歴] ダイアログボックスが表示され、スケジュールされたジョブが [実行中] ステータスのインスタンスとして表示されます。

## 8.7 SAP StreamWork にコンテンツを送信する

Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、および PDF ファイルを SAP StreamWork に送信して、既存のアクティビティを選択したり、新しいアクティビティを作成することができます。SAP StreamWork 内でのドキュメントの表示場所は、アクティビティによって異なります。

### ヒント

インスタンスを [履歴] ダイアログボックスに保存するには、[履歴にインスタンスを保持する] を選択します。

- 1 [ドキュメント] タブで、送信するドキュメントまたはインスタンスを右クリックして、[送信] > [コラボレーション] の順に選択します。  
このオプションを初めて選択する場合は、SAP StreamWork のログオンウィンドウが表示されます。次に選択するときには、SAP StreamWork が BI ラウンチパッドで開き、最近のアクティビティが表示されます。
- 2 必要に応じて SAP StreamWork にログオンします。  
アカウントが認証されます。
- 3 [ワークリストの選択] リストで、送信するワークリストの名前を入力するか、リストから名前を選択します。
- 4 [アクティビティの選択] リストで、送信するアクティビティの名前を入力するか、リストから名前を選択します。  
アクティビティが [アクティビティ名] ボックスに表示されます。アクティビティの目的が定義されている場合は、[アクティビティの目的] ボックスに表示されます。



- 5 (オプション) [アイテムの説明] ボックスに、送信するコンテンツの説明を入力します。
- 6 (オプション) [アクティビティの種類の選択] ボックスで、送信するアクティビティの種類を選択します。
- 7 (オプション) [参加者の追加] ボックスに、アクティビティに招待する各電子メールアドレスをカンマで区切って入力します。

SAP StreamWork によって、入力した各電子メールアドレスに招待が送信されます。

- 8 [送信] をクリックします。

[概要] ダイアログボックスが表示され、作成されたアクティビティ、含まれるファイル、参加を招待された参加者、SAP StreamWork のアクティビティへのリンクが表示されます。

- 9 アクティビティに移動するには、リンクをクリックします。

SAP StreamWork が新しいブラウザウィンドウに表示されます。サーバの負荷により、新しいアクティビティの表示に時間がかかる場合があります。ウィンドウにアクティビティのドキュメントアイコンが表示されます。ドキュメントを開くには、ビューアが必要な場合があります。BI ラウンチパッドに戻るには、OpenDocument リンクをクリックします。



## 公開

### 9.1 公開について

公開により、Crystal レポートおよび Web Intelligence ドキュメントなどのドキュメントはディスクに保存され、BI プラットフォームで Web の表示、アーカイブ、取得、スケジュール用に管理されて、電子メールまたは FTP サーバ経由で自動的に使用可能になります。

BI ラウンチパッドまたは CMC を使用して、ドキュメントを異なるそれぞれのユーザ（受信者）用にカスタマイズしたり、スケジュールして一定の間隔で実行したり、また、BI 受信ボックスや電子メールアドレスなどの複数の出力先に送信したりすることができます。

### 9.2 パブリケーションとは

パブリケーションは、不特定多数の受信者に配信するドキュメントのコレクションです。ドキュメントを配信する前に、公開者はメタデータのコレクションを使用してパブリケーションを定義します。このメタデータには、パブリケーションのソース、受信者、および適用されるパーソナライゼーションが含まれます。

パブリケーションを使用すると、組織内への情報提供をより効果的に行うことができます。例:

- ・ ユーザまたはユーザグループにユーザ用またはグループ用にカスタマイズしたフィルタを適用して、情報を簡単に配信できます。
- ・ イン트라ネット、エクストラネット、またはインターネット経由で、パスワード保護されたポータルを使って、ユーザまたはユーザグループにターゲットビジネス情報を配信します。
- ・ ユーザがドキュメント処理要求を送信する手間が省かれるので、データベースへのアクセスを最小限に抑えることができます。

Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントに基づいて、さまざまな種類のパブリケーションを作成できます。

### 9.3 公開の概念

### 9.3.1 レポートバースト

公開中、ドキュメント内のデータがデータソースに対して最新表示され、パーソナライズされてから、パブリケーションが受信者に配信されます。この複合処理はレポートバーストと呼ばれます。

パブリケーションのサイズや、対象受信者の数に応じて、以下のレポートバースト方法を使用できます。

- すべての受信者のデータベースフェッチ: パブリケーション内のすべてのドキュメントが 1 回最新表示され、パーソナライズされ、各受信者に配信されます。このレポートバースト方式では、公開者のデータソースログオン認証情報を使用してデータが最新表示されます。

これは Web Intelligence ドキュメントパブリケーションのデフォルトオプションで、データベースに対する公開の影響を最小限に抑える必要がある場合に推奨されます。このオプションのパフォーマンスは、受信者数によって異なります。

このオプションは、ソースドキュメントが静的ドキュメントとして配信される場合にのみ安全です。たとえば、Web Intelligence ドキュメントをその元の形式で受信した受信者は、ドキュメントを変更したり、他の受信者に関連するデータを表示できます。ただし、ドキュメントが PDF ファイルとして配信された場合は、そのデータは安全です。

#### 注

このオプションは、Crystal レポートが元の形式で配信されたかどうかに関係なく、ほとんどの Crystal レポートに対して安全です。

- 受信者のバッチごとのデータベースフェッチ: パブリケーションを最新表示、パーソナライズし、受信者に対して指定されたパーソナライゼーション値に基づいて受信者のバッチに配信します。バッチサイズは、指定したパーソナライゼーション値に応じて決まり、設定できません。このレポートバースト方式では、公開者のデータソースログオン認証情報を使用してデータが最新表示されます。

これは、Crystal レポートパブリケーションのデフォルトオプションで、高ボリュームシナリオの場合に推奨されます。このオプションを使用すると、さまざまなサーバでバッチを同時に処理できるので、大量のパブリケーションに必要な処理負荷や時間を大幅に削減できます。

#### 注

このオプションは Web Intelligence ドキュメントでは使用できません。

- 受信者ごとのデータベースフェッチ: ドキュメント内のデータは受信者ごとに最新表示されます。このレポートバースト方式では、受信者のデータソースログオン認証情報を使用してデータが最新表示されます。たとえば、1 つのパブリケーションに受信者が 5 人いる場合、パブリケーションは 5 回最新表示されます。

このオプションは、パブリケーションをできる限り安全に配信する必要がある場合に推奨されます。

ユニバースまたはビジネスビューに基づく Crystal レポートをサポートする場合は、セキュリティを最大化するためにこのオプションを選択します。

#### 関連項目

- 177 ページの [レポートバースト方法を選択する](#)

### 9.3.2 配信ルール

#### 注

この機能は Web Intelligence ドキュメントでは使用できません。

配信ルールは、パブリケーション内のドキュメントの処理および配布方法に影響します。ドキュメントに配信ルールを設定すると、パブリケーションはドキュメント内の内容が特定の条件と一致する場合にのみ受信者に配信されます。配信ルールには次の 2 種類があります。

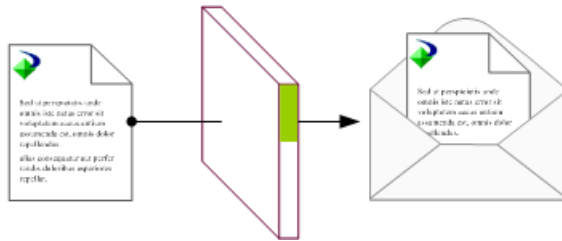
配信ルール	説明
グローバル配信ルール	<p>指定されたドキュメント内のデータが配信ルールに一致すると、パブリケーションはすべての受信者に配信されます。</p> <p>グローバル配信ルールに対して指定されるドキュメントは、パブリケーションで使用されている 1 つまたは複数のドキュメントと異なる場合があります。たとえば、パブリケーション内のドキュメントではなく、動的受信者ソースとして使用されるドキュメントにグローバル配信ルールを設定できます。</p>
受信者配信ルール	<p>受信者のインスタンス内のデータが配信ルールに一致すると、そのインスタンスはすべての受信者に配信されます。</p>

パブリケーションにグローバル配信ルールと受信者配信ルールの両方が設定されている場合、グローバル配信ルールが最初に評価され、パブリケーションが処理されるかどうか決まります。パブリケーションがグローバル配信ルールに一致すると、BI プラットフォームによって受信者配信ルールが評価され、受信者ごとにどのインスタンスを処理および配布するかが決定されます。

配信ルールの設定方法は、公開するドキュメントの種類に応じて異なります。Crystal レポートの場合は、レポートデザイナーが Crystal レポートで作成した名前の付いたアラートに基づいて配信ルールを指定します。配信ルールは、パーソナライズされたパブリケーションにデータが含まれているかどうかに基づいて設定することもできます。

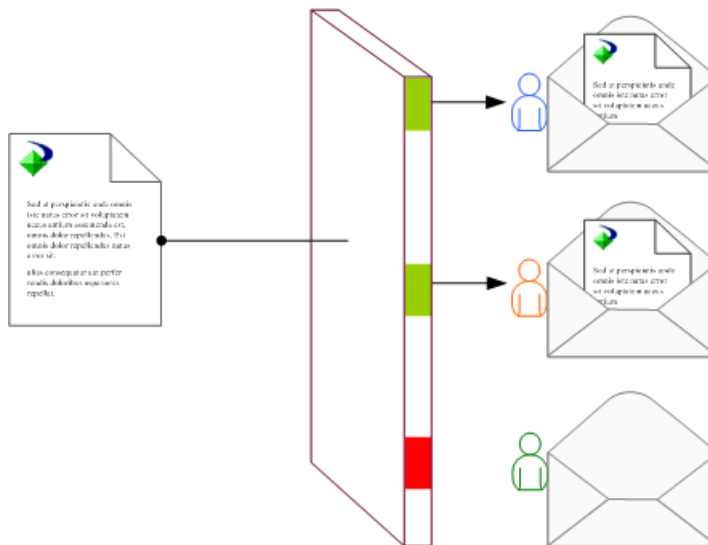
以下の図は、アラートに基づくグローバル配信ルールの動作を示しています。グローバル配信ルールは、パブリケーション内のドキュメントに設定されています。Crystal レポートには、100,000 を超える金額に対する“売上げ”アラートが含まれています。公開者は、“売上げ”アラートに基づいてグローバル配信ルールを作成します。Crystal レポートは、売上げが 100,000 を超える場合にのみ受信者に配信されます。この場合、配信ルールに一致するため、Crystal レポートが配信されます。

図 9-1: グローバル配信ルールに一致している場合



以下の図は、受信者配信ルール動作を示しています。公開者は、レポートに特定の受信者向けのデータが含まれている場合に、その受信者にのみ Crystal レポートが配信されるように、受信者配信ルールを作成します。レポートが受信者ごとにパーソナライズされている場合、緑の受信者は、Crystal レポートにデータがないため、パブリケーションを受信しません。青の受信者とオレンジの受信者は、レポートにデータがあるため、パブリケーションを受信します。

図 9-2: 受信者配信ルールに一致していない場合



複数のドキュメントおよびオブジェクトを含むパブリケーションの場合、ドキュメントごとに独自の受信者配信ルールを設定できます。処理および配信に関する、以下のオプションがあります。

- ・ パブリケーション内のあるドキュメントが、ある受信者の受信者配信ルールに一致しない場合、パブリケーション全体がその受信者に対して配信されません。
- ・ パブリケーション内のあるドキュメントが、ある受信者の受信者配信ルールに一致しない場合、そのドキュメントは配信されませんが、パブリケーション内の他のドキュメントはすべてその受信者に配信されます。

配信ルールは、多数の受信者を対象としたパブリケーションをより効率的に処理および配信できるため便利です。たとえば、保険会社の公開者が、次のオブジェクトを含む顧客向けのパブリケーションを作成するとします。

- ・ 保険請求書（パーソナライズされた Crystal レポート）
- ・ 月間ステートメント（パーソナライズされた Crystal レポート）
- ・ 支払方法に関するパンフレット（PDF ファイル）

保険請求書には、0 を超える金額に対して “支払額” アラートが存在します。公開者は、保険請求書に対して “支払額” 受信者配信ルールを作成して、顧客が支払を行う必要がある場合のみ保険請求書が発行および配布されるようにします。また、公開者は、顧客が保険料を支払う必要がない場合に月間ステートメントやパン

フレットを顧客が受信しないようにする必要があるため、保険請求書が配信ルールに一致しない場合、パブリケーション全体が公開されないように指定します。パブリケーションを実行すると、パブリケーションが処理されて、支払義務のある顧客にのみ配信されます。

#### 注

パブリケーションの実行時に Crystal レポートパブリケーションの印刷がスケジュールされている場合、パブリケーション内のドキュメントが配信ルールに一致せず、受信者に配信されない場合でも、印刷ジョブは実行されます。これは、印刷ジョブがパーソナライゼーションのときに処理され、配信ルールはパーソナライズ後のパブリケーションに適用されるからです。

#### 関連項目

- ・ 168 ページの[\(オプション\) Crystal レポートのグローバル配信ルールを設定する](#)
- ・ 167 ページの[\(オプション\) Crystal レポートの受信者配信ルールを設定する](#)

### 9.3.3 動的受信者

動的受信者は、BI プラットフォームのユーザアカウントは持たないが、データベース、LDAP、または AD ディレクトリなどの外部データソースのユーザ情報を持つパブリケーション受信者です。

パブリケーションを動的受信者に配布するには、動的受信者ソースを使用します。これは、BI プラットフォーム外のパブリケーション受信者に関する情報を提供するドキュメントまたはカスタムデータプロバイダです。パブリケーションにつき 1 つの動的受信者ソースを使用して、外部データソースに直接リンクし、動的受信者用の最新データを取得することができます。動的受信者ソースを使用すると、パブリケーションを動的受信者に配布する前に動的受信者の BI プラットフォームユーザアカウントを作成する必要がないため、管理コストが削減されます。

たとえば、請求会社が BI プラットフォームユーザ以外の顧客に請求書を配信する場合、顧客情報は外部データベースに存在します。公開者は、外部データベースに基づいてドキュメントを作成し、パブリケーションの動的受信者ソースとしてドキュメントを使用します。顧客は請求パブリケーションを受信し、公開者とシステム管理者は動的受信者ソースを使用して最新の連絡先情報を管理できます。

動的受信者ソースを使用して、次のアクションを実行できます。

- ・ 1 つのパブリケーションを、動的受信者と BI プラットフォームユーザに同時に配布する

#### 注

動的受信者はパブリケーションから自身を自動的に購読解除できません。

- ・ パブリケーションを作成するときに動的受信者の一覧をプレビューする
- ・ パブリケーションをすべての動的受信者に配布するか、特定の動的受信者を除外するかを指定する
- ・ パブリケーションを電子メールや FTP サーバなどの外部出力先に配布する

#### 注

動的受信者は BI プラットフォームのユーザアカウントを持たないため、BI 受信ボックスは動的受信者には無効な宛先です。

動的受信者ソースを使用するには、次の値ごとに 1 つの列を指定します。

- ・ 受信者 ID(必須)
- ・ 受信者のフルネーム
- ・ 電子メールアドレス

[受信者 ID] 列によって、パブリケーションを受信する動的受信者の数が決まります。動的受信者ソースは受信者 ID によって並べ替えます。

レポートの作成についての概要は、『SAP Crystal Reports ユーザガイド』を参照してください。カスタムコーディングされた動的受信者ソースの作成については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

### 9.3.4 パブリケーション配信出力先

出力先は、パブリケーションが配信される場所です。出力先には、パブリケーションが格納される BI プラットフォーム内の場所、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、またはファイルシステム内のディレクトリを指定できます。1 つのパブリケーションに複数の出力先を指定できます。

複数の Crystal レポートを公開する場合は、それらを出力先ごとに 1 つの PDF ファイルにマージすることができます。

パブリケーションを圧縮 (.zip) ファイルとして公開する場合は、出力先ごとにインスタンスを圧縮または抽出できます。たとえば、電子メール受信者向けにインスタンスを圧縮したり、BI 受信ボックス向けにインスタンスを抽出したりすることができます。

#### 9.3.4.1 出力先

次の出力先を選択できます。

- ・ デフォルトの Enterprise の場所
- ・ BI 受信ボックス
- ・ 電子メール
- ・ FTP サーバ
- ・ ファイルシステム
- ・ SAP StreamWork (有効化かつ設定されている場合)



表 9-2: デフォルトの Enterprise の場所出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションには、そのパブリケーションを作成したフォルダからアクセスできます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li><li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li></ul> <p>この場所にパブリケーションを送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。</p>	<p>Output File Repository Server</p> <p>履歴のインスタンスはデフォルトの Enterprise サーバに保存されますが、他の出力先には保存されません。</p>

表 9-3: BI 受信ボックス出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、各受信者の BI 受信ボックスに送信されます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> </ul> <p><b>注</b> ユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索] ボックスで受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを検索できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デフォルトのファイル名を使用するか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>・ ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリケーションをショートカットまたはコピーとして送信する。パブリケーションを受信者の BI 受信ボックスにショートカットとして送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。パブリケーションのショートカットを BI 受信ボックスに送信するには、出力先として、[BI 受信ボックス] および [デフォルトの Enterprise の場所] の両方を選択します。</li> <li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Output File Repository Server</li> <li>・ 指定された BI 受信ボックス</li> </ul>

表 9-4: 電子メール出力先

説明	インスタンスの保存先
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ Output File Repository Server</li><li>・ 指定された電子メール受信者</li></ul> <p>レポートインスタンスをスケジュールするかこの出力先に送信するには、Adaptive Job Server で電子メール (SMTP) の出力先を有効にして設定する必要があります。</p>

説明	インスタンスの保存先
<p><b>注</b></p> <p>この出力先を選択する前に、Adaptive Job Server で電子メール設定が正しく設定されていることを確認します。</p> <p>パブリケーションは、電子メールで受信者に送信されます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> <li>・ (必須) [差出人] ボックスに自分の電子メールアドレスを入力する。電子メールアドレスを入力しない場合、BI プラットフォームでは、公開者のアカウントに関連付けられている電子メールアドレスが使用されます。公開者のアカウントに電子メールアドレスがない場合、BI プラットフォームでは、Adaptive Job Server の電子メールアドレスが使用されます。</li> </ul> <p><b>警告</b></p> <p>[差出人] ボックス、公開者のアカウント、または Adaptive Job Server のいずれにも電子メールアドレスがない場合、パブリケーションは失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [宛先] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [CC] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [BCC] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [件名] ボックスに件名を入力するか、プレースホルダを追加する</li> <li>・ [メッセージ] ボックスに、パブリケーションと一緒に配信する情報を入力するか、プレースホルダを追加して電子メール本文に動的コンテンツドキュメントを埋め込む</li> <li>・ ソースドキュメントのインスタンスを電子メールに添付する</li> <li>・ デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイ</li> </ul>	

説明	インスタンスの保存先
<p>ル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	

表 9-5: FTP サーバ出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、FTP サーバに送信されます。[ホスト] ボックスに、FTP サーバの場所を入力する必要があります (入力しないと、BI プラットフォームは、Adaptive Job Server 用に設定された FTP サーバを使用します)。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>ポート番号、ユーザ名とパスワード、およびアカウントを入力する</li> <li>ディレクトリ名を入力する</li> <li>デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する] を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Output File Repository Server</li> <li>選択された FTP サーバ</li> </ul>

表 9-6: ファイルシステム出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、ファイルシステムのディレクトリに送信されます。パブリケーションのディレクトリを入力する必要があります。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ ファイルの場所にアクセスするためのユーザ名とパスワードを入力する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> <li>・ デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>・ ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Output File Repository Server</li> <li>・ 選択されたファイルの場所</li> </ul>

表 9-7: SAP StreamWork 出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、他のユーザとのコラボレーションのために送信されます。</p> <p><b>注</b> この出力先は、BI プラットフォームで SAP StreamWork が設定されて有効化されている場合に使用できます。</p>	SAP StreamWork

デフォルトでは、すべての出力先に対して [各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスがオンになっています。ただし、場合によっては、各ユーザにオブジェクトを配信しないようにする場合があります。たとえば、3 人の受信者が同一のパーソナライゼーション値を持っていると、パブリケーションインスタンスの同じデータが受

信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオフにした場合は、1 つのパブリケーションインスタンスが生成され、それが 3 人の受信者すべてに配信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオンにした場合は、同じパブリケーションインスタンスが 3 回 (受信者ごとに 1 回ずつ) 配信されます。

パブリケーションを [FTP サーバ] または [ファイルシステム] 出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオフにすると、処理時間全体を短縮できます。[各ユーザにオブジェクトを配信] をオフにする場合は、出力先の設定時に使用するプレースホルダには、受信者ではなく公開者の情報が入力されます。

### 9.3.5 パブリケーションソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ

プレースホルダは、変数データのコンテナです。パーソナライズされたプレースホルダをファイル名に組み込むと、受信者はフィルタリングされたデータを簡単に識別できます。パーソナライゼーション値が異なる複数のユーザグループに属している受信者は、同じソースドキュメントの複数のバージョンの違いをそのコンテンツを表示することなく区別できます。

#### 注

パブリケーションに複数のソースドキュメントが含まれている場合、すべてのソースドキュメントが同じフィールドでフィルタリングされていなければ [指定の名前を使用する] の [プレースホルダの追加] 一覧にパーソナライズされたプレースホルダは含まれません。

レポートで使用する各フィルタに、次のパーソナライズされたプレースホルダが表示されます。

- ・ %<field name>\_VALUE%

たとえば、電子メールアドレスプレースホルダを選択する場合、[指定の名前を使用する] ボックスには %SL\_EMAIL\_ADDRESS% が表示されます。実行時に、プレースホルダはレポートをフィルタリングするために使用されるフィールドの値に置換されます。このプレースホルダは受信者ごとに固有です。

- ・ %<field name>\_NAME%

たとえば、タイトルプレースホルダを選択する場合、[指定の名前を使用する] ボックスには %SL\_Name% が表示されます。実行時に、プレースホルダはフィールドの実際の名前に置換されます。このプレースホルダはすべての受信者で同じです。

#### 関連項目

- ・ 155 ページの [パブリケーションソースドキュメントに対してパーソナライズされたプレースホルダを選択する](#)

### 9.3.6 電子メールフィールドのパーソナライズされたプレースホルダ

パーソナライゼーション時にレポートで使用されるフィルタごとに、以下のプレースホルダが[プレースホルダの追加] 一覧に表示されます。

- ・ %Field - Query 1-VALUE%

実行時に、プレースホルダはレポートをフィルタリングするために使用されるパーソナライズされた値に置換されます。このプレースホルダは受信者ごとに固有です。

- ・ %Field - Query 1-NAME%

実行時に、プレースホルダはフィールドの名前に置換されます。このプレースホルダはすべての受信者で同じです。

パブリケーションの電子メール送信時に [件名] ボックスおよび [メッセージ] ボックスでパーソナライズされたプレースホルダを使用するには、パブリケーションのすべてのソースドキュメントが同じフィールドでパーソナライズされている必要があります。

パブリケーションに複数のソースドキュメントが含まれている場合、すべてのソースドキュメントが同じフィールドでフィルタリングされていなければ、[件名] および [メッセージ] フィールドの [プレースホルダの追加] 一覧にパーソナライゼーションパラメータは表示されません。

### 9.3.7 形式

パブリケーションのドキュメントのファイルタイプは形式によって定義されます。単一のドキュメントを複数の形式で公開することができます。この場合、選択する形式ごとにドキュメントのインスタンスが作成されます。各インスタンスを複数の出力先に配信できます。複数のドキュメントを含むパブリケーションの場合、それぞれのドキュメントに異なる形式を指定できます。Web Intelligence ドキュメントを含むパブリケーションの場合は、ドキュメント全体またはドキュメント内の 1 つのレポートタブを複数の形式で公開できます。

ドキュメントに対して選択した形式は、パブリケーションのすべての受信者に適用されます。たとえば、1 つのドキュメントを、ある受信者には Microsoft Excel ファイルとして公開し、別の受信者には PDF ファイルとして公開することはできません。一部の受信者が両方の形式でインスタンスを受信する必要がある場合は、すべての受信者が、Microsoft Excel ファイルと PDF ファイルを 1 つずつ受信する必要があります。

#### 関連項目

- ・ 159 ページの[Crystal レポートのパブリケーションの形式を指定する](#)」
- ・ 171 ページの[Web Intelligence ドキュメントのパブリケーション形式を指定する](#)」

#### 9.3.7.1 パブリケーションの書式設定オプション



ドキュメントの種類	形式	説明
すべての種類	mHTML	<p>ドキュメントは mHTML 形式で公開されます。ドキュメントの内容を電子メールに mHTML として埋め込むことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ Crystal レポートの場合は、1 つのレポートの内容を電子メールに埋め込むことができます。</li><li>・ Web Intelligence ドキュメントの場合は、1 つのレポートタブの内容を電子メールに埋め込むことができます。</li></ul> <p>ドキュメントは、ソースドキュメントが [新規パブリケーション] ダイアログボックスに一覧表示される順序で出力されます。たとえば、ダイアログボックスの上部のドキュメントは電子メールの上部に表示されます。</p>
	PDF	<p>ドキュメントは静的な PDF ファイルとして公開されます。</p> <p>PDF マージと合わせてこのオプションを使用すると、ドキュメントは、ソースドキュメントが [新規パブリケーション] ダイアログボックスに一覧表示される順序で出力されます。たとえば、ダイアログボックスの上部のドキュメントはマージされた PDF ファイルの上部に表示されます。</p>
	Microsoft Excel(97-2003)	<p>ドキュメントは Microsoft Excel (.xls) ファイルとして公開され、元の書式設定ができる限り保持されます。</p>

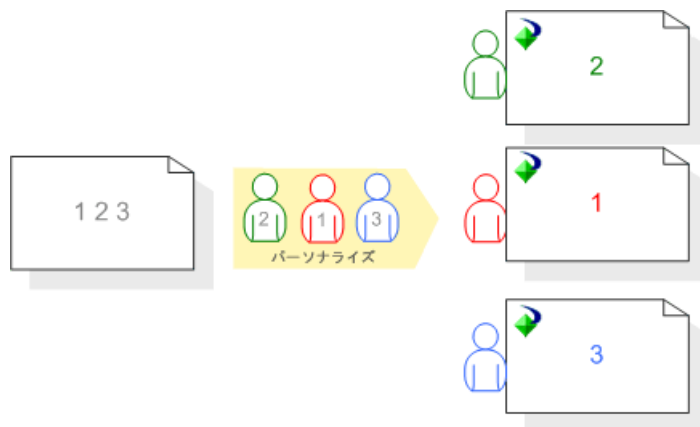
ドキュメントの種類	形式	説明
Crystal レポート	Microsoft Excel (97-2003) (データのみ)  Microsoft Excel ワークブック データのみ	Crystal レポートはデータのみを含む Excel (.xls) ファイルとして公開されます。
	XML	Crystal レポートは XML (.xml) 形式で公開されます。
	Crystal レポート	Crystal レポートは元の (.rpt) 形式で公開されます。
	Crystal レポート (RPTR)	Crystal レポートは読み取り専用 (.rprr) 形式で公開されます。
	Microsoft Word(97-2003)	Crystal レポートは Microsoft Word (.doc) ファイルとして公開され、Crystal レポートの元の書式が保持されます。  受信者が変更を加えずにパブリケーションを表示する場合に、このオプションを使用します。
	Microsoft Word - 編集可能 (RTF)	Crystal レポートは受信者が編集できる Word (.rtf) ファイルとして公開されます。  受信者がパブリケーションを表示してその内容を編集する場合に、このオプションを使用します。
	リッチテキスト形式(RTF)	Crystal レポートはリッチテキスト形式 (.rtf) で公開されます。
	テキスト	Crystal レポートはテキスト (.txt) 形式で公開されます。
	ページ区切り付きテキスト	Crystal レポートはテキスト (.txt) 形式で公開され、パブリケーションの内容がページで区切られます。
	タブ区切りテキスト (TTX)	Crystal レポートはテキスト (.ttx) 形式で公開され、タブを使用して列の内容が区切られます。
	カンマ区切り値(CSV)	Crystal レポートは文字区切り値 (.csv) ファイルとして公開されます。

ドキュメントの種類	形式	説明
Web Intelligence ドキュメント	Web Intelligence	Web Intelligence ドキュメントは元の (.wid) 形式で公開されます。

### 9.3.8 パーソナライゼーション

パーソナライゼーションとは、パブリケーションの受信者に対して関連するデータのみが表示されるように、ソースドキュメントのデータをフィルタリングする処理です。パーソナライゼーションはデータのビューを変更しますが、データソースからクエリされたデータを変更したり保護したりすることはありません。

以下の図では、パーソナライゼーションの動作方法を示します。パーソナライズされていないレポートに、データタイプ 1、2、および 3 が含まれているとします。レポートにパーソナライゼーションが適用されると、ユーザは自分に関係のあるデータのみを受信します。ユーザ 2 はデータタイプ 2 のみ、ユーザ 1 はデータタイプ 1 のみ、ユーザ 3 はデータタイプ 3 のみを受信します。



ソースドキュメントをパーソナライズする

- Enterprise 受信者の場合は、パブリケーションを設計するときにプロファイルを適用する必要があります。Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。
- 動的受信者の場合は、ソースドキュメントのデータフィールドまたは列を動的受信者ソースのデータにマップできます。たとえば、ソースドキュメントの“顧客 ID”フィールドを動的受信者ソースの“受信者 ID”フィールドにマップできます。

**注**

パーソナライゼーションの完了後、パーソナライズされていないパブリケーションインスタンスを受信する受信者の一覧を表示するには、[新規パブリケーション] ダイアログボックスで、[追加オプション] > [詳細] を選択して、[パーソナライゼーションが適用されないユーザを表示] チェックボックスを選択します。

**関連項目**

- ・ 157 ページの [パラメータ値を使用して Crystal レポートをパーソナライズする](#)
- ・ 158 ページの [フィールドをフィルタリングして Crystal レポートをパーソナライズする](#)
- ・ 171 ページの [グローバルプロファイルターゲットを使用して Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする](#)
- ・ 172 ページの [フィールドをフィルタリングして、Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする](#)
- ・ 127 ページの [パブリケーションソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ](#)

### 9.3.9 パブリケーション拡張

パブリケーション拡張とは、ビジネスロジックをパブリケーションに適用するコードのライブラリです。処理または配信後に、パブリケーションの自動カスタマイズが必要な場合にパブリケーション拡張を使用します。パブリケーション拡張を使用して、処理後に次のようなタスクを実行できます。

- ・ 同じタイプのドキュメントをマージする。たとえば、複数の Excel スプレッドシートを 1 つの Excel ワークブックにマージできます。
- ・ ドキュメントにパスワード保護を追加する、またはドキュメントを暗号化する。
- ・ ドキュメントを別の形式に変換する。
- ・ パブリケーションジョブ用のカスタムログファイルを作成する。

パブリケーション拡張は、セントラル管理コンソール (CMC) で指定します。

**注**

BI ラUNCHパッドでパブリケーションを作成している場合は、パブリケーション拡張を使用できません。

パブリケーション拡張の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

**関連項目**

- ・ 173 ページの [パブリケーション拡張を選択する](#)

### 9.3.10 購読

購読では、パブリケーションの受信者ではないユーザが、最新インスタンスを表示できます。Enterprise 受信者は、いつでもパブリケーションの購読解除を行うことができます。動的受信者はパブリケーションの購読および購読解除のいずれも行うことはできません。

適切な権限を持っているユーザは、他のユーザの購読および購読解除を行うことができます。パブリケーションの購読または購読解除を実行するには、BI プラットフォームのアカウントおよび以下の権限が必要です。

- ・ BI ラウンチパッドまたはセントラル管理コンソール (CMC) へのアクセス権
- ・ パブリケーションの表示権限
- ・ ユーザアカウントの購読者権限 (Enterprise 受信者)

#### 関連項目

- ・ 178 ページの[「パブリケーションを購読または購読解除する」](#)

### 9.3.11 Crystal レポートの場合の PDF ファイルのマージ

Crystal レポートの PDF インスタンスと静的 PDF ドキュメントを 1 つの PDF ファイルにマージして、マージされた PDF に対して以下のタスクを実行することができます。

- ・ 目次の追加および書式設定
- ・ 連続したページ番号の挿入
- ・ PDF ファイルの表示および編集に必要なユーザパスワードと所有者パスワードの追加
- ・ 受信者が PDF ファイルで実行できる処理に対する制限の設定

すべての静的 PDF ソースドキュメントは、マージされた PDF ファイルに格納されます。PDF ファイル以外の静的ソースドキュメントは、除外されます。

## 9.4 公開に必要なアクセス権

ロール	タスク	必要な権限
ドキュメントデザイナー	パブリケーションの基となるドキュメントを作成する。	なし
ドキュメントデザイナー	ドキュメントを BI プラットフォームに追加する。	・ ドキュメントを追加するフォルダまたはカテゴリに対する表示権限および追加権限
ドキュメントデザイナー	動的受信者ソースとして使用するドキュメントを作成する。	・ ドキュメントを追加するフォルダまたはカテゴリに対する表示権限および追加権限
Publisher	パブリケーションを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリケーションが保存されるフォルダに対する追加権限</li> <li>・ 受信者となるユーザおよびグループに対する表示権限</li> <li>・ パーソナライゼーションに使用されるプロファイルに対する表示権限</li> <li>・ パブリケーションのドキュメントに対する表示権限</li> <li>・ パブリケーションのドキュメントに対するスケジュール権限</li> <li>・ Enterprise 受信者に対するスケジュール権限</li> </ul>

ロール	タスク	必要な権限
Publisher	パブリケーションをスケジュールする。	<p><b>注</b> パブリケーションをスケジュールする権限は、公開者のみが保持する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリケーションに対する表示権限、スケジュール権限、追加権限、およびセキュリティの変更権限</li> <li>・ パブリケーションに対するインスタンスの削除権限</li> <li>・ 受信者となるユーザおよびグループに対する表示権限</li> <li>・ パーソナライゼーションに使用されるプロファイルに対する表示権限</li> <li>・ パブリケーションのドキュメントに対する表示権限およびスケジュール権限</li> <li>・ 動的受信者ソースに対する表示権限および最新表示権限</li> <li>・ 配信ルールが設定されるドキュメントに対する表示権限および最新表示権限</li> <li>・ パブリケーションのオブジェクトで使用するユニバースに対するデータアクセス権限</li> <li>・ 使用されるユニバース接続に対するデータアクセス権限</li> <li>・ BI 受信ボックスにスケジュールする場合、各受信者の BI 受信ボックスに対する追加権限および表示権限</li> <li>・ パブリケーションを含むフォルダに対する「オブジェクトに対するユーザの権限を変更する」権限</li> <li>・ 受信者に対する購読権限</li> <li>・ 公開者がパブリケーションインスタンスを印刷する場合、Crystal レポートソースドキュメントに対する印刷権限</li> <li>・ [受信者ごとのデータベースフェッチ] を選択している場合、Enterprise 受信者に対する「他のユーザの代理としてスケジュール」権限</li> </ul>

ロール	タスク	必要な権限
公開者	失敗したパブリケーションインスタンスを再試行する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリケーションインスタンスに対する編集権限</li> <li>・ パブリケーションに対する表示権限、購読権限、追加権限、およびセキュリティの変更権限</li> <li>・ パブリケーションに対するインスタンスの削除権限</li> <li>・ 受信者となるユーザおよびグループに対する表示権限</li> <li>・ パーソナライゼーションに使用されるプロファイルに対する表示権限</li> <li>・ パブリケーションのドキュメントに対する表示権限およびスケジュール権限</li> <li>・ 動的受信者ソースに対する表示権限および最新表示権限</li> <li>・ 配信ルールが設定されるドキュメントに対する表示権限および最新表示権限</li> <li>・ パブリケーションのオブジェクトで使用するユニバースに対するデータアクセス権限</li> <li>・ 使用されるユニバース接続に対するデータアクセス権限</li> <li>・ BI 受信ボックスにスケジュールする場合、各受信者の BI 受信ボックスに対する追加権限および表示権限</li> <li>・ パブリケーションを含むフォルダに対する「オブジェクトに対するユーザの権限を変更する」権限</li> <li>・ 受信者に対する購読権限</li> <li>・ 公開者がパブリケーションインスタンスを印刷する場合、Crystal レポートソースドキュメントに対する印刷権限</li> <li>・ [受信者ごとのデータベースフェッチ] を選択している場合、Enterprise 受信者に対する「他のユーザの代理としてスケジュール」権限</li> </ul>



ロール	タスク	必要な権限
公開者	パブリケーションインスタンスを再配布する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリケーションに対する表示権限、スケジュール権限、追加権限、およびセキュリティの変更権限</li> <li>各受信者の BI 受信ボックスに対する追加権限および表示権限</li> <li>パブリケーションインスタンスに対するインスタンスの表示権限および編集権限</li> </ul>
受信者	パブリケーションを表示する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリケーションに対する表示権限</li> <li>パブリケーションに対するインスタンスの表示権限</li> </ul> <p>これらの権限により、BI プラットフォームでのパブリケーションオブジェクトの表示が可能になります。これらの権限は、BI 受信ボックスに送信された内容を表示する場合は必要ありません。</p>
受信者	パブリケーションを購読および購読解除する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリケーションに対する表示権限</li> <li>Enterprise 受信者に対する購読権限</li> </ul>

#### 9.4.1 公開者と受信者: 表示する内容とアクセス権

公開者（パブリケーションを所有し、スケジュールするユーザ）は、すべての受信者のすべてのパブリケーションインスタンスを表示できます。受信者は、自分用にパーソナライズされたパブリケーションインスタンスのみを表示できます。この設定では、公開者のみが、パブリケーションのスケジュールおよびすべてのパブリケーションインスタンスを表示する権限を持っているため、パブリケーションデータのセキュリティを最大にすることができます。

##### ヒント

公開者が自身をパブリケーションに受信者として追加する場合は、自分用に、公開者アカウントと受信者アカウントの2つのユーザアカウントを作成します。公開者アカウントでは、パブリケーションの作成およびスケジュールに必要なアクセス権が付与され、受信者アカウントでは通常の受信者のアクセス権が付与されます。



## パブリケーションの使用

### 10.1 パブリケーションのデザイン

新しいパブリケーションをデザインするには、BI プラットフォーム内の公開機能を使用します。公開機能には、所有している権限と BI プラットフォームの Web ベースアプリケーションへのアクセス権に応じて、セントラル管理コンソール (CMC) または BI ラウンチパッドでアクセスできます。

パブリケーションデザイン時には、任意の時点でパブリケーションの変更の保存、終了、リオープン、および追加変更ができます。

#### 10.1.1 Live Office 用のパブリケーションのデザイン

SAP BusinessObjects Live Office で使用するためのパブリケーションをデザインする場合は、次の点に注意してください。

- ・ 動的なコンテンツのドキュメントは、元の形式の Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントでのみ構成できます。
- ・ 動的受信者はサポートされません。
- ・ 使用できる出力先オプションは、[デフォルトの Enterprise の場所] のみです。
- ・ 受信者がパーソナライゼーションの後に複数のパブリケーションインスタンスを受信した場合、最初のパブリケーションインスタンスのみを、Live Office クライアントで表示できます。グループメンバーシップから複数のプロファイル値を継承している受信者は、複数のインスタンスを受信する可能性があります。複数のインスタンスが送信されることを回避するため、必要なプロファイル値のみを受信者に割り当ててください。

#### 関連項目

- ・ 131 ページの [「パーソナライゼーション」](#)

#### 10.1.2 SAP 受信者用パブリケーションの設計

SAP 受信者用パブリケーションは、Enterprise または動的受信者用のパブリケーションと同じ方法で動作します。ただし、SAP 受信者の場合、公開ワークフローにおいて以下の違いがあります。

- ・ SAP 受信者用にソースドキュメントをデザインする場合、パーソナライゼーションは使用しません。各 SAP 受信者には、BI プラットフォーム以外のユーザアカウントにマップされているプロファイル値があり、このプロファイル値が組み込みのパーソナライゼーションの機能を果たします。BI プラットフォームで SAP 受信者のプロファイルおよびプロファイル値を作成したり、ソースドキュメントフィールドにプロファイルをマップしたりする必要はありません。
- ・ SAP 受信者用のパブリケーションに関して機能するレポートバースト方法は、[受信者ごとのデータベースフェッチ]のみです。この方法はセキュリティを最大化し、各パブリケーション受信者のデータベースログオン認証情報を個別に処理します。

シングルサインオン設定および認証の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

### 10.1.3 CMC で新しいパブリケーションを作成する

- 1 CMC の [フォルダ] で [グループツリー] をクリックし、パブリケーションを作成するフォルダを見つけます。
- 2 フォルダを右クリックして、[新規] > [パブリケーション] を選択します。  
[新規パブリケーション] ダイアログボックスが開き、一般プロパティのオプションが表示されます。
- 3 (必須) [タイトル] ボックスに、パブリケーションのタイトルを入力します。
- 4 (オプション) [説明] ボックスに、パブリケーションの説明を入力します。
- 5 (オプション) [キーワード] ボックスに、パブリケーションの内容に関連するキーワードを入力します。
- 6 ナビゲーション一覧の [ソースドキュメント] をクリックしてから、[追加] ボタンをクリックします。
- 7 [ソースドキュメントの選択] ダイアログボックスで、パブリケーションに追加するソースドキュメントを 1 つまたは複数選択し、[OK] をクリックします。  
各ソースドキュメントでは、[実行時に最新表示] チェックボックスがデフォルトで選択されています。これにより、パブリケーションの実行時に、ドキュメントがデータソースに合わせて最新表示されます。
- 8 パブリケーションの実行時にソースドキュメントを最新表示しない場合は、ドキュメントの [実行時に最新表示] チェックボックスをオフにします。
- 9 [保存して閉じる] をクリックします。

### 10.1.4 BI ラウンチパッドで新しいパブリケーションを作成する

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開し、パブリケーションを作成するフォルダを見つけます。
- 2 フォルダを右クリックして、[新規] > [パブリケーション] を選択します。  
[新規パブリケーション] ダイアログボックスが開き、一般プロパティのオプションが表示されます。
- 3 (必須) [タイトル] ボックスに、パブリケーションのタイトルを入力します。
- 4 (オプション) [説明] ボックスに、パブリケーションの説明を入力します。
- 5 (オプション) [キーワード] ボックスに、パブリケーションの内容に関連するキーワードを入力します。

- 6 ナビゲーション一覧の [ソースドキュメント] をクリックしてから、[追加] ボタンをクリックします。
- 7 [ソースドキュメントの選択] ダイアログボックスで、パブリケーションに追加するソースドキュメントを 1 つまたは複数選択し、[OK] をクリックします。  
各ソースドキュメントでは、[実行時に最新表示] チェックボックスがデフォルトで選択されています。これにより、パブリケーションの実行時に、ドキュメントがデータソースに合わせて最新表示されます。
- 8 実行時にソースドキュメントを最新表示しない場合は、[実行時に最新表示] チェックボックスをオフにします。
- 9 [保存して閉じる] をクリックします。

パブリケーションに必要なその他の情報 (受信者、配信形式、出力先、およびドキュメントのパーソナライズ方法) を指定する必要があります。

### 10.1.5 パブリケーションを開く

- 1 パブリケーションを見つけるには、以下の操作を行います。
  - ・ BI ラウンチパッドの [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開します。
  - ・ セントラル管理コンソール (CMC) の [フォルダ] 管理領域を表示します。
- 2 パブリケーションを右クリックし、[表示] を選択します。  
パブリケーションが新しいウィンドウで開きます。

### 10.1.6 パブリケーションに一般プロパティを定義する

- 1 一般プロパティを入力するパブリケーションを右クリックし、[プロパティ] を選択します。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示され、パブリケーションの一般プロパティとタイトルが表示されます。
- 2 (オプション) [説明] ボックスに、パブリケーションの説明を入力します。
- 3 (オプション) [キーワード] ボックスに、パブリケーションの内容に関連するキーワードを入力します。
- 4 [保存して閉じる] をクリックします。

### 10.1.7 ソースドキュメントを選択する

パブリケーションに含めるソースドキュメントを選択する際、動的コンテンツドキュメントの種類によって利用可能なオプションが決まります。

**ヒント**

ソースドキュメントを添付ファイルまたは結合された PDF ファイルとして送信する場合、表示するドキュメントの順番を設定できます。[新規パブリケーション] ダイアログボックスの [ソースドキュメント] 領域で、[選択] リストからドキュメントを選択し、[上へ移動] または [下へ移動] をクリックしてドキュメントを順序内の別の位置に移動します。

- 1 パブリケーションを右クリックして、[スケジュール] を選択します。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示され、パブリケーションの一般プロパティとタイトルが表示されます。
- 2 [新規パブリケーション] ダイアログボックスで、[ソースドキュメント] をクリックします。
- 3 [追加] をクリックします。  
[ソースドキュメントの選択] ダイアログボックスが開きます。
- 4 パブリケーションに含める同じタイプのドキュメントの動的コンテンツドキュメントを見つけて選択し、[OK] をクリックします。

**ヒント**

Ctrl + クリックまたは Shift + クリックを押して複数のソースドキュメントを選択するか、1 つのソースドキュメントをダブルクリックして選択します。

選択したソースドキュメントが、[新規パブリケーション] ダイアログボックスの [選択] リストに表示されます。ソースドキュメントでは、[実行時に最新表示] 列内のチェックボックスはデフォルトで選択されています。チェックボックスが選択されている場合、パブリケーションの実行時にデータソースに対してドキュメントは最新表示されます。

- 5 パブリケーションの実行時にデータソースに対してソースドキュメントの最新表示を行わない場合、[実行時に最新表示] 列内のドキュメントのチェックボックスの選択を解除します。

**ヒント**

システムのパフォーマンスを向上させるために、最新表示が必要ないドキュメントごとに、[実行時に最新表示] 列内のチェックボックスの選択を解除してください。

- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

### 10.1.8 Enterprise 受信者を選択する

- 1 パブリケーションを右クリックして、[スケジュール] を選択します。  
[スケジュール] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [出力先] をクリックし、[Enterprise 受信者] をクリックします。
- 3 パブリケーションの受信者を選択します。
  - a [利用可能] の下にある [ユーザー一覧] をクリックして BI プラットフォームのすべてのユーザの一覧を表示するか、[グループリスト] をクリックして BI プラットフォームのすべてのユーザグループ一覧を表示します。
  - b ユーザまたはユーザグループを選択し、ユーザまたはグループを [選択] リストに移動します。

**ヒント**

[利用可能な受信者]リストでユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索]ボックスに受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを入力します。

**ヒント**

- ・ 複数のユーザまたはグループを選択するには、Shift + クリックまたは Ctrl + クリックを押します。
- ・ 受信者を除外するには、[選択]リストのユーザまたはユーザグループを選択し、ユーザまたはユーザグループを [除外する] リストに移動します。

- 4 [OK] をクリックします。

### 10.1.9 動的受信者を選択する

動的受信者を指定する前に、動的受信者ソースが設計されており、使用可能な状態であることが必要です。

動的受信者は、BI プラットフォームユーザ以外の受信者です。動的受信者ソースには受信者のデータを格納し、Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、またはカスタムコーディングされたデータプロバイダを使用できます。カスタムコーディングされた動的受信者ソースの作成については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

**注**

動的受信者データはクエリから取得され、ドキュメントを表示すると表示されるデータと一致していない場合があります。クエリの作成方法によっては、Web Intelligence コンポーネントで作成された動的受信者ソースには、パブリケーションのソースドキュメント内のデータに対応しない値が含まれる場合があります。たとえば、レポート内のフィルタで関連の値を除外したり、クエリが重複行を取得するように設定されているために重複するレコードが表示される場合があります。パブリケーションの設計プロセスの間に動的受信者の完全なリストを確認してください。

**ヒント**

より効率的にパブリケーションを処理するには、[受信者の識別子]リストを使用し、受信者 ID を基準に受信者データを並べ替えます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [動的受信者] をクリックします。

**注**

Crystal レポート動的受信者のソースを、.rptr 形式にすることはできません。

- 3 [動的受信者のソースの選択] の下で、[Web Intelligence レポート動的受信者プロバイダ] または [Crystal Reports 動的受信者データプロバイダ] のいずれかを選択します。
- 4 動的受信者ソースとして使用するオブジェクトを検索して選択し、[OK] をクリックします。
- 5 動的受信者ソースとして Web Intelligence ドキュメントを選択する場合は、[ドキュメントのデータソース名の選択] リストからドキュメントに表示されるクエリを選択します。
- 6 [受信者の識別子 (必須)] リストから、受信者の ID 値が含まれるフィールドを選択します。
- 7 (オプション) [フルネーム] リストから受信者のフルネームが含まれるフィールドを選択します。

- 8 パブリケーションを電子メールアドレスに配信する場合は、[電子メール]リストから受信者の電子メールアドレスが含まれるフィールドを選択します。
- 9 パブリケーションを配信する動的受信者ソース内の受信者を、以下のように決定します。
  - ・ パブリケーションをすべての動的受信者に送信するには、[完全リストの使用] チェックボックスを選択します。
  - ・ パブリケーションを特定の動的受信者に送信するには、[完全リストの使用] チェックボックスの選択を解除し、[利用可能] の下で、受信者のチェックボックスを選択して受信者を [選択] リストに移動します。

#### ヒント

[利用可能な受信者]リストでユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索] ボックスに受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを入力します。

#### ヒント

受信者を除外するには、受信者のチェックボックスを選択し、[除外する] リストに移動します。

- 10 [OK] をクリックします。

パブリケーションの動的受信者を指定した後、動的受信者に対するパブリケーションをパーソナライズできます。これを行うには、ソースドキュメント内のフィールドを動的受信者ソース内の列にマップします。

### 10.1.10 パブリケーションの出力先を選択する

Enterprise 受信者がパブリケーションインスタンスを表示するには、そのパブリケーションの [表示] 権限を所持している必要があります。動的受信者は、BI アカウントを所持していないため、パブリケーションインスタンスにアクセスできません。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [出力先] をクリックします。
- 3 (オプション) 使用しているシステムにパブリケーションインスタンスを保存しないようにするには、[送信先の選択] の下にある [デフォルトの Enterprise の場所] チェックボックスの選択を解除します。
- 4 パブリケーションオブジェクトのインスタンスの制限を低く設定します。  
手順については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド』を参照してください。
- 5 [送信先の選択] で、パブリケーションを送信する各出力先の隣にあるチェックボックスを選択します。  
パブリケーションのショートカットを作成する場合、出力先として [BI 受信ボックス] および [デフォルトの Enterprise の場所] を選択します。  
パブリケーションが電子メール受信者に送信され、電子メール本文に Enterprise の場所へのリンクを埋め込む場合、出力先として [電子メール] および [デフォルトの Enterprise の場所] を選択します。  
選択した出力先が、[選択した出力先のオプションを表示] リストに表示されます。複数の出力先を選択した場合、最後に選択したチェックボックスに対するオプションが表示されます。
- 6 必要に応じて、[選択した出力先のオプションを表示] リストで設定を行うには、出力先を選択します。  
その出力先に対するオプションが表示されます。



- 7 (オプション) パブリケーションの名前を選択するには、[指定の名前を使用する]を選択し、名前を入力するか [プレースホルダの追加] リストにあるプレースホルダを選択します。

名前を選択しないと、システムで生成された名前がパブリケーションに割り当てられます。

パブリケーションの実行時、各プレースホルダに値が挿入されます。

- 8 (オプション) [指定の名前を使用する] を選択し、パブリケーションに個別の名前を割り当てる複数のドキュメントが含まれている場合、[ドキュメントごとの指定の名前] チェックボックスを選択し、各ドキュメントの名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストにあるプレースホルダを選択します。

名前を選択しないと、システムで生成された同じ名前が各ドキュメントに割り当てられます。

- 9 ([電子メール] のみ) 電子メール本文に Enterprise の場所へのリンクを埋め込むには、[メッセージ] ボックスにカーソルを置き、ボックスの下にある [プレースホルダの追加] リストにある [ビューア] を選択します。

プレースホルダ %SL\_VIEWER\_URL% が電子メール本文に挿入されます。これは、パブリケーションの実行時にリンクに置換されます。

#### ヒント

リンクを埋め込むことができない場合、出力先として [電子メール] および [デフォルトの Enterprise の場所] の両方が選択されていることを確認してください。

- 10 ([BI 受信ボックス] のみ) [送信者の名前] の下で、[ショートカット] をクリックしてパブリケーションへのショートカットを作成するか、[コピー] をクリックしてパブリケーションのコピーを作成します。

#### ヒント

ショートカットを作成できない場合、出力先として [BI 受信ボックス] および [デフォルトの Enterprise の場所] の両方が選択されていることを確認してください。

- 11 複数の出力先を選択している場合、出力先の選択および設定のために、手順 5 ～ 10 を出力先ごとに繰り返します。
- 12 [OK] をクリックします。

### 10.1.10.1 出力先

次の出力先を選択できます。

- ・ デフォルトの Enterprise の場所
- ・ BI 受信ボックス
- ・ 電子メール
- ・ FTP サーバ
- ・ ファイルシステム
- ・ SAP StreamWork (有効化かつ設定されている場合)

表 10-1: デフォルトの Enterprise の場所出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションには、そのパブリケーションを作成したフォルダからアクセスできます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li><li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li></ul> <p>この場所にパブリケーションを送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。</p>	<p>Output File Repository Server</p> <p>履歴のインスタンスはデフォルトの Enterprise サーバに保存されますが、他の出力先には保存されません。</p>

表 10-2: BI 受信ボックス出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、各受信者の BI 受信ボックスに送信されます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> </ul> <p><b>注</b> ユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索] ボックスで受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを検索できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デフォルトのファイル名を使用するか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>・ ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリケーションをショートカットまたはコピーとして送信する。パブリケーションを受信者の BI 受信ボックスにショートカットとして送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。パブリケーションのショートカットを BI 受信ボックスに送信するには、出力先として、[BI 受信ボックス] および [デフォルトの Enterprise の場所] の両方を選択します。</li> <li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Output File Repository Server</li> <li>・ 指定された BI 受信ボックス</li> </ul>

表 10-3: 電子メール出力先

説明	インスタンスの保存先
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ Output File Repository Server</li><li>・ 指定された電子メール受信者</li></ul> <p>レポートインスタンスをスケジュールするかこの出力先に送信するには、Adaptive Job Server で電子メール (SMTP) の出力先を有効にして設定する必要があります。</p>

説明	インスタンスの保存先
<p><b>注</b></p> <p>この出力先を選択する前に、Adaptive Job Server で電子メール設定が正しく設定されていることを確認します。</p> <p>パブリケーションは、電子メールで受信者に送信されます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> <li>・ (必須) [差出人] ボックスに自分の電子メールアドレスを入力する。電子メールアドレスを入力しない場合、BI プラットフォームでは、公開者のアカウントに関連付けられている電子メールアドレスが使用されます。公開者のアカウントに電子メールアドレスがない場合、BI プラットフォームでは、Adaptive Job Server の電子メールアドレスが使用されます。</li> </ul> <p><b>警告</b></p> <p>[差出人] ボックス、公開者のアカウント、または Adaptive Job Server のいずれにも電子メールアドレスがない場合、パブリケーションは失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [宛先] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [CC] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [BCC] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [件名] ボックスに件名を入力するか、プレースホルダを追加する</li> <li>・ [メッセージ] ボックスに、パブリケーションと一緒に配信する情報を入力するか、プレースホルダを追加して電子メール本文に動的コンテンツドキュメントを埋め込む</li> <li>・ ソースドキュメントのインスタンスを電子メールに添付する</li> <li>・ デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイ</li> </ul>	

説明	インスタンスの保存先
<p>ル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	

表 10-4: FTP サーバ出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、FTP サーバに送信されます。[ホスト] ボックスに、FTP サーバの場所を入力する必要があります (入力しないと、BI プラットフォームは、Adaptive Job Server 用に設定された FTP サーバを使用します)。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>ポート番号、ユーザ名とパスワード、およびアカウントを入力する</li> <li>ディレクトリ名を入力する</li> <li>デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する] を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Output File Repository Server</li> <li>選択された FTP サーバ</li> </ul>

表 10-5: ファイルシステム出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、ファイルシステムのディレクトリに送信されます。パブリケーションのディレクトリを入力する必要があります。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ ファイルの場所にアクセスするためのユーザ名とパスワードを入力する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> <li>・ デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>・ ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Output File Repository Server</li> <li>・ 選択されたファイルの場所</li> </ul>

表 10-6: SAP StreamWork 出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、他のユーザとのコラボレーションのために送信されます。</p> <p><b>注</b> この出力先は、BI プラットフォームで SAP StreamWork が設定されて有効化されている場合に使用できます。</p>	SAP StreamWork

デフォルトでは、すべての出力先に対して [各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスがオンになっています。ただし、場合によっては、各ユーザにオブジェクトを配信しないようにする場合もあります。たとえば、3 人の受信者が同一のパーソナライゼーション値を持っていると、パブリケーションインスタンスの同じデータが受

信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオフにした場合は、1 つのパブリケーションインスタンスが生成され、それが 3 人の受信者すべてに配信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオンにした場合は、同じパブリケーションインスタンスが 3 回 (受信者ごとに 1 回ずつ) 配信されます。

パブリケーションを [FTP サーバ] または [ファイルシステム] 出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオフにすると、処理時間全体を短縮できます。[各ユーザにオブジェクトを配信] をオフにする場合は、出力先の設定時に使用するプレースホルダには、受信者ではなく公開者の情報が入力されます。

### 10.1.11 定期的なスケジュールパターンを選択する

定期的なスケジュールパターンでは、パブリケーションの実行頻度を決定します。

- 1 パブリケーションを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで[定期] をクリックします。
- 3 [オブジェクトの実行] リストで、定期的なスケジュールパターンを選択します。
- 4
- 5
- 6 [スケジュール] をクリックします。

パブリケーションは、スケジュールされた時刻に実行されます。

#### 10.1.11.1 定期スケジュールパターン

オプション	説明
今すぐ	オブジェクトを 1 回実行します。すぐに開始されます。
1 回	<p>指定された開始時間に、オブジェクトを 1 回だけ実行します。イベントを使用してオブジェクトをスケジュールする場合、開始時間と終了時間の間にイベントが発生すると、オブジェクトは 1 度だけ実行されます。</p> <p>[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>



オプション	説明
時間単位	<p>指定された時間に、毎時間インスタンスを作成します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎時間指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>[時間 (N)] リストおよび [分 (X)] リストでオブジェクトの実行頻度を選択し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>
日単位	<p>指定された開始時間に、オブジェクトを 1 日に 1 回だけ実行します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎日指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>[日数 (N)] ボックスでオブジェクトの実行間隔を入力し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>
週単位	<p>毎週指定された曜日の指定された開始時間に、オブジェクトを実行します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎週指定された曜日の指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>オブジェクトを実行する各曜日のチェックボックスを選択し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>

オプション	説明
月単位	<p>指定された月間隔で、指定された日の指定された開始時間に、オブジェクトを実行します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、指定された月間隔の指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>[月 (N)] ボックスでオブジェクトの実行間隔を選択し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>
N 日	<p>毎月指定された日の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎月指定された日の指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>オブジェクトの実行開始日時および終了日時、オブジェクトを実行する月の日を入力します。</p>
第 1 月曜日	<p>毎月第 1 月曜日の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。</p> <p>オブジェクトの実行開始時間および実行停止時間を入力します。</p>
月末日	<p>毎月月末の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。</p> <p>オブジェクトの実行開始時間および実行停止時間を入力します。</p>
第 N 週の X 日	<p>毎月指定された週の日の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。</p> <p>オブジェクトの実行開始日時および終了日時、オブジェクトを実行する月の週と週の日を入力します。</p>

オプション	説明
カレンダー	<p>指定されたカレンダーの日付の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。</p> <p>オブジェクトの実行開始時間および終了時間を入力し、オブジェクトを実行するカレンダーの日付を選択します。</p>

### 10.1.12 パブリケーションソースドキュメントに対してパーソナライズされたプレースホルダを選択する

パーソナライズされたプレースホルダをパブリケーションインスタンス名に使用する前に、ソースドキュメントのデータを絞り込むためのパーソナライゼーションを使用している必要があります。

#### ヒント

パブリケーション名には、テキストとプレースホルダを組み合わせて使用できるほか、複数のプレースホルダを使用できます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [出力先] をクリックします。
- 3 [選択した出力先のオプションを表示] の下で [指定の名前を使用する] を選択し、[プレースホルダの追加] リストからパブリケーション名に対するプレースホルダを選択します。  
選択したプレースホルダは、ドキュメントタイトルの [指定の名前] ボックスに表示されます。
- 4 個々のドキュメントを追加するには、以下の手順に従います。
  - a [ターゲット名] の下で、[ドキュメントごとの指定の名前] を選択します。
  - b ドキュメントタイトルごとに、[プレースホルダの追加] リストからプレースホルダを選択します。  
選択したプレースホルダは、各ドキュメントタイトルの [指定の名前] ボックスに表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。

パブリケーションに対するパーソナライズの設定が終了したら、パーソナライズされたプレースホルダは [出力先] ダイアログボックスの [プレースホルダの追加] リストに表示されます。

### 10.1.13 電子メールに動的ソースドキュメントのコンテンツを埋め込む

動的コンテンツドキュメントから、電子メールの本文にコンテンツを埋め込むことができます。Crystal レポートの場合は、レポートのコンテンツを埋め込むことができます。Web Intelligence ドキュメントの場合は、ドキュメント全体または 1 つのレポートタブを埋め込むことができます。

- 1 パブリケーションを右クリックし、[プロパティ] を選択します。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [形式] をクリックします。
- 3 [ドキュメント] で、電子メールに埋め込む動的コンテンツドキュメントを選択します。
- 4 Crystal レポートの場合、[選択したドキュメントの形式オプション] で [mHTML] チェックボックスを選択します。
- 5 Web Intelligence ドキュメントの場合は、ドキュメント全体を公開するか、ドキュメント内のレポートタブの 1 つを公開するかを選択します。
  - a [出力形式] で、[mHTML] チェックボックスを選択します。
  - b [出力形式の詳細] で、[すべてのレポート] を選択してドキュメント全体を公開するか、[1 つのレポートを選択] を選択してリスト内のレポートタブを選択します。
- 6 ナビゲーション一覧で [出力先] をクリックします。
- 7 [出力先] ダイアログボックスの [送信先の選択] で、[電子メール] チェックボックスを選択します。  
電子メールの設定オプションが表示されます。
- 8 [差出人] ボックスで、名前または電子メールアドレスを入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールを選択します。  
たとえば、「Robert」、「公開者」、「publisher@sap.com」などを入力できます。たとえば、「Publisher@emailserver」のように、名前を入力すると、その名前が電子メールサーバに追加されます。
- 9 [件名] ボックスに、件名を入力するかプレースホルダを選択します。  
レポートをパーソナライズした場合、パーソナライズされたプレースホルダは [プレースホルダの追加] リストで使えるようになります。
- 10 [メッセージ] ボックスに、電子メールの本文に表示するメッセージを入力します。
- 11 [メッセージ] ボックスに動的コンテンツを埋め込むには、コンテンツを埋め込む [メッセージ] ボックスにカーソルを置いて、[プレースホルダの追加] リストから [レポート HTML コンテンツ] を選択します。  
[メッセージ] ボックスに、%SI\_DOCUMENT\_HTML\_CONTENT% と表示されます。パブリケーションの実行時、動的コンテンツドキュメントのパーソナライズされたコンテンツにプレースホルダが置き換えられます。
- 12 パブリケーションにその他のソースドキュメントが含まれている場合、[添付ファイルの追加] チェックボックスを選択します。  
パブリケーションの実行時、パブリケーション内のその他のソースドキュメントは、添付ファイルとして電子メールに追加されます。
- 13 [OK] をクリックします。

#### 10.1.14 Crystal レポートのデザインタスク

#### 10.1.14.1 パラメータ値を使用した Crystal レポートのパーソナライゼーション

各受信者に対して事前に定義されたパラメータ値に基づいて、受信者の Crystal レポートをパーソナライズできます。パラメータ値に基づくパーソナライゼーションは、他のパーソナライゼーション方法で上書きされる場合があります。

たとえば、プロファイルがパラメータにマップされ、Enterprise 受信者のプロファイル値がパラメータ値と競合する場合は、パブリケーションが実行されると、プロファイル値によってパラメータ値が上書きされます。同様に、動的受信者ソースの値が動的受信者のパラメータ値と競合する場合、パブリケーションが実行されるとパラメータ値は上書きされます。

##### 注

可能な場合は、Crystal レポートをローカルプロファイルターゲットでパーソナライズしてください。パラメータがレコード選択式、コマンド、テーブル、またはストアドプロシージャで使用される場合、パラメータベースのパーソナライゼーションでは受信者ごとにデータベースフェッチを 1 回行う必要があり、パブリケーションの処理に時間がかかる場合があります。

#### 10.1.14.2 パラメータ値を使用して Crystal レポートをパーソナライズする

- ・ Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。
  - ・ このタスクを実行するには、Crystal レポートにパラメータが含まれている必要があります。
- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
  - 2 ナビゲーション一覧で [パーソナライゼーション] をクリックします。
  - 3 [パラメータ] でパラメータ値を検討し、変更が必要な値がないか確認します。
  - 4 デフォルト値を変更する場合は、デフォルトパラメータ値の横にある [値の編集] ボタンをクリックし、パラメータ値を選択または入力して [OK] をクリックします。
  - 5 次の操作のいずれかを実行します。
    - ・ デフォルトパラメータのパーソナライゼーション値を Enterprise 受信者のプロファイル値で上書きする場合は、[Enterprise 受信者のマッピング] 列で、一覧からプロファイルを選択します。

##### 注

このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

- ・ デフォルトパラメータ値のみを使用してレポートをパーソナライズする場合は、[Enterprise 受信者のマッピング] 列で [すべての受信者のデフォルト値] を選択します。

**注**

[Enterprise 受信者のマッピング] 列は、Enterprise 受信者向けのパブリケーションにのみ表示されます。

- 6 デフォルトパラメータのパーソナライゼーション値を動的受信者のパーソナライゼーション値で書き替える場合は、[動的受信者のマッピング] 列で、一覧から動的受信者ソースを選択します。

**注**

[動的受信者のマッピング] 列は、動的受信者向けのパブリケーションにのみ表示されます。

デフォルトパラメータ値を使用してレポートをパーソナライズする場合は、[動的受信者のマッピング] 列で [指定なし] を選択します。

- 7 [OK] をクリックします。

### 10.1.14.3 フィールドをフィルタリングして Crystal レポートをパーソナライズする

Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。

Crystal レポートでは、複数のフィールドをフィルタリングできます。フィルタを使用すると、ViewTime 選択式がレポートに追加され、データがフィルタリングされます。この式は、パブリケーションの実行時に適用され、レポートには保存されません。

**注**

- ・ 静的値のプロファイルでは、Crystal レポートの文字列フィールドのみをフィルタリングできます。他の種類のフィールドをフィルタ処理する場合は、式のプロファイル値を使用します。不適切なタイプのフィールドをプロファイルにマップすると、パーソナライゼーションは失敗します。
- ・ この機能は、.rptr 形式の Crystal レポートでは使用できません。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [パーソナライゼーション] をクリックします。
- 3 [ローカルプロファイル] の [レポートフィールド] 列で、一覧から Crystal レポートフィールドを選択します。  
使用可能なフィールドの一覧には、メインレポートおよび非オンデマンド型サブレポートのすべてのデータベースフィールドおよび繰り返し式が含まれています。
- 4 [Enterprise 受信者のマッピング] 列で、一覧からプロファイルを選択します。

このプロファイルはレポートのセントラル管理コンソール (CMC) のフィールドを Enterprise 受信者用に定義されたプロファイル値にマッピングします。このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

**注**

[Enterprise 受信者のマッピング] 列は、Enterprise 受信者向けのパブリケーションにのみ表示されます。

- 5 [動的受信者のマッピング] 列で、一覧から動的受信者のソースを選択します。

レポートフィールドは、対応する値を含む動的受信者ソースの列にマッピングされます。

**注**

[動的受信者のマッピング] 列は、動的受信者向けのパブリケーションにのみ表示されます。

- 6 フィルタリング対象の各レポートフィールドに対し、手順 2 ～ 5 を繰り返します。
- 7 [OK] をクリックします。

#### 10.1.14.4 Crystal レポートのパブリケーションの形式を指定する

1 つの Crystal レポートに対して複数のパブリケーション形式を選択して設定することができます。形式を選択すると、使用可能な形式オプションが表示されます。[Crystal Reports] および [Crystal Reports (RPTR)] などの一部のオプションでは、形式オプションが表示されず、デフォルトのソースドキュメント形式が適用されます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [形式] をクリックします。
- 3 [選択したドキュメントの形式オプション] で、Crystal レポートを公開する形式を選択します。  
選択した形式のオプションが表示されます。
- 4 必要に応じて書式オプションを設定します。
- 5 [レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスが使用可能な場合は、以下のいずれかを行います。
  - ・ ソースドキュメントで定義されているデフォルトのエクスポートオプションを使用する場合は、チェックボックスをオンにします。
  - ・ 選択した形式でのエクスポートオプションを設定する場合は、チェックボックスをオフにして、表示されるオプションを設定します。
- 6 Crystal レポートを公開する各形式に対し、手順 3 ～ 5 を繰り返します。
- 7 [OK] をクリックします。

パブリケーションの Crystal レポートごとに、このタスクを繰り返します。

##### 10.1.14.4.1 Crystal レポートの書式設定オプション

Microsoft Excel(97-2003)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート全体を Excel ファイルとして公開する場合は、[すべて] を選択します。</li> <li>・ 特定のレポートページを公開する場合は、[ページ] を選択し、[開始] ボックスに最初のページの番号を入力してから [終了] ボックスに最後のページの番号を入力します。</li> </ul>

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートのオブジェクトを基準にして列幅を定義する場合は、[列幅を次のオブジェクトに合わせる] を選択して、リストからオプション ([レポート全体]、[レポートヘッダ]、[ページヘッダ]、[グループヘッダ #]、[詳細]、[グループフッタ #]、[ページフッタ]、または [レポートフッタ]) を選択します。</li> <li>すべての列に対して一定の幅を定義する場合は、[列幅を一定にする (ポイント単位)] を選択して、ボックスに数値を入力します。</li> </ul>
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	Excel ファイルでヘッダとフッタを表示する頻度を選択する場合は、このチェックボックスを選択して、リストからオプション ([なし]、[レポートごとに 1 回]、または [各ページ]) を選択します。
ページごとにページ区切りを作成	このチェックボックスを選択すると、レポートのページ区切りを反映するページ区切りを作成できます。
日付の値を文字列に変換する	このチェックボックスを選択すると、データ値をテキスト文字列に変換できます。
グリッドラインの表示	このチェックボックスを選択すると、Excel ファイルにグリッドラインを表示できます。

## Microsoft Excel(97-2003)(データのみ)

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	



オプション	説明
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートのオブジェクトを基準にして列幅を定義する場合は、[列幅を次のオブジェクトに合わせる]を選択して、リストからオプション ([レポート全体]、[レポートヘッダ]、[ページヘッダ]、[グループヘッダ #]、[詳細]、[グループフッタ #]、[ページフッタ]、または [レポートフッタ]) を選択します。</li> <li>すべての列に対して一定の幅を定義する場合は、[列幅を一定にする (ポイント単位)] を選択して、ボックスに数値を入力します。</li> </ul>
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	オブジェクトの書式設定を維持するには、このチェックボックスを選択します。
画像をエクスポートする	Excel ファイルでレポート画像を公開するには、このチェックボックスを選択します。
集計にワークシートの関数を使用する	レポートの集計を使用して Excel ファイルのワークシート関数を作成するには、このチェックボックスを選択します。
オブジェクトの相対位置を維持する	レポートオブジェクトの相対位置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
列の配置を維持する	レポートの列の配置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	Excel ファイルでヘッダとフッタを表示する頻度を選択する場合は、このチェックボックスを選択して、リストからオプション ([なし]、[レポートごとに 1 回]、または [各ページ]) を選択します。
ページヘッダを簡略化する	ページヘッダを簡略化する場合は、このチェックボックスを選択します。
グループのアウトラインを表示する	レポートのグループアウトラインを表示するには、このチェックボックスを選択します。

## Microsoft Excel Workbook データのみ

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートのオブジェクトを基準にして列幅を定義する場合は、[列幅を次のオブジェクトに合わせる]を選択して、リストからオプション ([レポート全体]、[レポートヘッダ]、[ページヘッダ]、[グループヘッダ #]、[詳細]、[グループフッタ #]、[ページフッタ]、または [レポートフッタ]) を選択します。</li> <li>すべての列に対して一定の幅を定義する場合は、[列幅を一定にする (ポイント単位)] を選択して、ボックスに数値を入力します。</li> </ul>
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	オブジェクトの書式設定を維持するには、このチェックボックスを選択します。
画像をエクスポートする	Excel ファイルでレポート画像を公開するには、このチェックボックスを選択します。
集計にワークシートの関数を使用する	レポートの集計を使用して Excel ファイルのワークシート関数を作成するには、このチェックボックスを選択します。
オブジェクトの相対位置を維持する	レポートオブジェクトの相対位置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
列の配置を維持する	レポートの列の配置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	Excel ファイルでヘッダとフッタを表示する頻度を選択する場合は、このチェックボックスを選択して、リストからオプション ([なし]、[レポートごとに 1 回]、または [各ページ]) を選択します。
ページヘッダを簡略化する	ページヘッダを簡略化する場合は、このチェックボックスを選択します。

オプション	説明
グループのアウトラインを表示する	レポートのグループアウトラインを表示するには、このチェックボックスを選択します。

## Microsoft Word(97-2003)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート全体を Word ファイルとして公開する場合は、[すべて] を選択します。</li> <li>・ 特定のレポートページを公開する場合は、[ページ] を選択し、[開始] ボックスに最初のページの番号を入力してから [終了] ボックスに最後のページの番号を入力します。</li> </ul>

## PDF

以下のオプションは、PDF ファイルとして公開されるソースドキュメントに適用されます。

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート全体を PDF ファイルとして公開する場合は、[すべて] を選択します。</li> <li>・ 特定のレポートページを公開する場合は、[ページ] を選択し、[開始] ボックスに最初のページの番号を入力してから [終了] ボックスに最後のページの番号を入力します。</li> </ul>
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
グループツリーからブックマークを作成	Crystal レポートのパブリケーションを目次付きの結合 PDF ファイルとして公開する場合は、このチェックボックスを選択します。

## リッチテキスト形式(RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート全体を RTF ファイルとして公開する場合は、[すべて] を選択します。</li> <li>・ 特定のレポートページを公開する場合は、[ページ] を選択し、[開始] ボックスに最初のページの番号を入力してから [終了] ボックスに最後のページの番号を入力します。</li> </ul>

## Microsoft Word – 編集可能(RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート全体を Word ファイルとして公開する場合は、[すべて] を選択します。</li> <li>・ 特定のレポートページを公開する場合は、[ページ] を選択し、[開始] ボックスに最初のページの番号を入力してから [終了] ボックスに最後のページの番号を入力します。</li> </ul>
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
レポートのページごとに改ページする	このチェックボックスを選択すると、レポートのページ区切りを反映するページ区切りを作成できます。

## テキスト

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
インチあたりの文字数	テキストファイルで 1 インチあたりに表示する文字数を入力します。推奨される範囲は 8 ～ 16 です。

## ページ区切り付きテキスト

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
1 ページあたりの行数	値を入力し、ページ区切り付きテキストファイルの各ページにおける行数を指定します。
インチあたりの文字数	ページ区切り付きテキストファイルで 1 インチあたりに表示する文字数を入力します。推奨される範囲は 8 ～ 16 です。

## タブ区切りテキスト (TTX)

書式設定オプションとして [タブ区切りテキスト (TTX)] を選択する場合は、追加のオプションは表示されません。

## カンマ区切り値(CSV)

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
区切り文字	区切り文字として使用する文字を入力します。
区切り文字	値の区切り文字として使用する文字を入力するか、[タブ] チェックボックスを選択してタブで値を区切ります。
モード	<p>[標準モード] (デフォルト) または [レガシーモード] を選択します。</p> <p>標準モードでは、CSV 出力にレポートのページ、グループヘッダ、およびグループフッタを表示する方法を制御できます。</p>

オプション	説明
レポートセクションとページセクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポートセクションとページセクションをエクスポートする場合は、[エクスポート] を選択します。</li> <li>・ レポートセクションとページセクションをエクスポートしない場合は、[エクスポートしない] を選択します。</li> <li>・ レポートセクションとページセクションを切り離す場合は、[レポート/ページセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。</li> </ul>
グループセクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループセクションをエクスポートする場合は、[エクスポート] を選択します。</li> <li>・ グループセクションをエクスポートしない場合は、[エクスポートしない] を選択します。</li> <li>・ グループセクションを切り離す場合は、[レポート/ページセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。</li> </ul>

## XML

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
XML エクスポート形式	XML 形式を指定するには、一覧からオプションを選択します。

## 10.1.14.5 (オプション) パブリケーションの Crystal レポートに印刷オプションを設定する

デフォルトプリンタの印刷オプションを設定するには、プリンタが適切にインストールおよび設定されている必要があります。

**注**

- ・ このタスクはオプションであり、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

- Crystal Reports Job Server は、指定したプリンタにアクセスする権限を持つアカウントによって実行される必要があります。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

Crystal Reports Job Server のデフォルトプリンタまたはその他のプリンタを使用して、パブリケーションを実行するたびに Crystal レポート形式のインスタンスを印刷できます。BI プラットフォームは、パブリケーションがパーソナライズされた後、それが配信される前にインスタンスを印刷します。

- 1 パブリケーションを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[出力設定] をクリックします。
- 3 [ドキュメント] で、パブリケーションの実行時に印刷する Crystal レポートを選択します。
- 4 [スケジュール時に Crystal レポートを印刷する] チェックボックスを選択します。  
Crystal レポートの印刷オプションが表示されます。
- 5 [通常使用するプリンタ] を選択して Job Server のデフォルトプリンタを使用するか、[プリンタの指定] を選択して、プリンタのパスおよび名前を選択します。
  - Job Server が Windows で実行されている場合には、[プリンタを指定する] ボックスに「¥¥printserver¥¥printername」と入力します。  
printserver には使用しているプリンタサーバの名前を入力し、printername には使用しているプリンタの名前を入力してください。
  - Job Server が Unix で実行されている場合は、Unix が表示されている (非表示でない) ことを確認し、通常使用する印刷コマンドを [プリンタを指定] ボックスに入力します。  
たとえば、「lp -d printername」と入力します。
- 6 [部数] ボックスで、印刷する部数を入力します。
- 7 [ページ範囲] で、[すべて] を選択してパブリケーションのすべてのページを印刷するか、[ページ] を選択して、印刷するページ範囲を入力します。
- 8 (オプション) [部単位で印刷するオプションを設定] リストで、[部単位で印刷]、[ページ単位で印刷]、または [プリンタのデフォルト値を使用] を選択します。
- 9 (オプション) [ページの拡大縮小] リストで、[拡大して合わせる]、[縮小のみで合わせる]、または [縮小拡大しない] を選択します。
- 10 (オプション) レポートコンテンツをページ上で中央揃えにするには、[ページの中央揃え] チェックボックスをオンにします。
- 11 (オプション) 幅の広い Crystal レポートを 1 ページに印刷するには、[横方向のページを 1 ページに合わせる] チェックボックスをオンにします。
- 12 [スケジュール] をクリックします。

#### 10.1.14.6 (オプション) Crystal レポートの受信者配信ルールを設定する

##### 注

このタスクはオプションであり、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

受信者配信ルールでは、処理およびパーソナライゼーションの後、各受信者にパブリケーションを配信するかどうかを決定します。パブリケーションの作成後、パブリケーションを開いてその配信ルールを変更できます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。
- 2 [新規パブリケーション] ダイアログボックスで、[追加オプション]を展開して[配信ルール]をクリックします。
- 3 [受信者配信ルール] で、[条件に一致するときに個々のドキュメントを配信する] または [すべての条件が一致する場合のみすべてのドキュメントを配信する] を選択します。
- 4 各ドキュメントの横にある [条件] 列で、パブリケーションを配信するために満たす必要がある条件を選択します。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 10.1.14.7 (オプション) Crystal レポートのグローバル配信ルールを設定する

グローバル配信ルールを設定するには、Crystal レポートにアラートが含まれている必要があります。

##### 注

このタスクはオプションであり、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

グローバル配信ルールでは、パブリケーションを処理してすべての受信者に配信するかどうかを決定します。グローバル配信ルールは、BI プラットフォームの任意の Crystal レポートで設定できます。

- 1 パブリケーションを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[配信ルール] をクリックします。
- 3 [グローバル配信ルール] で、[参照] をクリックします。  
グローバル配信ルールを設定する Crystal レポートを選択することができる [アラートを含むレポートを選択します] ウィンドウが表示されます。
- 4 Crystal レポートを見つけて選択し、[OK] をクリックします。
- 5 [条件] リストで、グローバル配信ルールを満たすためにレポートに必要なアラート値を選択します。
- 6 [スケジュール] をクリックします。

#### 10.1.14.8 (オプション) マージされた PDF ファイルの書式設定

##### 注

マージされた PDF ファイルの書式設定はオプションであり、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

マージされた PDF ファイルを書式設定する前に

- Crystal レポートをマージされた PDF ファイルに含めるには、レポートにタイトルが必要です。レポートにタイトルを設定するには、レポートを SAP Crystal Reports で開き、[ファイル] > [プロパティ] を選択し、[概要]



タブの [タイトル] ボックスにレポートのタイトルを入力します。レポートを保存し、リポジトリに再エクスポートします。

- ・ BI ラウンチパッドでは、[スケジュール] ダイアログボックスの [ソースドキュメント] に、マージする Crystal レポートおよび PDF ファイルが正しい順序で表示されている必要があります。
- ・ BI ラウンチパッドでは、[スケジュール] ダイアログボックスの [書式設定] で、マージされた PDF ファイルに含める Crystal レポートの形式として、各レポートに対し [PDF] チェックボックスが選択されている必要があります。
- ・ BI ラウンチパッドでは、[スケジュール] ダイアログボックスの [出力先] で、マージされた PDF ファイルを送信する各出力先に対し、[エクスポートされた PDF をマージ] チェックボックスが選択されている必要があります。

マージされた PDF ファイルの目次に Crystal レポートが確実に表示されるようにするには、リストされている各 Crystal レポートについて、[書式設定] 領域の [ドキュメント] リストでレポートを選択し、[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスを選択解除し、[グループツリーからブックマークを作成] チェックボックスを選択します。

#### 10.1.14.8.1 (オプション) 結合 PDF ファイルを書式設定する

##### 注

このタスクはオプションであり、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。
- 2 [プロパティ] ダイアログボックスで、[結合 PDF オプション] をクリックします。
- 3 結合 PDF ファイルの目次を作成します。
  - a [目次の作成] チェックボックスをオンにします。  
目次の書式設定オプションが表示されます。
  - b [タイトル] ボックスに、目次のタイトルを入力します。
  - c [タイトルのフォント] 一覧で、目次のタイトルのフォント、フォントサイズ (ポイント単位)、およびフォントの色を選択します。
  - d [アイテムのフォント] 一覧で、目次のアイテムのフォント、フォントサイズ (ポイント単位)、およびフォントの色を選択します。
- 4 結合 PDF ファイルのページ番号の書式設定を行います。
  - a [連続したページ番号を適用] チェックボックスをオンにします。  
ページ番号の書式設定オプションが表示されます。
  - b [数値の書式設定] ボックスにページ番号の書式を入力します。  
デフォルトでは、Page &p of &P が設定されています。この書式は変更できます。ただし、現在のページ番号のプレースホルダには &p、ページ総数のプレースホルダには &P を使用する必要があります。
  - c [数値の場所] 一覧で、結合 PDF ファイルのページ番号の向きを選択します。
  - d [数値のフォント] 一覧で、ページ番号のフォント、フォントサイズ (ポイント単位)、フォントの色を選択します。
  - e 目次にページ番号を含める場合は、[目次ページにページ番号を適用] チェックボックスをオンにします。
- 5 受信者のログオン認証情報と受信者アクションに関する許可を設定します。

- a [制限の設定] チェックボックスをオンにします。
  - b [ユーザパスワード] ボックスに、結合 PDF ファイルを受信者が表示する場合に必要なパスワードを入力します。
  - c [所有者パスワード] ボックスに、結合 PDF ファイルを受信者が編集する場合に必要なパスワードを入力します。
  - d 受信者が PDF ファイルを印刷できるようにするには、[印刷を許可] チェックボックスをオンにします。
  - e 受信者が PDF ファイルを変更できるようにするには、[コンテンツの変更を許可] チェックボックスをオンにします。
  - f 受信者が PDF のコンテンツをコピーおよび貼り付けできるようにするには、[コピーと貼り付けを許可 (埋め込まれた Flash オブジェクトの実行に必要)] チェックボックスをオンにします。
  - g 受信者が PDF ファイルの注釈を変更できるようにするには、[注釈の変更を許可] チェックボックスをオンにします。
- 6 [OK] をクリックします。

#### 10.1.14.9 (オプション) Crystal レポートのデータベースログオン情報を設定する

設定を開始する前に、Crystal レポートのデータベース設定が正しいことを確認してください。CMC の [フォルダ] で Crystal レポートを選択し、[管理] > [デフォルト設定] > [データベース設定] を選択し、データベース情報を確認するか、新しい情報を入力します。

##### 注

このタスクはオプションであり、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

場合によっては、Crystal レポートが内部的に参照するデータソース情報を修正する必要があります。SAP Crystal Reports で Crystal レポートを開き、[データベース] > [データソースの保存場所の設定] を選択します。[データソースの保存場所の設定] ダイアログボックスで、接続を選択するか、新しい接続を作成します。

このタスクでは、受信者がデータベースにログオンしたり、Crystal レポートのデータを最新表示したりする場合に必要なデータベースログオン情報を変更できます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。
- 2 [データベースログオン] をクリックします。
- 3 [タイトル] 一覧から Crystal レポートを選択します。  
Crystal レポートのデータベース情報が [タイトル] 一覧の下に表示されます。
- 4 [データベースサーバ] ボックスおよび [データベース] ボックスの情報が正しいことを確認します。
- 5 [ユーザ] ボックスに、受信者がログオンに使用するユーザ名を入力します。
- 6 [パスワード] ボックスに、受信者がログオンに使用するパスワードを入力します。
- 7 [OK] をクリックします。

## 10.1.15 Web Intelligence ドキュメントのデザインタスク

### 10.1.15.1 Web Intelligence ドキュメントのパブリケーション形式を指定する

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [形式] をクリックします。
- 3 [出力形式] で、以下の形式から Web Intelligence ドキュメントの出力形式のチェックボックスを選択します。
  - ・ Web Intelligence
  - ・ Microsoft Excel
  - ・ Adobe Acrobat
  - ・ mHTML
- 4 [カンマ区切り値 (CSV)] を選択した場合、[形式オプションと設定] で以下のアクションを実行します。
  - a [テキスト修飾子] リストで、テキスト修飾子を選択します。
  - b [列区切り文字] リストで、列区切り文字を選択します。
  - c [文字セット] リストで、文字セットを選択します。
  - d 新しい文字セットを入力する場合、[新しい文字セットの入力] チェックボックスを選択し、ボックスに文字セットを入力します。
  - e 指定した設定をデフォルトとして使用する場合、[デフォルト値として設定] チェックボックスを選択します。
  - f 各データソースに対してカンマ区切り値を生成する場合、[データプロバイダごとに個別の CSV を生成する] チェックボックスを選択します。
- 5 ドキュメントを公開する各形式に対し、手順 3 ～ 4 を繰り返します。
- 6 [OK] をクリックします。

パブリケーション内の各動的コンテンツソースドキュメントに対して、このタスクを繰り返します。

### 10.1.15.2 グローバルプロファイルターゲットを使用して Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする

- ・ Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。
- ・ このタスクを実行する前に、使用するプロファイルにグローバルプロファイルターゲットが含まれている必要があります。

グローバルプロファイルターゲットを絞り込むことにより、Enterprise 受信者向けの Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズできます。このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

#### ヒント

[グローバルプロファイル]の下でパーソナライゼーションオプションを設定する場合、[フィルタ]の下にあるパーソナライゼーションオプションを設定する必要はありません。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [パーソナライゼーション] をクリックします。
- 3 [グローバルプロファイル]の下にある [Enterprise 受信者のマッピング] 列で、リスト内のプロファイルを選択します。  
このプロファイルにより、ドキュメントが、Enterprise 受信者でフィルタリングされたユニバースフィールド (グローバルプロファイルターゲット) にマップされます。
- 4 [OK] をクリックします。

### 10.1.15.3 フィールドをフィルタリングして、Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする

Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。

#### 注

静的な値のプロファイルは、ソースドキュメントの文字列フィールドのみをフィルタできます。他の種類のフィールドをフィルタ処理する場合は、式のプロファイル値を使用します。不適切なタイプのフィールドをプロファイルにマップすると、パーソナライゼーションは失敗します。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [パーソナライゼーション] をクリックします。
- 3 [ローカルプロファイル]の下で、[タイトル] 列のプロファイルごとに、[レポートフィールド] 列を選択します。  
このプロファイルは、Enterprise 受信者向けにレポートフィールドをプロファイル値にマップします。

#### 注

このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

- 4 [ローカルプロファイル]の下にある [Enterprise 受信者のマッピング] 列で、リスト内のプロファイルを選択します。  
このプロファイルにより、ドキュメントが、Enterprise 受信者でフィルタリングされたユニバースフィールド (グローバルプロファイルターゲット) にマップされます。
- 5 [動的受信者のマッピング] 列で、リスト内のプロファイルを選択します。  
ソースドキュメント内のフィールドは、動的受信者ソース内の対応する値を含む列にマップされます。

- 6 フィルタリング対象の各フィールドに対し、手順 3 ～ 5 を繰り返します。
- 7 [OK] をクリックします。

#### 10.1.15.4 (オプション) Web Intelligence ドキュメントのプロンプト値を変更する

Web Intelligence ドキュメントのデフォルトプロンプト値を使用するか、このタスクを実行してプロンプト値を編集できます。

プロンプト値を変更する前に、ドキュメントにプロンプトが含まれている必要があります。

このタスクは、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

- 1 パブリケーションを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[追加オプション] を展開し、[プロンプト] をクリックします。  
プロンプトが含まれた Web Intelligence ドキュメントが表示されます。
- 3 [変更] をクリックします。  
[プロンプト] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [値の最新表示] をクリックします。  
左側に、指定可能なプロンプト値の一覧が表示されます。
- 5 プロンプト値を左側のリストから右側のリストに移動します。
- 6 [適用] をクリックします。  
プロンプト値の一覧が更新されます。

#### 10.1.16 オプションのパブリケーション機能

この節のタスクはオプション (パブリケーションのデザインおよびスケジュールの必須設定ではない) ですが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

##### 10.1.16.1 パブリケーション拡張を選択する

パブリケーション拡張を使用する前に、拡張機能が、Adaptive Processing Server が動作するコンピュータにデプロイされている必要があります。場所は、オペレーティングシステムによって変わります。

- ・ Windows の場合、場所は `INSTALLDIR\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\java\lib` です。

- ・ Unix の場合、場所は INSTALLDIR/sap\_bobj/enterprise\_xi40/java/lib/ です。

パブリケーション拡張が配布されたら、Adaptive Processing Server と、公開サービスをホストするその他のサーバを再起動する必要があります。パブリケーション拡張の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加オプション] を展開し、[パブリケーション拡張] をクリックします。
- 3 [パブリケーション拡張名] ボックスに、拡張の名前を入力します。
- 4 [クラス名] ボックスに、拡張の完全修飾クラス名を入力します。
- 5 (オプション) [パラメータ] ボックスに、パラメータ名を入力します。
- 6 処理後かつ配信前に拡張を使用するには、[パブリケーション配信前] リストの上部にある [追加] ボタンをクリックします。  
拡張が [パブリケーション配信前] リストに追加されます。
- 7 配信後に拡張を使用するには、[パブリケーション配信後] リストの上部にある [追加] ボタンをクリックします。  
拡張が [パブリケーション配信後] リストに追加されます。
- 8 [保存] をクリックします。
- 9 追加するすべての拡張に対し、それぞれ手順 2 ～ 8 を繰り返します。

#### ヒント

パブリケーション拡張の実行順序を指定するには、[パブリケーション配信前] リストまたは [パブリケーション配信後] リストの下にある [上へ移動] または [下へ移動] をクリックします。

### 10.1.16.2 パブリケーションジョブの電子メール通知を設定する

電子メール通知で Adaptive Job Server のデフォルト値を使用するには、このサーバが適切に設定されている必要があります。

パブリケーションジョブの実行後に電子メール通知を受信するには、次のタスクを実行します。

#### 注

この機能は CMC でのみ使用できます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [通知] をクリックして、[電子メール通知: 無効] を展開します。
- 3 成功したパブリケーションジョブの電子メール通知を受け取る場合は、[ジョブの実行の成功] を選択して、以下のアクションのいずれかを実行します。
  - ・ Adaptive Job Server のデフォルト値を使用する場合は、[Job Server のデフォルト値を使用する] をクリックします。

- ・ 電子メール設定を入力する場合は、[ここで使用する値を設定する] をクリックして以下を実行します。
  - a [差出人] ボックスに、電子メールアドレスまたは名前を入力します。
  - b [宛先] ボックスに、メッセージの送信先となる電子メールアドレスを入力します。
  - c [CC] ボックスに、電子メール通知を受信する各ユーザの電子メールアドレスを入力します。
  - d [件名] ボックスに、電子メールの件名を入力します。
  - e [メッセージ] ボックスに、電子メール通知に添付するメッセージを入力します。
- 4 失敗したパブリケーションジョブの電子メール通知を受け取る場合は、[ジョブの実行の失敗] を選択して、以下のアクションのいずれかを実行します。
  - ・ Adaptive Job Server のデフォルト値を使用する場合は、[Job Server のデフォルト値を使用する] をクリックします。
  - ・ 電子メール設定を入力する場合は、[ここで使用する値を設定する] をクリックして以下を実行します。
    - ・ [差出人] ボックスに、電子メールアドレスまたは名前を入力します。
    - ・ [宛先] ボックスに、メッセージの送信先となる電子メールアドレスを入力します。
    - ・ [CC] ボックスに、電子メール通知を受信する各ユーザの電子メールアドレスを入力します。
    - ・ [件名] ボックスに、電子メールの件名を入力します。
    - ・ [メッセージ] ボックスに、電子メール通知に添付するメッセージを入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

### 10.1.16.3 パブリケーションジョブ用の監査通知を有効化する

監査の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

#### 注

この機能は CMC でのみ使用できます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加オプション] を展開し、[通知] をクリックして [監査通知: 無効] を展開します。
- 3 成功したパブリケーションジョブを監査する場合は、[ジョブの実行の成功] を選択します。
- 4 失敗したパブリケーションジョブを監査する場合は、[ジョブの実行の失敗] を選択します。

### 10.1.16.4 イベントを指定する

イベントベースのスケジュールでは、パブリケーションのスケジュールに対して追加制御を行うことができます。イベント発生後にはのみパブリケーションが処理されるように、イベントを設定できます。



イベント発生後にパブリケーションジョブを実行する場合、または、イベントが停止したときにパブリケーションジョブがイベントを起動する場合、このタスクを実行します。イベントの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド』を参照してください。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加オプション] を展開し、[イベント] をクリックします。
- 3 パブリケーションにファイルベースのカスタムイベントを指定するには、[>] ボタンをクリックしてイベントを [利用可能なイベント] リストから [待機するイベント] リストに移動します。  
イベントにより、パブリケーションジョブが起動されます。
- 4 パブリケーションにスケジュールイベントを指定するには、[>] ボタンをクリックしてイベントを [利用可能なスケジュールイベント] リストから [完了時に発生させるイベント] リストに移動します。  
パブリケーションジョブが実行されるとイベントが発生します。
- 5 [OK] をクリックします。

#### 10.1.16.5 サーバグループを選択する

このタスクは、特定のサーバを使用してパブリケーションを処理する場合に実行します。サーバグループの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

##### 注

フェデレーションのサイトをまたいでパブリケーションをスケジュールすることはできません。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加オプション] を展開し、[スケジュールリングサーバグループ] をクリックします。
- 3 サーバグループオプションを選択します。
- 4 元のサイトでパブリケーションジョブを実行する場合、[元のサイトで実行] チェックボックスを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

#### 10.1.16.6 プロファイルの解決方法を指定する

プロファイルの競合が発生した場合、プロファイルの解決方法により、インスタンスを結合するか別々のドキュメントとして配信するかが決定されます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加オプション] を展開し、[詳細設定] をクリックします。



- 3 [プロファイルの解決方法] の下で、以下のようにオプションを選択します。
  - ・ 複数のユーザグループのプロファイルを別々のドキュメントに適用する場合、[マージしない]を選択します。
  - ・ 複数のユーザグループのプロファイルを同じドキュメントに適用する場合、[マージ]を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

#### 10.1.16.7 レポートバースト方法を選択する

パブリケーションが以下の条件に当てはまる場合は、レポートバースト方法を慎重に選択してください。

- ・ パブリケーションには Enterprise 受信者向けの Web Intelligence ドキュメントが含まれます。
- ・ パーソナライゼーションに使用されるプロファイルには、フィルタ式があります。

レポートバーストの方法により、ソースドキュメントのパーソナライゼーション、処理、および配信方法が決定されます。レポートバースト方法には、ドキュメントのパーソナライゼーションと処理の際に異なるフィルタタイプが使用されます。たとえば、[すべての受信者のデータベースフェッチ] オプションではレポートフィルタが使用され、[受信者ごとのデータベースフェッチ] オプションではクエリフィルタが使用されます。各フィルタタイプは、異なる演算子のセットをサポートします。レポートバースト方法でサポートされない演算子をフィルタ式が使用する場合は、パブリケーションに失敗することがあります。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加オプション] を展開し、[詳細設定] をクリックします。
- 3 [レポートバースト方法] の下で、レポートバースト方法を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

## 10.2 パブリケーションのデザイン後のタスク

この節で説明するタスクはオプションであり、パブリケーションデザインの後に実行することができます。

### 10.2.1 パブリケーションの最終処理

パブリケーションデザインプロセスの途中または後の任意の時点で、[概要]ダイアログボックスでパブリケーションのプロパティの概要を確認できます。プロパティには、パブリケーションのタイトル、場所、説明、ソースドキュメント、そのパブリケーションを受信する受信者数(受信者タイプ (Enterprise または動的) によって並べ替え)、パブリケーションのパーソナライズ方法、配布形式および出力先などが含まれます。

[概要] ダイアログボックスを開くには、[概要] をクリックします。ナビゲーションパネルの他のオプションを使用してプロパティを変更したり、パブリケーションの保存およびスケジュールを実行することができます。

## 10.2.2 パブリケーションをテストする

BI ラウンチパッドのテストモードを使用し、受信者にパブリケーションを送信する前に自分自身に送信することができます。テストでは、受信者と同じ情報を受信できます。パブリケーション受信者の BI 受信ボックスまたは電子メールアドレスの代わりに、ユーザの BI 受信ボックスまたは電子メールアドレスが使用されるよう、出力先は自動的に更新されます。

必要に応じて、テストモードでは、元の受信者グループから選択した受信者を除外できます。

- 1 パブリケーションを右クリックし、[テストモード] を選択します。
- 2 (オプション) [テストモード] ダイアログボックスで、Enterprise 受信者の一覧を編集します。
  - a [Enterprise 受信者] をクリックします。
  - b [利用可能] の下でユーザまたはユーザグループを選択し、[>] ボタンをクリックしてユーザまたはユーザグループを [選択] リストまたは [除外する] リストに移動します。
- 3 (オプション) 動的受信者のリストを編集するには以下の手順に従います。
  - a [動的受信者] をクリックします。
  - b [動的受信者のソースの選択] の下で、[Web Intelligence レポート動的受信者プロバイダ] または [Crystal Reports 動的受信者データプロバイダ] を選択します。
- 4 [テスト] をクリックします。

テストモードでパブリケーションが実行されます。

## 10.2.3 パブリケーションを購読または購読解除する

適切なアクセス権を持つ Enterprise 受信者は、パブリケーションまたはパブリケーションインスタンスの購読または購読解除を実行できます。たとえば、パブリケーションが週 2 回実行されるようスケジュールされている場合、受信者は最初のパブリケーションインスタンスを購読し、2 回目のインスタンスは購読しないよう指定できます。

### 注

動的受信者は、パブリケーションインスタンスの購読または購読解除ができません。

- 1 [ドキュメント] タブの [フォルダ] ドロワで、購読または購読解除するパブリケーションを探して選択します。
- 2 次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ セントラル管理コンソール (CMC) で、[アクション] > [購読] をクリックするか [購読解除] を選択します。
  - ・ BI ラウンチパッドで、パブリケーションを右クリックし、[購読] または [購読解除] を選択します。

**ヒント**

パブリケーションインスタンスの購読または購読解除を行うには、パブリケーションを選択して CMC で [アクション] > [履歴] を選択するか、BI ラウンチパッドでパブリケーションを右クリックし [履歴] を選択します。[履歴] ダイアログボックスで、インスタンスを選択し、購読または購読解除します。

## 10.2.4 パブリケーションの実行をスケジュールする

パブリケーションの実行をスケジュールする前に、パブリケーションを設計して保存する必要があります。

パブリケーションのスケジュール時に、[定期] の下にある設定を使用するか、新しい設定を入力できます。パブリケーションのスケジュールごとに、受信者を変更できます。

- 1 パブリケーションを右クリックし、CMC で [アクション] > [スケジュール] を選択するか、BI ラウンチパッドで [スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[定期] をクリックし、[オブジェクトの実行] リスト内で選択されているオプションが正しいことを確認します。
- 3 [スケジュール] をクリックします。  
指定したとおりにパブリケーションが実行されます。

**ヒント**

パブリケーションの実行中に進捗を表示するには、ジョブを右クリックし、CMC で [アクション] > [履歴] をクリックするか、BI ラウンチパッドで [履歴] を選択します。[ステータス] 列で、ステータス ([成功]、[失敗]、[実行中]) をクリックし、[パブリケーションの履歴] ダイアログボックスの下にある [ログファイルの表示] をクリックします。

## 10.2.5 パブリケーションの結果を表示する

**公開者による結果の表示**

パブリケーションの結果はさまざまな方法で表示できます。パブリケーション実行後、パブリケーション履歴が表示され、パブリケーションインスタンス、パブリケーションの実行日時、およびパブリケーションが成功したか失敗したかが一覧表示されます。[インスタンスの日時] 列で、パブリケーションインスタンスへのリンクをクリックし、パブリケーション実行時にすべての受信者に対して生成されたインスタンスを表示できます。

**ヒント**

パブリケーション履歴に素早くアクセスするには、パブリケーションを右クリックし、CMC で [アクション] > [履歴] を選択するか、BI ラウンチパッドで [その他のアクション] > [履歴] を選択します。

**パブリケーションジョブ用のログファイルの表示**

ログファイルは、パブリケーションの問題解決や、パブリケーションインスタンスを受信しなかった受信者を識別するのに役立ちます。BI プラットフォームでは、パーソナライズされたパブリケーションインスタンスの各バッチが処理されると、パブリケーションジョブの情報をログに記録し、詳細を 1 つまたは複数のログファイルにまとめます。ログファイルの最大サイズは 10 MB で、この値は変更できません。多数の詳細を含む大容量のパブリケーションを実行している場合、パブリケーションインスタンスのログファイルが複数になる場合があります。

パブリケーションインスタンスのログファイルは、[履歴] ダイアログボックスで以下の手順に従って表示できます。

- ・ 一連の中で最後のログファイルを表示するには、[ステータス] 列で、ステータス ([成功]、[失敗]、[実行中]) をクリックし、[インスタンスの詳細] ダイアログボックスの下にある [ログファイルの表示] をクリックします。

#### ヒント

パブリケーション実行中に、最後のログファイルを表示できます。

- ・ すべてのログファイルを表示するには、[インスタンスの日時] 列で、パブリケーションインスタンスに対するリンクをクリックします。パーソナライズされたインスタンスの後にログファイルがリストされます。

ログファイルは、2 分おきに新しい情報で更新されます。パブリケーションジョブが 2 分未満しか実行されなかった場合、ログファイルのステータスは [待機] になります。

#### 受信者による結果の表示

以下の表は、パブリケーションの表示方法をまとめたものです。

出力先	パブリケーション結果の表示方法
デフォルトの Enterprise の場所	<p><b>注</b> 動的受信者が BI プラットフォームにログオンしてパブリケーション結果を表示することはできません。</p> <p>受信者は、自身のパーソナライズ済みパブリケーションインスタンスのみを BI プラットフォームで表示できます。他の受信者向けにパーソナライズされたパブリケーションインスタンスは表示できません。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>以下のアクションのいずれかを実行し、CMC を起動します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows では、[スタート] &gt; [プログラム] &gt; [SAP Business Intelligence] &gt; [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] &gt; [SAP BusinessObjects BI プラットフォームセントラル管理コンソール] を選択します。</li> <li>Web ブラウザに「http://&lt;サーバ名&gt;:&lt;接続ポート&gt;/CMC」と入力します。</li> </ul> <p>&lt;サーバ名&gt; を使用している CMS 名に変更し、&lt;接続ポート&gt; を (インストール中に指定した) 使用している接続ポート番号に変更します。デフォルトの接続ポート番号は 8080 です。</p> </li> <li>ログオン認証情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[システム] ボックスで、CMS 名と CMS ポートが正しいことを確認します。</li> <li>ユーザ名とパスワードを入力します。</li> <li>[認証] リストで、認証の種類を選択します。</li> </ul> </li> <li>[ログオン] をクリックします。</li> <li>[フォルダ] の下で、パブリケーションを右クリックし [履歴] を選択します。</li> <li>[履歴] ダイアログボックスで、[インスタンスの日時] 列のリンクをクリックします。</li> <li>表示するインスタンスをダブルクリックします。</li> </ol>

出力先	パブリケーション結果の表示方法
BI 受信ボックス	<p><b>注</b> 動的受信者が BI ラウンチパッドにログオンしてパブリケーション結果を表示することはできません。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>以下のアクションのいずれかを実行し、BI ラウンチパッドを起動します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows では、[スタート] &gt; [プログラム] &gt; [SAP Business Intelligence] &gt; [ SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] &gt; [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム Java BI ラウンチパッド] を選択します。</li> <li>Web ブラウザに「http://&lt;ServerName&gt;:&lt;ConnectionPort&gt;/BOE/BI」と入力します。</li> </ul> <p>&lt;サーバ名&gt; を使用している CMS 名に変更し、&lt;接続ポート&gt; を (インストール中に指定した) 使用している接続ポート番号に変更します。デフォルトの接続ポート番号は 8080 です。</p> </li> <li>ログオン認証情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[システム] ボックスで、CMS 名が正しいことを確認します。</li> <li>ユーザ名とパスワードを入力します。</li> <li>[認証] リストで、認証の種類を選択します。</li> </ul> </li> <li>[ログオン] をクリックします。</li> <li>[マイ受信ボックス] をクリックします。</li> <li>表示するインスタンスをダブルクリックします。</li> </ol>
電子メール	電子メールにログオンし、埋め込まれたパブリケーションコンテンツを表示するか、添付ファイルをダウンロードします。
FTP サーバ	FTP ホストにログオンします。
ローカルディスク	パブリケーションのデザイン時に指定された場所に移動します。

## 10.2.6 パブリケーションインスタンスを再配布する

受信者にインスタンスを再送信したいがパブリケーション全体を再実行したくない場合、成功したパブリケーションインスタンスを最初の受信者全員または受信者の一部に再配布できます。最初のパブリケーション実行時に指定された受信者のみが、再配布されたインスタンスを受信できます。

- 1 パブリケーションを右クリックし、CMC で [アクション] > [履歴] を選択するか、BI ラウンチパッドで [履歴] を選択します。  
[履歴] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 成功したパブリケーションインスタンスを選択します。
- 3 以下のアクションのいずれかを実行します。
  - ・ BI ラウンチパッドで、[その他のアクション] > [再スケジュール] を選択します。
  - ・ CMC で、[アクション] > [再スケジュール] を選択します。
- 4 再配布されるインスタンスを受信する受信者を選択します。
  - ・ インスタンスを Enterprise の受信者に再配布するには、[Enterprise 受信者] をクリックし、[>] ボタンをクリックして受信者を [利用可能] リストから [選択] リストに移動します。
  - ・ インスタンスを動的受信者に再配布する
    - a [動的受信者] をクリックし、受信者 ID、フルネーム、および電子メールアドレスにマップされている列が正しいことを確認します。
    - b パブリケーションをすべての動的受信者に再配布するには、[完全リストの使用] を選択します。
    - c パブリケーションを選択された動的受信者に再配布するには、[>] ボタンをクリックして受信者を [利用可能] リストから [選択] リストに移動します。
- 5 [再配布] をクリックします。  
パブリケーション履歴が表示され、再配布されたインスタンスのステータスが [実行中] となっています。[インスタンスの日時] 列の日付は、再配布の日時に合わせて更新されます。

## 10.2.7 失敗したパブリケーションを再試行する

このタスクを開始する前に、失敗したパブリケーションインスタンスのログファイルを確認し、エラーを修正し、パブリケーションを再スケジュールします。

- 1 失敗したパブリケーションインスタンスを選択します。
- 2 以下のアクションのいずれかを実行します。
  - ・ BI ラウンチパッドで、[その他のアクション] > [履歴] を選択します。
  - ・ セントラル管理コンソール (CMC) で、[アクション] > [履歴] を選択します。インスタンスのステータスが [実行中] になります。

パブリケーションが再び失敗した場合は、新しいログファイルを確認し、発生したエラーを修正してください。

### 10.3 パブリケーションパフォーマンスの向上

#### Adaptive Processing Server

領域	考慮点
CPU およびメモリ	使用可能な CPU が多く、BI プラットフォーム Feature Pack 3 以降がインストールされているより高速なマシンに Adaptive Processing Server を移行します。Adaptive Processing Server は使用できる CPU 数に合わせて自動調整されます。
	専用の Adaptive Processing Server で公開サービスおよびパブリケーションポスト処理サービスを分離し、これらのサーバにホストされている使用されていないサービスを削除します。各サービスは、Adaptive Processing Server 上で多くの共有リソース（スレッドプールへのリクエスト、メモリ、および CPU）を消費するため、公開パフォーマンスが改善される場合があります。

#### 公開サービス

公開はハードドライブに負荷をかけるプロセスであるため、公開サービスは入出力性能の高いマシン、または FRS 用に SAN ディスクを使用するマシンにインストールする必要があります。

領域	考慮点
同時に実行される多数のパブリケーションインスタンス	<p>基礎をなす CMS、FRS、Adaptive Job Server、およびレポート処理サーバが適切に調整されている場合は、公開サービスを 1 つ以上のマシンの複数の Adaptive Processing Server に水平的に拡張することで、より多くのパブリケーションインスタンスを同時に処理できます。</p> <p><b>注</b> 単一のパブリケーションジョブ（たとえば、受信者が 100 万人）は、複数の Adaptive Processing Server でホストされている公開サービス間で共有されません。公開サービスの水平的な拡張では、受信者数にかかわらず、単一のパブリケーションの処理時間は短縮されません。</p>



領域	考慮点
受信者の多いパブリケーション	<p>CPU および RAM がより多いマシン上で Adaptive Processing Server を垂直的に拡張することで、より多くの受信者を同時に処理し、Adaptive Processing Server でより多くのジョブを生成することができます。</p> <p><b>注</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Adaptive Job Server およびレポート処理サーバも、スループット拡大のために適宜調整が必要になる場合があります。</li> <li>CPU コアが 9 個以上あるマシンで Adaptive Processing Server を実行する場合は、Adaptive Processing Server のヒープサイズを拡大 (-Xmx を 2 GB 以上に設定) にすることが適切です。CPU コア数が増えると、Adaptive Processing Server でより多くのスレッドを生成でき、スループットが増大します。ただし、スレッド数の増加に応じて RAM 容量も増大させる必要があります。</li> </ul>
公開クリーンアップオプション	再配信の必要のない大規模なパブリケーションのため、またはレポートでアーティファクトを表示する場合は、デフォルトの出力先を選択しないでください。
Crystal レポートパブリケーション	各受信者に固有のセキュリティを適用する必要がない場合は、[受信者のバッチごとのデータベースフェッチ]を選択します。データベースアクセスが複数の小規模な同時クエリにバッチ化されます。
Web Intelligence パブリケーション	<p>[すべての受信者のデータベースフェッチ] または [受信者ごとのデータベースフェッチ] を選択します。</p> <p>大規模なパブリケーションで [すべての受信者のデータベースフェッチ] を選択した場合は、データベースクエリを複数の小規模なクエリに分割するために、公開サービスをホストするすべての Adaptive Processing Server へのディスクデリバリを加速する以下のコマンドラインオプションを追加します。</p> <pre>-Dcom.businessobjects.publisher.scopebatch.max.recipients=&lt;integer&gt;</pre>
Windows の単一フォルダへのディスクデリバリに時間がかかる大規模なパブリケーション	Microsoft TechNet ( <a href="http://technet.microsoft.com">http://technet.microsoft.com</a> ) で、『自動の短いファイル名の生成を無効にする方法』(文書番号: 210638) または『NtfsDisable8dot3NameCreation』を検索して、その説明に従います。

領域	考慮点
ファイル数が 300,000 を超える Windows の単一フォルダへのディスクデリバリーに時間がかかる大規模なパブリケーション	<a href="http://technet.microsoft.com">http://technet.microsoft.com</a> で、『how NTFS works 』を検索して、その説明に従います。

#### パブリッシングポスト処理サービス

[ZIP ファイルとしてパッケージ化する] チェックボックス ([スケジュール] ダイアログボックス)、および/または [エクスポートされた PDF をマージ] チェックボックス ([出力先] ダイアログボックス) を選択するか、パブリケーションでカスタムポスト処理プラグインを有効化すると、パブリッシングポスト処理サービスが呼び出されます。

領域	考慮点
[ZIP ファイルとしてパッケージ化する] および [エクスポートされた PDF をマージ] の両方が選択されているパブリケーション	パブリッシングポスト処理サービスを水平的に拡張すると、ZIP および PDF をマージするワークロードが、複数の Adaptive Processing Server にホストされる複数のパブリッシングポスト処理サービス全体に分散されます。

### 10.3.1 ソースドキュメントの追加に関する推奨事項

この節では、パブリケーションに動的コンテンツドキュメントを追加する際の推奨事項について説明します。

#### パブリケーションログファイルを使用して、失敗したパブリケーションをトラブルシューティングする

パブリケーションの実行をスケジュールすると、ログファイルが生成され、パブリケーションの実行時に発生したエラーが記録されます。パブリケーションインスタンスのログファイルをすべて表示するには、[その他のアクション] > [履歴] を選択します。[履歴] ダイアログボックスで、[インスタンスの日時] 列にあるインスタンスのリンクをクリックします。インスタンスの詳細が新しいウィンドウで開きます。

Crystal レポートでパラメータを使用したパーソナライゼーションを使用する場合は、パラメータをデフォルトに設定する

パラメータベースのパーソナライゼーションを実行すると、パブリケーションのパフォーマンスが低下する場合があります。Enterprise 受信者のプロファイルまたは動的受信者のパーソナライゼーション値にフィールドをマップして、Crystal レポートのパブリケーションをパーソナライズすると、処理速度が大幅に改善します。

パラメータを使用して Crystal レポートをパーソナライズする必要がある場合は、[パーソナライゼーション] セクションのパラメータをデフォルト値に設定します。

**注**

パブリケーションで Enterprise 受信者のプロフィールを使用するには、BI プラットフォームでプロフィールを設定する必要があります。

個々の動的コンテンツドキュメントをパブリケーションに追加する前に、それらを表示してスケジュールする動的コンテンツドキュメントを正しく表示およびスケジュールできた場合は、データソース接続が正しく機能し、パブリケーションをスケジュールするときにソースドキュメントデータを最新表示できます。動的コンテンツドキュメントを正しく表示およびスケジュールできない場合は、データソース接続の設定が間違っていないか確認してください。設定の確認方法を次の表に示します。

ドキュメントの種類	データソース接続の設定の確認方法
Crystal レポート	CMC で Crystal レポートを選択し、[管理] > [デフォルト設定] を選択します。[デフォルト設定] ダイアログボックスで、ナビゲーションパネルの [データベース設定] をクリックします。
Web Intelligence ドキュメント	CMC で Web Intelligence ドキュメントを選択し、[管理] > [デフォルト設定] を選択します。[デフォルト設定] ダイアログボックスで、ナビゲーションパネルの [レポートユニバース] をクリックします。

場合によっては、デザイナーで動的コンテンツドキュメントを開いてデータベースソース接続を設定し、CMS リポジトリにファイルを再エクスポートして、前のコピーを上書きする必要がある場合があります。動的コンテンツドキュメントのデータソース接続の設定については、デザイナーのマニュアルを参照してください。

**不必要なデータの最新表示をしない**

動的コンテンツドキュメントのデータを最新表示する必要がない場合は、[ソースドキュメント] セクションで、そのドキュメントの [実行時に最新表示] チェックボックスをオフにすると、パブリケーションの全体的なパフォーマンスが向上します。

**10.3.2 動的受信者ソースの使用に関する推奨事項**

動的受信者ソースは受信者 ID 列に従って並べ替える。

一般に、動的受信者ソースは [受信者 ID] 列に従って並べ替える必要があります。特に、高ボリュームのパブリケーションを実行している場合、または [受信者のバッチごとのデータベースフェッチ] を選択している場合は、複数のパーソナライゼーション値を持つ受信者への配信数を低減できるため、この並べ替えは重要です。

Crystal レポートの動的受信者ソースの場合は、データベースの設定情報が正しいことを確認する。

CMC で動的受信者ソースを選択し、[管理] > [デフォルト設定] を選択し、次の設定を確認します。

- ・ [データベース設定] で、データベースログオン情報が正しく設定されており、[レポート実行時と同じデータベースログオン情報を使用する] が選択されている。

- ・ [パラメータ] で、すべてのパラメータに値が指定されており、パラメータのすべての [表示時にプロンプトを表示] チェックボックスがオフになっている。

Crystal レポートの動的受信者ソースを使用する場合は、RAS が正しく設定されていることを管理者に確認する。

RAS (Report Application Server) は、少なくとも動的受信者ソースの受信者と同数のデータベースレコードを読み込むよう設定する必要があります。たとえば、100,000 人の受信者のデータを持つ動的受信者ソースを処理するには、100,000 件以上のデータベースレコードを読み込むよう RAS を設定する必要があります。

### 10.3.3 電子メールのパブリケーションインスタンスの送受信に関する推奨事項

可能であれば、電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを Outlook 2003 で表示する。

可能であれば、電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを Outlook 2003 で表示する。電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを Outlook 2007 や、Hotmail、Gmail などの Web 電子メールアカウントで表示すると、形式上の問題が発生する場合があります。

Destination Job Server で電子メールが正しく設定されているか管理者に確認する。

Destination Job Server で電子メールが正しく設定されていることを確認する必要があります。電子メールで送信するパブリケーションは、Adaptive Job Server の出力先が正しく設定されていないことが原因で失敗する場合があります。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

## アラートの使用

### 11.1 アラート

アラートは BI プラットフォーム内の複数のアプリケーションを対象とする機能です。アラートを使用し、例外に基づいてオブジェクトとイベントを管理することができます。アラートは、変更についてユーザに通知したり、イベントがトリガされたときにユーザおよび管理者に通知する機能です。

#### 例 アラートおよび Crystal レポート

たとえば、Julie は自動車保険会社で働いており、Crystal レポートを使用して提出された保険金請求を監視しています。Julie は日単位の保険金請求数アラートを購読しており、アラート通知を電子メールで受け取ることを選択しました。1 週間後、自動車保険の保険金請求数が 10,000 件に達し、アラートの条件が満たされて、イベントがトリガされました。Julie は電子メール通知を受け取り、自動車保険の保険金請求数が大幅に増加していることに気がきます。Julie はマネージャに通知し、安全運転を呼びかけるキャンペーンの開始を推奨します。

#### アラートの購読

BI プラットフォームでは、ユーザおよび管理者は、BI ラUNCHパッドまたはセントラル管理コンソール (CMC) でアラートを購読できます。

#### アラートの有効化

レポート作成者は、新しいレポートを作成したときにアラートを有効化します。イベントがトリガされると、通知が購読者の電子メールアドレスまたは BI システム出力先 (BI ラUNCHパッドアカウントなど) に送信されます。

#### アラート通知の表示

BI プラットフォームでは、ユーザおよび管理者は BI ラUNCHパッドまたは電子メールで通知を表示します。

アラートのタイトル、メッセージ、トリガ時刻などのアラート情報を表示するには、アラートを右クリックして、[その他を表示] を選択します。

#### アラートの管理

コンテンツ管理者とパワーユーザは、BI ラUNCHパッドまたは CMC でアラートを管理します。

システム管理者は、CMC でアラートを管理し、アクセス権限を割り当ててユーザアクセスを制御します。

### 11.1.1 アラートソース

アラートをサポートするオブジェクト	説明
Crystal レポート	<p>Crystal レポートには、複数のアラートを含めることができます。アラートを含むレポートをリポジトリに追加すると、BI プラットフォームはレポートの各アラートに対応するイベントオブジェクトを自動的に作成します。イベントオブジェクトは、CMC の [イベント] の下の [Crystal Reports のイベント] フォルダに入っています。[コンテンツ検索] を使用してアラートを検索できます。</p> <p><b>注</b> BI プラットフォームで作成されたレポートのみがアラートをサポートし、レポートが追加された場合にユーザがアラート通知を購読することができます。購読するには、レポートを見つけ、レポートオブジェクトで購読タスクを実行します。</p>
イベント (ファイルベース、スケジュールベース、カスタム)	任意のイベントに対して、アラートを有効化することができます。

モニタリングでは、アラートを使用して、BI プラットフォームの全体的な状態の変化をシステム管理者に通知します。モニタリングプローブに基づくアラートは、CMC の [イベント] の下の [監視イベント] フォルダに入っています。モニタリングの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

Information Steward および Event Insight などのアプリケーションで作成されたオブジェクトにも、アラートが使用されます。詳細については、アプリケーションのドキュメントを参照してください。

### 11.1.2 アラートと Crystal レポートアラート通知の相違点

旧バージョンの BI プラットフォームでは、レポートのスケジュール時に Crystal レポートのアラート通知を設定することができました。BI プラットフォームは、SAP Crystal Reports で作成されたレポートについては、この機能を引き続きサポートします。

主な相違点	Crystal レポートにおけるアラート通知	BI ラウンチパッドにおけるアラート
サポートされるオブジェクト	Crystal Reports で作成されたレポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>Crystal Reports のみで作成されたレポート</li> <li>イベント</li> <li>モニタリングプローブ</li> <li>Information Steward アラート</li> <li>Event Insight アラート</li> </ul>
サポートされる送信先	電子メール	<ul style="list-style-type: none"> <li>BI 起動パッドの [マイアラート]</li> <li>電子メール</li> </ul>
用法	<p>アラートは Crystal レポートをスケジュールするときに設定します。</p> <p>受信者には Enterprise ユーザまたは動的ユーザを指定することができます。すべての受信者の電子メールアドレスを手動で入力する必要があります。</p>	<p>アラートソースからのアラート通知を購読し、必要に応じて購読を変更することができます。</p> <p>受信者には Enterprise ユーザまたは動的ユーザを指定することができます。動的受信者の場合は、電子メールアドレスを手動で入力する必要があります。</p>

### 11.1.3 アラートワークフロー

#### Crystal レポートのアラートワークフロー[crystalレポートノアラートワークフロー]

- 1 レポート作成者が、SAP Crystal Reports for Enterprise においてアラートを含むレポートを作成します。
- 2 レポート作成者またはコンテンツ管理者が、CMC の [フォルダ] または [個人用フォルダ] エリアのフォルダに Crystal レポートを追加します。レポートが追加されると、BI プラットフォームにより、レポートのアラートに基づいてレポートイベントオブジェクトが自動的に作成されます。
- 3 ユーザが CMC または BI ラウンチパッドにログオンし、Crystal レポートを検索して、アラートを購読します。
- 4 レポート作成者またはコンテンツ管理者が、Crystal レポートの実行をスケジュールします。

アラート条件が満たされた場合、アラートがトリガされ、購読設定に基づいてユーザに通知が送信されます。

#### イベントのアラートワークフロー

- 1 コンテンツ管理者が CMC でイベントを作成し、新規イベントに対してアラートを有効化します。
- 2 ユーザが CMC の [イベント] エリアでアラートを確認するか、BI ラウンチパッドでアラートを検索して、アラートを購読します。
- 3 イベントが発生し、アラートがトリガされます。

- 4 イベントが発生したことを示す通知が、購読設定に基づいてユーザに送信されます。

### 11.1.4 アラートに必要なアクセス権

アラートワークフローにおけるロールと責任によって、必要なアクセス権が異なる可能性があります。

表 11-2: ドキュメントアラート権限

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	ドキュメントアラートの購読	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメントに対する [表示] 権限</li> <li>対応するイベントに対する [表示] 権限</li> <li>ユーザ自身のアカウントに対する [購読] 権限</li> <li>(アラート通知に含まれるドキュメントリンクを使用してインスタンスを表示する場合) ドキュメントに対する [インスタンスの表示] 権限</li> </ul>
ユーザ	ドキュメントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> <li>対応するイベントに対する [表示] 権限</li> <li>ユーザ自身のアカウントに対する [購読] 権限</li> </ul>
ユーザ	ドキュメントアラートに関する通知の受信	<ul style="list-style-type: none"> <li>対応するイベントに対する [表示] 権限</li> <li>ドキュメントに対する [表示] 権限</li> </ul>
コンテンツ管理者	ドキュメントアラートの送信先およびパラメータ設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメントに対する [編集] 権限</li> <li>イベントに対する [編集] 権限</li> </ul>
コンテンツ管理者	ドキュメントのアラート設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメントに対する [表示] 権限、および [編集] 権限</li> <li>対応するイベントに対する [表示] 権限、および [編集] 権限</li> <li>購読者として追加するユーザまたはグループに対する [表示] 権限、および [購読] 権限</li> </ul> <p><b>注</b> 購読者のリストにユーザグループを追加する場合は、ユーザグループオブジェクトに対する [表示] 権限、および [購読] 権限が必要です。グループ内の個別ユーザに対する [表示] 権限、および [購読] 権限では不十分です。</p>



ロール	タスク	必要な権限
コンテンツ管理者	ユーザのドキュメントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメントに対する [表示] 権限</li> <li>対応するイベントに対する [表示] 権限</li> <li>ユーザに対する [表示] 権限、および [購読] 権限</li> </ul>
コンテンツ管理者	ドキュメントアラートのトリガ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメントに対する [表示] 権限、および [スケジュール] 権限</li> <li>対応するイベントに対する [表示] 権限、および [呼び出し] 権限</li> </ul>

表 11-3: イベントアラート権限

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	イベントアラートの購読	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントに対する [表示] 権限</li> <li>ユーザ自身のアカウントに対する [購読] 権限。デフォルトで、各ユーザは自分のアカウントに対する [購読] 権限が付与されています。</li> </ul>
ユーザ	イベントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントに対する [表示] 権限</li> <li>ユーザ自身のアカウントに対する [購読] 権限。デフォルトで、各ユーザは自分のアカウントに対する [購読] 権限が付与されています。</li> </ul>
コンテンツ管理者	イベントのアラート設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントに対する [表示] 権限、および [編集] 権限</li> <li>購読者として追加するユーザまたはグループに対する [表示] 権限、および [購読] 権限</li> </ul> <p><b>注</b> 購読者のリストにユーザグループを追加する場合は、ユーザグループオブジェクトに対する [表示] 権限、および [購読] 権限が必要です。グループ内の個別ユーザに対する [表示] 権限、および [購読] 権限では不十分です。</p>
コンテンツ管理者	イベントのトリガ	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントに対する [表示] 権限、および [呼び出し] 権限</li> </ul>

表 11-4: アラート通知権限

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	アラート通知の受信	・ 対応するイベントに対する [表示] 権限
ユーザ	アラート通知の既読または未読への設定	・ アラート通知に対する [表示] 権限 ・ ユーザアカウントに対する [購読] 権限
ユーザ	アラート通知の再読	・ アラート通知に対する [表示] 権限
ユーザ	BI 起動パッドにおけるアラート通知の削除	・ アラート通知に対する [表示] 権限 ・ ユーザアカウントに対する [購読] 権限

### 11.1.5 BI 起動パッドにおけるアラートソースオブジェクトの検索

アラートソースは、オブジェクトタイプによって表示方法が異なります。次の表は、アラートソースの格納場所をまとめたものです。

オブジェクトタイプ (アラートソース)	オブジェクトの検索方法
Crystal レポート	<p>Crystal レポートは、個人用フォルダまたはパブリックフォルダに格納されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人用フォルダにある Crystal レポートを表示するには、[ドキュメント] タブの [マイドキュメント] ドロウをクリックし、[お気に入り] ノードをクリックします。Crystal レポートが表示されます。</li> <li>パブリックフォルダにある Crystal レポートを表示するには、[ドキュメント] タブの [フォルダの参照] ドロウをクリックし、レポートを含むフォルダを見つけます。</li> </ul>
イベント (ファイルベース、スケジュールベース、カスタム)	アラートが有効になっているイベントの名前を検索します。

### ヒント

アラートを購読すると、すばやく表示することができます。[ドキュメント] タブで [マイドキュメント] ドロワを展開し、[購読済みアラート] をクリックします。

## 11.1.6 アラート通知の表示

アラート通知は、BI ラウンチパッドの送信先または購読者の電子メールアドレスに送信することができます。BI ラウンチパッドでは、アラート通知を以下のように表示できます。

- ・ [ホーム] タブで [未読アラート] をクリックすると、最近の未読アラート通知 10 件が一覧表示されます。
- ・ [ドキュメント] タブで [マイドキュメント] ドロワをクリックし、[マイアラート] をクリックすると、アラート通知が表示されます。

[アラート情報] ダイアログボックスには、アラートメッセージや、アラートがトリガされた日時が表示されます。アラート情報を表示するには、次のいずれかのアクションを実行します。

- ・ [ホーム] タブの [未読アラート] で、通知をクリックします。
- ・ [マイアラート] で、アラートタイトルをダブルクリックします。
- ・ [マイアラート] で、アラートタイトルを右クリックして [その他を表示] を選択します。

## 11.2 アラートタスク

### 11.2.1 アラートを購読する

- 1 public フォルダのアラートソースを右クリックして、[購読] を選択します。
- 2 [パブリケーションの購読] ダイアログボックスの [送信先] で、次の操作を実行します。
  - ・ アラート通知をビジネスインテリジェンスシステム (BI ラウンチパッドなど) の送信先に送信するには、[InfoView 受信ボックス] チェックボックスをオンにします。
  - ・ アラート通知を BI プラットフォームのユーザアカウントに対して指定された電子メールアドレスに送信するには、[電子メール] チェックボックスをオンにして、電子メールアドレスが正しく入力されていることを確認します。

### 注

この送信先は、ユーザアカウントに対して電子メールアドレスが指定されている場合に使用することができます。指定した電子メールアドレスが正しくない場合や、電子メールアドレスが入力されていない場合、アラート通知を受け取ることができません。

- 3 アラートのパラメータを指定するには、[パラメータ] で [編集] をクリックして、パラメータ値を変更します。ドキュメントがパーソナライズされている場合、アラートのチェックボックスにマウスを重ねると、パーソナライゼーションの詳細が表示されます。
- 4 複数のドキュメントが [アラート] に一覧表示されている場合、受信する各アラートのチェックボックスをオンにします。  
アラートソースによっては、追加の設定を行う必要がある場合があります。
- 5 [OK] をクリックします。

次回アラートがトリガされると、通知が選択した送信先に送信されます。アラートソースのカスタム設定を指定しない場合、通知は、CMC のアラートの送信先デフォルトを使用して送信されます。

アラート通知の送信先を変更するには、[ドキュメント] タブで [マイドキュメント] ドロウを展開し、[購読済みアラート] をクリックします。アラートソースを右クリックして、[購読の変更] を選択します。また、[その他のアクション] > [購読の変更] を選択して、同じレポートの複数の Crystal レポートアラートに対する購読の変更、または EDBI アラートのパラメータの編集を行うこともできます。

### 11.2.2 アラートを購読解除する

- 1 [ドキュメント] タブで [マイドキュメント] ドロウを展開し、[購読済みアラート] をクリックします。
- 2 購読解除するアラートを右クリックし、[購読解除] を選択します。
- 3 確認を求めるメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

### 11.2.3 他のユーザをアラートの購読者として指定する

- 1 アラートソースを右クリックして、[購読者の管理] を選択します。
- 2 [購読者の管理] ダイアログボックスのナビゲーションパネルで、[受信者一覧] をクリックします。
- 3 新しい購読者を追加するには、次の手順を実行します。
  - a [追加] をクリックします。
  - b [追加] ダイアログボックスで、ユーザおよびユーザグループを [利用可能] リストから [購読済み] リストに移動させます。
  - c [デフォルト購読の追加] をクリックします。
  - d [購読の編集] ダイアログボックスで、必要に応じてアラートおよび送信先オプションを設定します。  
たとえば、購読するアラート (アラートソースに複数のアラートが含まれる場合) を変更することができます。アラートソースによっては、その他の設定も行うことができます。
- 4 購読者の設定を編集するには、次の手順を実行します。
  - a [購読者] 列でユーザを選択し、[編集] をクリックします。
  - b ユーザが受信するアラートを編集するには、[購読の編集] ダイアログボックスのナビゲーションパネルで、[アラート] をクリックし、ユーザが購読する各アラートのチェックボックスをオンにします。

アラートソースに複数のアラートが含まれている場合、各アラートが一覧表示されます。複数のアラートが含まれていない場合、1 つのアラートのみが表示されます。

- c アラートの送信先を編集するには、ナビゲーションパネルで [送信先] をクリックし、アラートの各送信先のチェックボックスをオンにします。

Adaptive Job Server で有効化および設定されている電子メール送信先のみを使用できます。電子メール送信先が設定されていない場合、[マイアラート] チェックボックスのみが表示されます。

- d 使用可能な場合、必要に応じて他のアラートオプションを設定します。  
アラートソースによっては、その他のオプションも使用できます。

- e [保存して閉じる] をクリックします。

- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

## 11.2.4 ユーザをアラートから除外する

グループ内のほとんどのユーザをアラートの購読者として指定するが、一部のユーザを指定しない場合は、アラートからユーザを除外することができます。まず、グループ全体を購読者として指定してから、アラート通知を受け取る必要がないユーザを除外します。

### 注

[除外する] リストは、ユーザのその他すべての購読設定より優先されます。

- 1 アラートソースを右クリックして、[購読者の管理] を選択します。
- 2 [購読者の管理] ダイアログボックスのナビゲーションペインで、[除外リスト] をクリックします。
- 3 ユーザを [利用可能] リストから [除外する] リストに移動させます。
- 4 [保存して閉じる] をクリックします。

## 11.2.5 アラートソースのカスタムアラート設定を管理する

通常、通知はアラートに設定されたデフォルトの送信先設定を使用して送信されます。

- 1 アラートソースを右クリックして、[アラート設定の管理] を選択します。
- 2 BI ラウンチパッドを送信先として選択する場合は、[アラート設定の管理] ダイアログボックスで、[マイアラートの有効化] チェックボックスをオンにします。  
アラート通知は、購読者の BI ラウンチパッドアカウントに送信されます。購読者は、BI ラウンチパッドの [ドキュメント] タブにある [マイアラート] でアラートを表示できます。
- 3 送信先として電子メールを選択するには、[電子メールを有効にする] チェックボックスをオンにします。
- 4 [デフォルト電子メール設定を使用] を選択して、電子メールのデフォルトアラート設定を使用するか、[カスタム電子メール設定を使用] を選択して、必要に応じて次のアクションを実行します。
  - a [差出人] ボックスで、差出人の電子メールアドレスを入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。

- b [宛先] ボックスで、アラート通知を送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。
- c [CC] ボックスで、アラート通知を送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。
- d [BCC] ボックスで、アラート通知を送信する非公開の受信者の電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。
- e [件名] ボックスで、アラート通知の件名を入力するか、[プレースホルダの追加] リストから件名の変数を選択します。
- f [メッセージ] ボックスで、アラート通知の本文のメッセージを入力するか、[プレースホルダの追加] リストからメッセージの変数を選択します。
- g アラート通知に添付ファイルを追加する場合は、[添付ファイルの追加] チェックボックスをオンにします。
- h [ファイル名] で、[自動で生成された名前を使用する] または [指定の名前を使用する] を選択します。[指定の名前を使用する] を選択した場合、ファイル名を入力するか、リストのプレースホルダを選択します。
- i ファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスをオンにします。

**警告**

ファイル名にファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開くことができません。

- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

## アプリケーションの使用

### 12.1 BI ラUNCHパッドにおけるアプリケーションの処理

BI ラUNCHパッドは、リポジトリと以下の SAP BusinessObjects アプリケーションの間の統合ポイントです。

- ・ Analysis edition for OLAP
- ・ BEx Web
- ・ BI ワークスペース
- ・ Crystal Reports for Enterprise
- ・ Web Intelligence

BI ラUNCHパッドでは、アプリケーションを起動し、関連するオブジェクトを作成、表示および編集して、変更または新しいオブジェクトを直接リポジトリに保存することができます。

BI ラUNCHパッドで利用できるアプリケーションと実行できるタスクは、ユーザのアクセス権限によって決まります。アクセス権限はシステム管理者によって割り当てられます。

### 12.2 BI ラUNCHパッドでアプリケーションを起動する

BI ラUNCHパッドでアプリケーションを起動するには、以下の操作のいずれかを実行します。

- ・ ホームタブで [マイアプリケーション] モジュールのアプリケーションをクリックします。
- ・ [ヘッダ] パネルの [アプリケーション] メニューからアプリケーションを選択します。  
選択したアプリケーションが新しいウィンドウで開きます。

### 12.3 BI ラUNCHパッドでの BEx Web アプリケーション

NetWeaver Business Warehouse (BW) の Business Explorer (BEx) に含まれる Bex Web アプリケーションは、データ分析、レポートニング、および分析の各タスクに使用できます。

BEx は SAP NetWeaver Business Intelligence Suite の一部で、ビジネスにおける戦略的分析および意思決定をサポートする柔軟なレポートニング機能と、クエリツール、レポートニングツール、分析ツールを提供します。アクセス権を持つ従業員は、BEx Web アプリケーションを使用して、Web 上および Microsoft Excel にある履

歴データや現在のデータを、さまざまな詳細レベルでさまざまな角度から評価することができます。ユーザは、SAP NetWeaver Portal、または BI プラットフォームの BI ラウンチパッドからデータにアクセスできます。

BI ラウンチパッドから BEx Web アプリケーションを開くには、システム管理者が BI プラットフォームサーバ設定、および BW システムへの接続設定を行う必要があります。BEx Web アプリケーションの作成者は、Web 項目 (分析、フィルタペイン、チャート、マップ、ドキュメントなど) を使用して、BEx Web Application Designer で SAP NetWeaver BW から取得したデータを書式設定します。BI プラットフォームサーバ設定と BW システムへの接続設定が完了したら、ユーザは BI ラウンチパッドで BEx Web アプリケーションを開いてデータをナビゲートし、BEx Web アプリケーションのナビゲート状態をブックマークとしてブラウザのお気に入り保存できます。

BEx Web アプリケーションの機能の詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) にアクセスし、[SAP NetWeaver] > [SAP NetWeaver] を選択します。

### 12.3.1 BI ラウンチパッドで BEx Web アプリケーションにアクセスする

- 1 BI ラウンチパッドにログオンします。
- 2 BEx Web アプリケーションにアクセスするには、次のいずれかの操作を実行します。
  - ・ ホームタブで [マイアプリケーション] モジュールの [BEx Web アプリケーション] をクリックします。
  - ・ ヘッダパネルで、[アプリケーション] > [BEx Web アプリケーション] をクリックします。
- 3 NetWeaver Business Warehouse (BW) システムにログオンします。
- 4 [開く] ダイアログボックスで、BEx Web テンプレートを選択します。

#### 注

データソースが BW マスタシステムに格納されている BEx Web テンプレートだけを選択できます。システム管理者は、BI プラットフォームで BW マスタシステムとして設定する BW システムを定義します。

BEx Web アプリケーションが開き、そこにあるデータをナビゲートできるようになります。

#### 注

インフォメーションブロードキャスティングは、SAP NetWeaver ランドスケープで実行されている BEx Web アプリケーションでのみ使用でき、BI ラウンチパッドまたは BI プラットフォームでは使用できません。インフォメーションブロードキャスティングには、Enterprise Portal やナレッジマネジメントなどの SAP NetWeaver コンポーネントが必要です。

### 12.3.2 BEx Web アプリケーションをブックマークとして保存する

ブックマークを作成する前に、後で使用できるようにブックマークする BEx ナビゲート状態を選択します。決定するには、BI ラウンチパッドの [BEx] タブでデータにナビゲートしてナビゲート状態を選択します。

- 1 BEx Web アプリケーションのコンテキストメニューで、[配布およびエクスポート] > [ブックマーク] を選択します。



**注**

[ブックマーク] オプションは BEx の設定に応じ、コンテキストメニュー内で、またはボタンとして使用できます。

2 ブラウザのお気に入りの中のフォルダに、BEx Web アプリケーションを保存します。

BW システムにログオンした後に、お気に入りに保存した BEx ブックマークにアクセスしたり、ほかのユーザにリンクとして送信したりすることができます。BEx Web Application Designer、Web 項目、および Web Design API コマンドの詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) にアクセスし、[SAP NetWeaver] をクリックします。



## ディスカッションの使用

### 13.1 ディスカッションの使用

#### 注

デフォルトでは、ディスカッションは無効になっています。ディスカッションを使用するには、システム管理者が BI ラウンチパッドのディスカッションを有効化し、ユーザが表示できるオブジェクトと関連するメモに表示権限を割り当てする必要があります。詳細については、システム管理者に問い合わせてください。

ディスカッションを使用して、他の BI プラットフォームユーザに対して、レポート、ハイパーリンク、プログラム、および BI プラットフォームオブジェクトに関するメモを投稿できます。アクセスできるすべてのオブジェクトに対して、メモを追加したりディスカッションスレッドを作成したりできます。関連するメモは、階層形式に整理されます。

適切なアクセス権限のあるユーザは、メモを表示したり、ディスカッションスレッドにコメントを追加したりできます。


#### 13.1.1 [ディスカッション] ドロワを開く



各オブジェクトのディスカッションノートおよびスレッドは、[詳細] パネルの [ディスカッション] ドロワにあります。

- 1 [ドキュメント] タブでオブジェクトを選択し、[詳細] パネルの [く] をクリックします。  
[詳細] パネルが開きます。
- 2 [ディスカッション] ドロワを展開します。  
ドロワに、選択したオブジェクトのすべてのメモとスレッドが表示されます。

#### 13.1.2 メモを追加する

オブジェクトにメモを追加するには、オブジェクトに対する適切なアクセス権限が必要です。

- 1 ディスカッションを開きます。
- 2  をクリックします。

- 3 [件名] ボックスにメモの件名を入力します。  
件名の最大長は、255 文字です。
- 4 [メッセージ] ボックスにメモの本文を入力します。  
メッセージの最大長は、1000 文字です。
- 5 (オプション) メモに非常に重要としてフラグを設定するには  を、あまり重要ではないとしてフラグを設定するには  をクリックします。
- 6 [投稿] をクリックします。

### 13.1.3 メモを編集する



自分で作成したメモを編集できます。ただし、管理権限がない限り、他のユーザが作成したメモやディスカッションスレッド内に返信のあるメモは編集できません。

- 1 ディスカッションを開きます。
- 2 編集するメモを見つけて選択します。
- 3 必要に応じて、[件名] ボックスでメモの件名を編集します。
- 4 必要に応じて、[メッセージ] ボックスでメモの本文を編集します。
- 5 [投稿] をクリックします。

### 13.1.4 メモに返信する


メモに返信するには、そのオブジェクトに対する適切なアクセス権限が必要です。

返信の投稿は、グループ全体に対して行うことも、メモを投稿したユーザに対して行うこともできます。未読のメモは太字で表示されます。

- 1 ディスカッションを開きます。
- 2 返信するメモを見つけて選択します。  
プラス記号 (+) をクリックして、メモのディスカッションの追加レベルを表示します。
- 3 オブジェクトに関連するメモの表示権限を持つすべてのユーザが表示できる返信を投稿するには  を、メモを投稿したユーザ宛てに返信を投稿するには  をクリックします。
- 4 必要に応じて、[件名] ボックスでメモの件名を編集します。
- 5 必要に応じて、[メッセージ] ボックスでメモの本文を編集します。
- 6 [投稿] をクリックします。

### 13.1.5 メモを削除する

他のユーザが作成したメモや、ディスカッションスレッドへの返信が含まれているメモは管理権限がなければ削除できません。

- 1 ディスカッションを開きます。
- 2 削除するメモを見つけて選択します。
- 3  をクリックします。  
メモが削除されます。



## より詳しい情報

情報リソース	場所
SAP BusinessObjects 製品情報	<a href="http://www.sap.com">http://www.sap.com</a>
SAP ヘルプ ポータル	<p><a href="http://help.sap.com/businessobjects/">http://help.sap.com/businessobjects/</a> へアクセスし、[SAP BusinessObjects Overview] サイドパネルから [All Products] をクリックします。</p> <p>SAP ヘルプ ポータルでは、すべての SAP BusinessObjects 製品とそのデプロイメントについて扱った最新のドキュメンテーションにアクセスできます。PDF 版またはインストール可能な HTML ライブラリのダウンロードが可能です。</p> <p>一部のガイドは SAP サービス マーケットプレイスに格納されており、SAP ヘルプ ポータルからは入手できません。ヘルプ ポータルのガイド一覧で、そのようなガイドには SAP サービス マーケットプレイスへのリンクが付いています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。</p>
SAP サービス マーケットプレイス	<p><a href="http://service.sap.com/bosap-support">http://service.sap.com/bosap-support</a> &gt; ドキュメンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インストール ガイド: <a href="https://service.sap.com/bosap-instguides">https://service.sap.com/bosap-instguides</a></li> <li>・ リリース ノート: <a href="http://service.sap.com/releasenotes">http://service.sap.com/releasenotes</a></li> </ul> <p>SAP サービス マーケットプレイスには、一部のインストール ガイド、アップグレードおよび移行ガイド、デプロイメント ガイド、リリース ノート、サポート対象プラットフォームに関するドキュメントが格納されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。SAP ヘルプ ポータルから SAP サービス マーケットプレイスにリダイレクトされた場合は、左側のナビゲーション ペインのメニューを使用して、アクセスするドキュメンテーションが含まれているカテゴリを探します。</p>
Docupedia	<p><a href="https://cw.sdn.sap.com/cw/community/docupedia">https://cw.sdn.sap.com/cw/community/docupedia</a></p> <p>Docupedia は追加のドキュメンテーションリソース、協調的なオーサリング環境、および対話型のフィードバックチャネルを提供します。</p>

情報リソース	場所
開発者向けリソース	<a href="https://boc.sdn.sap.com/">https://boc.sdn.sap.com/</a> <a href="https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary">https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary</a>
SAP Community Network 上の SAP BusinessObjects に関する記事	<a href="https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles">https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles</a> これらの記事は、以前はテクニカル ペーパーという名称でした。
ノート	<a href="https://service.sap.com/notes">https://service.sap.com/notes</a> これらのノートは、以前はナレッジ ベース記事という名称でした。
SAP Community Network 上のフォーラム	<a href="https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums">https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums</a>
トレーニング	<a href="http://www.sap.com/services/education">http://www.sap.com/services/education</a> 弊社では、従来のクラス型の学習から目標を定めた eラーニング セミナーまで、学習ニーズや好みの学習スタイルに合わせたトレーニング パッケージを提供しています。
オンライン カスタマー サポート	<a href="http://service.sap.com/bosap-support">http://service.sap.com/bosap-support</a> SAP サポート ポータルには、カスタマー サポート プログラムとサービスに関する情報が含まれています。また、さまざまなテクニカル情報およびダウンロードへのリンクも用意されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。
コンサルティング	<a href="http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectsconsulting">http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectsconsulting</a> コンサルタントは、初期の分析段階からデプロイメントプロジェクトの実現まで一貫したサポートを提供します。リレーショナル データベースと多次元データベース、接続、データベース設計ツール、カスタマイズされた埋め込みテクノロジーなどのトピックに関する専門的なサポートを行います。



# 索引

## 数字

5 種類 59

## A

ActiveX 37  
Adaptive Job Server 188  
Analysis edition for OLAP 27

## B

BEx Web アプリケーション 199  
    アクセス 200  
BEx ナビゲート状態  
    ブックマーク 200  
BI 起動パッド 11  
BI 受信ボックス  
    スケジュール先 79, 86  
BI プラットフォーム 11  
BI プラットフォームのオブジェクト  
    ディスカッション 203  
    メモ 203  
BI ラウンチパッド  
    アクセス 20  
    基本設定 23  
    パブリケーション結果の表示 179  
    パブリケーションの作成 140  
BI ワークスペース 59  
BI ワークスペース、基本設定 26  
BI アナリストライセンス 13  
BI ビューアライセンス 13  
Business Explorer Web アプリケーション  
    アクセス 200  
Business Intelligence ラウンチパッド 11

## C

CMC  
    パブリケーション結果の表示 179  
CMC タスク  
    アラートワークフロー、Crystal レポート 191  
    アラートワークフロー、イベント 191  
    ジョブの電子メール通知 174  
    パブリケーションの購読 178  
    パブリケーションの購読解除 178  
    パブリケーションの作成 140  
Crystal Reports  
    SAP Crystal Reports viewer 2011 40

Crystal Reports (続き)  
    基本設定 25  
    公開形式 128  
    スケジュール形式 74  
    データベースログオンの設定 170  
    配信ルール 117, 167, 168  
Crystal レポート 59  
    PDF のマージ 133  
    PDF ファイルのマージ  
        書式設定 168, 169  
    アラート 42  
    アラート通知 190  
    印刷 42, 166  
    エクスポート 43  
    形式  
        指定 159  
    書式設定オプション 159  
    スケジュール 67  
    動的受信者ソースのトラブルシューティング 187  
    トラブルシューティング 186  
    ドリル 41  
    パーソナライゼーション  
        パラメータを使用した 157  
        ローカルプロファイルターゲット 158  
    ビューア 35  
    表示 35  
Crystal レポートのエクスポート 43  
Crystal Reports viewer 2011  
    インストール 41  
CSV、スケジュール形式 74

## D

Dashboard と Xcelsius オブジェクト 59

## E

Enterprise 受信者の追加 142  
Excel、スケジュール形式 74  
Excel ファイル 59

## F

Flash オブジェクト 59  
FTP(出力先)  
    スケジュール先 79  
FTP サーバ  
    スケジュール先 86

## J

Java ビューア 38  
Java 仮想マシン 38

## M

mHTML 156

## O

OpenDocument  
    詳細パネルを開く 19  
OpenDocument リンク  
    SAP Streamwork コメントの表示方法 109  
    SAP StreamWork フィード 110  
    作成 56

## P

PDF  
    結合 133  
    スケジュール形式 74  
PDF ファイル 59  
PowerPoint ファイル 59  
PVL 24

## R

Report Application Server 187  
RTF ファイル 59

## S

SAP BusinessObjects Live Office 139  
SAP StreamWork  
    Crystal レポート 111, 112  
    PDF ファイル 111, 112  
    SAP StreamWork タブ 103  
    Web Intelligence ドキュメント 111, 112  
    アイコン 104  
    新しいタブで表示 109  
    インスタンスのコメントの表示 109  
    インスタンスのフィード 108  
    インスタンスのフィードのフォロー 109  
    概要 103  
    カスタムホームタブ 103  
    カスタムホームページの表示 107

SAP StreamWork (続き)  
 コメントの表示  
   OpenDocument リンク経由 109  
 [最新表示]ボタン 105  
 出力先 103  
 使用方法 108  
 スケジュール先 79, 86  
 スケジュールメニュー 103  
 送信メニュー 103  
 縦棒 103  
 [投稿]ボタン 105  
 [ドキュメントのコメント]権限 110  
 ドキュメントのコメントを表示 110  
 ドキュメントのスケジュール 111  
 ドキュメントの送信 112  
 ドキュメントのフィード 108  
 ドロワ 103  
 ドロワオプション 105  
 [発言してください]ボックス 105  
 フィード 108, 110  
 フィードパネル 103  
 フォロー 103  
 フォロー解除 103  
 [フォロー解除]ボタン 105  
 [フォロー]ボタン 105  
 [ユーザが所有するドキュメントのコメント]権限 110  
 [ユーザが所有するドキュメントのコメントを表示]権限 110  
 列、非表示 105  
 列、表示 104

SAP Jam  
 [SAP Jam]タブ 103  
 アイコン 104  
 概要 103  
 カスタムホームタブ 103  
 カスタムホームページの表示 107  
 [最新表示]ボタン 105  
 スケジュール先 79  
 [投稿]ボタン 105  
 ドロワオプション 105  
 [発言してください]ボックス 105  
 [フォロー解除]ボタン 105  
 [フォロー]ボタン 105

SAP Jam の権限  
 ドキュメントのコメント 107  
 ドキュメントのコメントを表示 107  
 ユーザが所有するドキュメントのコメント 107  
 [ユーザが所有するドキュメントのコメントを表示]権限 107

SAP StreamWork ドロワ 105

SAP StreamWork の権限  
 ドキュメントのコメント 107  
 ドキュメントのコメントを表示 107

SAP StreamWork の権限 (続き)  
 ユーザが所有するドキュメントのコメント 107  
 [ユーザが所有するドキュメントのコメントを表示]権限 107

SAP StreamWork 列  
 アイコン 108

## T

TXT、スケジュール形式 74  
 TXT ファイル 59

## W

Web Intelligence ドキュメント 59  
 Excel 形式 31  
 PVL 28  
 基本設定 27  
 形式の指定 171  
 公開形式 128  
 書式設定ロケール 28  
 スケジュール 67  
 ツールバー 45  
 データのドリル 29, 30  
 デフォルトユニバース 28  
 トラブルシューティング 186  
 ドリル 49  
 ナビゲーションマップ 48  
 パーソナライゼーション 171, 172  
 表示 45  
 表示設定 27  
 表示ロケール 28  
 フィルタバー 45  
 変更インタフェース 28  
 ユーザプロンプト 48  
 読み取りインタフェース 27  
 レポートフィルタツールバー 45

Web Intelligence ドキュメントのプロンプト 173

Web ビューア 36  
 ツールバー 36

Web ActiveX ビューア 37

Web Intelligence ドキュメントスケジュールオプション 99

Web Java ビューア  
 Java ビューア 38  
 ツールバー 39

Word、スケジュール形式 74

Word ドキュメント 59

## X

XML、スケジュール形式 74

## あ

アイコン  
 SAP Jam 104  
 SAP StreamWork 104  
 コラボレーション 104

アカウント設定 23  
 パスワード 24

アクセス権  
 SAP Jam 107  
 SAP StreamWork 107  
 公開 133, 137  
 コラボレーション 107  
 ドキュメントのコメント 107  
 ドキュメントのコメントを表示 107  
 ユーザが所有するドキュメントのコメント 107  
 [ユーザが所有するドキュメントのコメントを表示]権限 107

アプリケーション  
 開始 199

アラート 189  
 Crystal レポート 196  
 Crystal レポートでの表示 42  
 アラートソース 190  
 アラート通知との比較 190  
 イベント 196  
 購読 195  
 購読解除 196  
 ソースオブジェクト 194  
 必要な権限 192  
 他のユーザを購読者として指定する 196  
 ユーザの除外 197  
 ワークフロー 191

アラート設定  
 アラートソースの管理 197

アラートソース  
 カスタムアラート設定 197

アラート通知  
 アラートとの比較 190  
 表示 195

## い

一時停止  
 インスタンス 97

一時停止したインスタンス  
 再開 98

一覧パネル 16, 18

イベント 59, 95  
 パブリケーション 175

印刷  
 Crystal レポートパブリケーション 166  
 スケジュール設定 94  
 レポート 42

## インスタンス 99

Crystal レポート形式 72  
 Web Intelligence 形式 72  
 一時停止 97  
 概要 99  
 形式 128  
 再開 97, 98  
 再配布 183  
 出力形式 71  
 出力フォーマット 72  
 送信 55  
 タイトルの割り当て 68  
 表示 99  
 表示、古いインスタンス 34

## インスタンスのフィード

OpenDocument リンクからの購読 110  
 OpenDocument リンクからの購読解除 111  
 OpenDocument リンクからのフォロー 110  
 OpenDocument リンクからのフォローの停止 111  
 新しいタブからの購読 109  
 新しいタブからのフォロー 109  
 購読 110  
 購読解除 111  
 コメントの対象 110  
 参加 110  
 使用 110  
 使用方法 108  
 投稿先 110  
 表示できるユーザ 105  
 フィードパネル 105  
 フォローの停止 111

## インデックスの一時停止 97

## インデックスの再開 97

## う

## ウィジェット 59

## え

## エクスポート形式のオプション 44

## お

## オブジェクト 51

BI 起動パッドに追加 52  
 検索 57, 63  
 コピー 54  
 最新表示 34  
 削除 56  
 作成 51  
 書式設定 72

## オブジェクト (続き)

スケジュール 67  
 送信 55  
 並べ替え 53  
 表示 33  
 フィルタ処理 53  
 割り当て  
   カテゴリに 66  
   フォルダに 66  
 オブジェクトのコピー 54  
 オブジェクトパッケージ 59, 98

## か

会社用カテゴリ 66  
 外部受信者 119  
 [概要]ダイアログボックス、パブリケーション 177  
 カスタマイズされたホームタブ 15  
 カスタムアラート設定 197  
 カスタムホームページ  
   SAP Jam 107  
   SAP StreamWork 107  
   コラボレーション 107  
 カテゴリ 64  
   会社用と個人用 66  
   削除 56  
   プロパティ 65  
 監査通知 175

## き

## キーワード 54

## 基本設定 23

Analysis edition for OLAP 27  
 BI ワークスペース 26  
 Crystal レポート 25  
 概要 23  
 タイムゾーン 25  
 パスワード 24  
 ロケール 25

## &lt;

クエリー 59  
 区切り値、スケジュール形式 74  
 繰り返し発生するインスタンス  
   使用 110  
 グループ選択式 93  
 グループツリー  
   開く 37  
 グローバル配信ルール 168  
 グローバルプロファイルターゲット 171

## け

## 形式 171

Crystal レポート 159  
 mHTML 156  
 Web Intelligence ドキュメント 171  
 パブリケーション 128

## 権限、アラート

インスタンスの表示 192  
 購読 192  
 スケジュール 192  
 表示 192  
 編集 192  
 呼び出し 192

## 検索

オブジェクト 57  
 機能 57  
 混合言語 57  
 コンテンツ 63  
 順位 57  
 テクニック 61

## 検索対象

BI ワークスペース 59  
 Crystal レポート 59  
 Dashboard と Xcelsius オブジェクト 59  
 Excel ファイル 59  
 Flash オブジェクト 59  
 PDF ファイル 59  
 PowerPoint ファイル 59  
 RTF ファイル 59  
 TXT ファイル 59  
 Web Intelligence ドキュメント 59  
 Word ドキュメント 59  
 イベント 59  
 ウィジェット 59  
 オブジェクトパッケージ 59  
 クエリ 59  
 その他のオブジェクト 59  
 ディスカッション 59  
 ハイパーリンク 59  
 パブリケーション 59  
 ファイルの種類 59  
 プログラムオブジェクト 59  
 プロファイル 59  
 分析ビュー 59  
 メタデータ 59  
 ユニバース 59  
 ライフサイクルマネジメントコンソールのジョブ 59  
 ワークスペース 59

## 検索ドロワ 57

## こ

公開 115  
     SAP 統合 139  
     アクセス権 133, 137  
 公開者 137  
 購読 132, 178  
 高ボリュームのパブリケーション 184  
 大容量パブリケーション 116  
 個人用カテゴリ 66  
 コラボレーション  
     アイコン 104  
     概要 103  
     カスタムホームタブ 103  
     カスタムホームページの表示 107  
     [最新表示]ボタン 105  
     出力先 103  
     スケジュール 86  
     スケジュール先 79  
     スケジュールメニュー 103  
     送信メニュー 103  
     縦棒 103  
     [投稿]ボタン 105  
     ドロワ 103  
     ドロワオプション 105  
     [発言してください]ボックス 105  
     フィードパネル 103  
     フォロー 103  
     フォロー解除 103  
     [フォロー解除]ボタン 105  
     [フォロー]ボタン 105  
 コラボレーションの権限  
     ドキュメントのコメント 107  
     ドキュメントのコメントを表示 107  
     ユーザが所有するドキュメントのコメント 107  
     [ユーザが所有するドキュメントのコメントを表示]権限 107

## さ

サードパーティソースドキュメント  
     置換 52  
 サーバグループ 96  
 サーバグループのスケジュール 176  
 最近実行したドキュメント 15  
 最近表示したドキュメント 15  
 最新表示  
     オブジェクト 34  
     静的ソースドキュメントデータ 52  
     ソースドキュメントデータ 116, 186

## し

失敗したパブリケーションの再試行 183  
 指定ユーザライセンス 13

## 受信者

インスタンスの再配布 183  
 動的 119  
 配信ルール 167  
 パブリケーションのパーソナライゼーション 131

## 出力先

スケジュール 86  
 選択 144  
 送信 55  
 電子メール 156  
 パブリケーション 120  
 パブリケーション名 127  
 プレースホルダ 144

## 出力先のスケジュール

場所 79, 120, 145

## 詳細パネル 16

SAP Jam ドロワ 18  
 SAP StreamWork ドロワ 18, 19  
 概要 19  
 [概要]ドロワ 18, 19  
 サイズ変更 19  
 [ディスカッション]ドロワ 18, 19  
 閉じる 20  
 ドロワ 18  
 非表示 20  
 表示 19  
 開く 19

## 詳細パネルを開く 19

## [詳細]ボタン 19

## 使用できるアプリケーション 199

## 書式設定オプション

Crystal レポート 159

## 処理サーバ 186

## 新規オブジェクト 51

## す

## スケジュール 67

イベント 95, 175  
 オブジェクト 67  
 キャッシング 96  
 形式 74  
 形式、インスタンス 71  
 サーバグループ 176  
 出力先の場所 79  
 設定  
     印刷 94  
     サーバグループ 96  
 選択式 93  
 データベースログオン 71  
 パブリケーション 68, 152, 179  
 パラメータ 95  
 フィルタ 93  
 プロンプト 95

## スケジュール オプション

Web Intelligence ドキュメント 99  
 スケジュール中のキャッシング 96

## せ

## 静的ソースドキュメント 116

置換 52

## 選択

Enterprise 受信者 142

## 選択式 93

## そ

## ソース オブジェクト

アラート 194

## ソースドキュメント、トラブルシューティング 186

## その他のオブジェクト 59

[その他を表示]ボタン 15

## た

## タイムゾーン 25

## タブ 15

ピン留め 34

## つ

## ツールバー 16

[詳細]ボタン 17  
 [新規作成]メニュー 17  
 [整理]メニュー 17  
 送信メニュー 17  
 [その他のアクション]メニュー 17  
 [表示]メニュー 17

## て

## 定期的なスケジュールパターン 152

オブジェクトへの割り当て 68

カレンダー 68

スケジュール 68

パラメータ

実行時 68

## 定期パターンオプション 68, 152

## ディスカッション 59

詳細パネル 203

ノートの追加 203

開く 203

フィードパネル 203

メモの削除 205

メモの編集 204

メモへの返信 204

[ディスカッション]ドロー

開く 203

データの最新表示 116, 186

静的ソースドキュメント 52

データのドリル

ドリルオプション 29, 30

データの並べ替え 45

データベース

ログオン、Crystal レポート 170

データベースのフェッチ 116, 177

データベースログオン、指定 71

テストモード 178

デフォルトの Enterprise の場所、スケジュール先 86

電子メール

スケジュール先 79, 86

通知 174

パブリケーションインスタンスのトラブルシューティング 188

パブリケーションコンテンツの埋め込み 156

## と

同時接続ユーザライセンス 13

動的受信者 119

ソース 119

追加 143

トラブルシューティング 187

ドキュメント

BI ラウンチパッドにアップロード 52

ドキュメントタブ 16

一覧パネル 18

コラボレーション列 103

ツールバー 17

ナビゲーションパネル 18

パネル、ナビゲーション 18

ドキュメントのフィード

OpenDocument リンクからの購読 110

OpenDocument リンクからの購読解除 111

OpenDocument リンクからのフォロー 110

OpenDocument リンクからのフォローの停止 111

新しいタブからの購読 109

新しいタブからのフォロー 109

購読 110

購読解除 111

コメントの対象 110

参加 110

使用 110

使用方法 108

投稿先 110

表示できるユーザ 105

フィードパネル 105

ドキュメントのフィード (続き)

フォローの停止 111

トラブルシューティング

失敗したパブリケーション 183

ソースドキュメント 186

電子メールパブリケーションインスタンス 188

動的受信者ソース 187

パブリケーションパフォーマンス 184

ドリル

Crystal レポート 41

Web Intelligence ドキュメント 49

ドリルモード 49

ドロー 16, 18

## な

ナビゲーションパネル 16, 18

[カテゴリ]ドロー 18

[検索]ドロー 18

ドロー 18

[フォルダ]ドロー 18

[マイドキュメント]ドロー 18

ナビゲーションマップ 48

並べ替え

オブジェクト 53

## は

パーソナライズされたプレースホルダ 127

パーソナライゼーション 131

Crystal レポート 157, 158

Web Intelligence ドキュメント 171, 172

パブリケーション 131

パーソナライゼーションなし 131

配信ルール

Crystal レポート 117

グローバル 168

受信者 167

ハイパーリンク 59

作成 57

パスワードの変更 24

パフォーマンス、パブリケーション、向上 184

パブリケーション 59, 115

Enterprise 受信者の追加 142

SAP BusinessObjects Live Office 139

一般プロパティ 140, 141

インスタンスの再配布 183

形式 128

結果の表示 179

購読 132, 178

購読解除 132, 178

最終処理 177

作成

BI ラウンチパッド 140

パブリケーション (続き)

作成 (続き)

CMC 140

実行 152

出力先 120

スケジュール 68, 152, 179

ソースドキュメント 140

ソースドキュメントの追加 141

追加のオプション 173

デザイン 139

テスト 178

電子メールへのコンテンツの埋め込み 156

動的受信者 119, 143

ドキュメントのファイルタイプ 128

名前のパーソナライゼーション 127

パーソナライゼーション 131

配信ルール 117

パブリケーション拡張 132

開く 141

プレースホルダ 131

レポートバースト 116

パブリケーションインスタンスの再配布 183

パブリケーション拡張 132, 173

パブリケーションソースドキュメント

パーソナライズされたプレースホルダ 155

パブリケーションの電子メール送信

パーソナライズされたプレースホルダの使用 127

パブリケーションファイル

パブリケーションのパーソナライゼーション 127

パブリケーション名

パーソナライゼーション 127

プレースホルダ 155

プレースホルダ 127

パラメータ

Crystal レポート 157

スケジュール 95

パラメータ、レポート 42

## ひ

ビジネスインテリジェンスプラットフォーム 11

ビューア 35

新しいウィンドウで開く 35

表示 42

## ふ

ファイル 51

検索 57

並べ替え 53

ファイル (続き)  
   表示 33  
   フィルタ処理 53  
 ファイルシステム、スケジュール先 86  
 ファイル場所、スケジュール先 86  
 フィード  
   OpenDocument リンクからの購読 110  
   OpenDocument リンクからの購読解除 111  
   OpenDocument リンクからのフォロー 110  
   OpenDocument リンクからのフォローの停止 111  
   SAP StreamWork ドロワ 105  
   アクセス 106  
   新しいタブからの購読 109  
   新しいタブからのフォロー 109  
   購読 110  
   購読解除 111  
   コメントの対象 110  
   [コラボレーション]ドロワ 106  
   最新表示 108  
   参加 110  
   使用 110  
   使用方法 108  
   投稿先 110  
   表示できるユーザ 105  
   フィードパネル 105, 106  
   フォローの停止 111  
 フィードパネル 105, 108  
   [コラボレーション]ドロワ 105, 106  
   最新表示 108  
   [最新表示]ボタン 105  
   サイズ変更 19, 107  
   [投稿]ボタン 105  
   [発言してください]ボックス 105  
   表示 106  
   開く 106  
   [フォロー解除]ボタン 105  
   [フォロー]ボタン 105  
 フィルタ  
   オブジェクト 53  
   削除 54  
   パブリケーションデータ 131  
 フィルタによるスケジュール 93  
 フォルダ 64  
   オブジェクトの追加 66  
   削除 56  
   プロパティ 65  
 フォルダとカテゴリ 65  
 複数のプロファイル値 139

ブックマーク  
   BEx ナビゲート状態 200  
 プラットフォーム検索 61, 63  
 プレースホルダ 127, 131, 155  
 プレースホルダの追加  
   パーソナライズ値 127  
 プレーンテキスト、スケジュール形式 74  
 プログラムオブジェクト 59  
 プロパティ 54  
 プロファイル 59  
   プロファイルの解決 176  
 プロンプト  
   スケジュール 95  
 分析ビュー 59

## へ

ヘッダパネル 15, 16, 20  
 編集 42

## ほ

ホームタブ 15

## ま

マージされた PDF ファイル、書式設定 168, 169  
 マイアプリケーション 15  
 マイ受信ボックスの未読メッセージ数 15

## み

未読アラート 15

## め

メタデータ 59

## ゆ

ユーザプロンプト 48  
 優先表示ロケール 24  
 ユニバース 28, 59

## ら

ライセンス  
   BI アナリスト 13  
   BI ビューア 13

ライセンス (続き)  
   指定ユーザ 13  
   同時接続ユーザ 13  
 ライフサイクルマネジメントコンソールの  
   ジョブ 59

## り

リッチテキスト、スケジュール形式 74

## れ

レコード選択式 93  
 レポート  
   BI ラウンチパッドにアップロード 52  
 レポートタブの公開 171  
 レポートの表示  
   新しいウィンドウで 35  
 レポートバースト 177  
   Crystal レポート 116  
   Web Intelligence ドキュメント 116  
   サードパーティソースドキュメント 52, 116  
   静的ソースドキュメント 52, 116  
   セキュリティ 116  
   ログオン認証情報 116  
 レポートビューア  
   Crystal レポート 25  
   SAP Crystal Reports viewer 2011 40  
   Web 36  
   Web ActiveX ビューア 37  
   Web Java 38  
   Web Java ビューア 39  
   Web ビューア 36

## ろ

ローカルディスク  
   スケジュール先 79  
 ローカルプロファイルターゲット  
   Crystal レポート 158  
   Web Intelligence ドキュメント 172  
 ログオン 20  
 ロケール 25

## わ

ワークスペース 59  
 ワークフロー  
   アラート 191